



昭和十八年三月二十五日發行

國際月報

(自昭和十八年二月一日
至昭和十八年二月末日)

第二十七號

情報局編輯

319
323

732

内閣文庫
八五〇四号 冊
和書



319
323

國際月報 第二十七號 目次

—(1)—

大東亞經綸に關する東條内閣總理大臣議會答辯	一
對支方針に關する東條内閣總理大臣議會答辯	三
對ビルマ方針に關する東條内閣總理大臣議會答辯	四
對比方針に關する東條内閣總理大臣議會答辯	五
泰國及佛印の發展に關する東條内閣總理大臣議會答辯	五
對印方針に關する東條内閣總理大臣議會答辯	六
樞軸國關係に關する谷外務大臣議會答辯	八
敵國及斷交國在留同胞に關する谷外務大臣議會答辯	一〇
回教徒に關する谷外務大臣議會答辯(一)	一四
回教徒に關する谷外務大臣議會答辯(二)	一五
回教徒に關する青木大東亞大臣議會答辯	一七
反樞軸側情勢に關する奥村情報局長議會答辯	一八
南方軍政基本方針に關する陸軍當局の指示	三〇

海軍軍政に關する海軍當局の指示 四四

ガンジー翁の斷食に關する奥村情報局長一問一答(要旨) 五三

ガンジー翁の斷食闘争を繞る印度危局に關する堀情報局長三部長談 五六

協力的印度人に對する取扱に關する情報局發表 五七

協力的印度人に對する取扱に關する大藏省發表 五八

最近の國際情勢(カサブランカ會談と其の後)——堀情報局長三部長放送講演—— 五九

在支敵産移管に關する情報局發表 六九

治外法權撤廢專門委員會委員、專管租界還付實施の爲めの委員任命に關する情報局發表 六九

天津及廣東兩英租界行政移管に關する帝國政府聲明 七一

佛國の在支租界還付及治外法權撤廢聲明に關する堀情報局長三部長談 七二

友好及文化的協力に關する日本國ブルガリア國關係約締結に關する情報局發表 七三

友好及文化的協力に關する日本國ブルガリア國關係條約 七三

日米交渉と米英の策謀——來栖大使講演—— 七四

レンネル島沖海戰戰果に關する大本營發表 八六

レンネル島沖海戰戰況に關する嶋田海軍大臣議會報告 八七

イサベル島、ニュージョージヤ島、カントン島方面海軍戰果に關する大本營發表 八九

南太平洋方面戰況に關する大本營發表 八九

南太平洋方面戰況に關する政府委員報告 九一

イサベル島沖海戰戰果に關する大本營發表 一〇五

帝國潜水艦濠洲東岸に於ける戰果に關する大本營發表 一〇六

ソロモン群島及ニューギニア島方面未發表戰果に關する大本營發表 一〇六

ソロモン群島方面、西南太平洋方面、アリニューシヤン方面敵空軍擊滅戰果に關する大本營發表 一〇八

帝國海軍航空部隊のソロモン群島方面敵輸送船團攻撃戰果に關する大本營發表 一〇九

帝國陸海軍部隊廣州灣佛國租借地進駐に關する大本營發表 一〇九

ニューヘブライズ諸島、エスピリツ・サント島戰果に關する大本營發表 一〇九

國 際 時 報

重慶政權の窮狀と對米英不滿 一一一

米國武器貸與法の實績とその更新 一一八

通商破壊戰の激化に伴ふ米英の苦惱 一二六

各國動向

【米國】

—軍事—

- レンネル島沖海戦發表……………一三二
- チュニジア方面米軍慘敗……………一三二
- 陸軍長官チュニジア敗戦自認……………一三三
- 人事異動……………一三三
- 大統領領海軍副官に任命……………一三三
- 陸軍黒人部隊の現状……………一三三
- 戦費一日二億二千二百萬弗……………一三四
- 現地修理用浮船渠建造……………一三四
- 標準型水雷艇性能……………一三四
- 射程三萬呎の速射高角砲公開試射……………一三四

—外交—

- 爆撃機製作時間短縮……………一三四
- 今年度徴兵計畫……………一三五
- 女子海兵團員募集開始……………一三五
- アラスカ軍用公路輸送力七萬噸……………一三五
- 「カサブランカ會談の本質は軍事的」……………一三五
- ルーズヴェルト大統領記者團に説明——……………一三五
- アノルド重慶及印度訪問……………一三六
- 對キューバ軍事協定成立……………一三六
- 南中米諸國に經濟專門參事官派駐……………一三六
- 銅生産合同委員會設立……………一三六
- 潜水艦八隻對伯讓渡……………一三七
- 下院武器貸與法更新案可決……………一三七

—一般—

- リンカーン記念日に際し……………一三七
- 大統領對樞軸反攻を呼號……………一三七
- 恐日傾向増大……………一四三
- グイス委員會存續可決……………一四三
- 検閲制度強化……………一四四
- 戦時生産局第七回月次報告……………一四四
- 一月中商船進水百十隻……………一四六
- 原料資材の不足深刻……………一四六
- 人造ゴム生産滞滯……………一四七
- 鐵鋼業不振の三原因……………一四七
- 平和産業従事者に轉業要求……………一四八
- 一週四十八時間労働令發布……………一四八
- 邦人二世一萬を農業に動員……………一四八
- 果物罐詰にも割當制……………一四八
- 短靴に割當制……………一四九

【英國】

—軍事—

- チェダー・チーズ一般賣出禁止……………一四九
- 民需用紙制限強化……………一四九
- 皮革製品の製造制限……………一四九
- 徵用學校數二百八十一校……………一五〇
- 物價騰貴顯著……………一五〇
- 國民の納稅促進に政府大章……………一五〇

—外交—

- 北阿中東方面英軍首腦部新陣容……………一五二
- アレキサンダー大將前線出動……………一五三
- 北阿英空軍、米空軍に合流……………一五二
- 潜水艦搜索用艦載機性能……………一五二
- チャーチル首相ロンドン歸着……………一五二

チル元帥重慶及印度訪問……………一五三
 シーモア駐重慶大使歸任……………一五三
 バルカン方面英ソの確執表面化……………一五三

— 一般 —

九ヶ月以内に大規模攻勢實施
 ——チャーチル首相下院に報告——……………一五三
 ビーヴァリツヂ案討議で議會騒然……………一五八
 労働黨共產黨の加盟中入拒絶……………一五九
 軍需關係婦人労働者八百六十七萬人……………一五九
 労働罷業増加……………一五九
 出産率低下……………一五九
 通商破壊戦への危惧深刻……………一六〇
 チャーチル首相ガンヂー翁釋放拒絶……………一六〇

【ドイツ】

スターリングラード戦闘終結發表……………一六一

【イタリア】

ロストフ撤収發表……………一六一
 ハリコフ撤退發表……………一六一
 宣傳相全國民の奮起要望……………一六一
 「全歐の精神的物質的總動員を斷行」
 ——ヒトラー總統立憲大會布告——……………一六八
 國防軍幹部昇進……………一七二
 機甲部隊總監任命……………一七二
 一、二月通商破壊戰戰果……………一七二
 國力總動員令布告……………一七三
 軍事上の旅行以外禁止……………一七四
 獨逸經濟協定調印……………一七四
 リツベントロツプ外相訪伊……………一七四
 「内外の情勢は前大戰より遙に有利」
 ——ベオバハター紙論說要旨——……………一七五

内閣改造……………一七八
 チアノ前外相法王廳大使に就任……………一七九
 陸軍、農林、逓信次官更迭……………一七九
 下院新委員長任命……………一七九
 戦時徵用令公布……………一八〇
 國際競技を禁止……………一八〇
 對瑞通商協定調印……………一八〇
 駐西、土大使任命……………一八〇

【ソ聯邦】

スターリングラード戦闘終結發表……………一八一
 ロストフ奪回發表……………一八一
 ハリコフ奪回發表……………一八一
 ヴァシレフスキー大將元帥に昇進……………一八一
 軍事委員團着米說否定……………一八一
 スターリン最高司令官布告……………一八一

【フランス】

人民委員更迭……………一八二
 カゴノウイツチ復活……………一八二
 在華治外法權撤廢並に租界返還……………一八二
 國民會議改組……………一八二
 強制労働法公布……………一八三
 國內境界線撤去……………一八三
 フェナール將軍國籍褫奪……………一八三
 銀行業績……………一八四
 穀物供出狀況……………一八四

【滿洲國】

萬壽節御儀……………一八四
 全滿省長會議……………一八五
 國軍參謀長會議……………一八五

【中華民國】

全國軍事會議開催	一八五
全國軍事會議汪主席訓示	一八五
全國軍事會議宣言發表	一八六
清鄉委員會副秘書長に唐中將	一八七
和平反共三角旗撤去	一八七
參戰記念行事辦法公布	一八七
國府戰時經濟政策綱領	一八七
勳章制定	一八七
中國青少年團總章公布	一八九
敵産移管發表	一八九
敵産移管に關する諸外交部長談	一九〇
華北の移管敵産七百四十九件	一九〇
敵産管理委員會第一回會議	一九一
諸外交部長佛大使に謝電	一九一
駐滿大使更迭	一九一
滿洲各地に領事館新設	一九一
人事異動	一九二
朱深華北新委員長就任	一九三
朱深新委員長略歴	一九四
朱委員長施政方針發表	一九四
華北政務委員會新陣容發表	一九五
【重慶政權】	
何應欽反樞軸軍將領會議に出席	一九五
——米英代表と對日作戰協議——	一九五
皇軍の廣州灣進駐に狼狽	一九六
顧維鈞夫人重慶援助を哀訴	一九六
魏道明駐米大使援蔣積極化要望	一九六
宋美齡米國朝野に武器援助嘆願	一九七
宋美齡引續き重慶援助泣訴	一九七
宋子文對重慶飛行機供給を力説	一九七
遣米軍事使節熊式輝一行訪英	一九七

熊式輝對米英不滿吐露	一九八
傅秉常駐ソ大使赴任	一九九
文化使節團着印	一九九
【タイ國】	
特別議會停會のまゝ終了	一九九
新首都見取圖完成	二〇〇
秈米最高價格決定	二〇〇
製紙業統制法を公布	二〇〇
【比島】	
「解放者日本に最大の協力を捧げよ」	二〇一
——ヴァルガス行政長官檄文發表——	二〇一
第三回地方長官會議	二〇三
——マニラ市長新比島建設決意披露——	二〇三
【印度】	
ガンヂー翁斷食開始	二〇六
ガンヂー翁無條件釋放動議可決	二〇六
——ボンベー、ベンガール兩州立法會議——	二〇六
印度政廳ガンヂー翁釋放を拒否	二〇六
三閣僚辭任	二〇六
印度各派代表ガンヂー翁釋放要求決議	二〇七
——チャーチル英首相宛打電——	二〇七
ガンヂー翁容態	二〇七
明年度歳出二五億ルピー	二〇七
印度及セイロン島ゴム年産額	二〇八

【ブルマ】

【濠洲】

民軍遺外案成立……………二〇八

増税案議會提出……………二〇八

看護婦に登録制……………二〇八

米商品に最惠國待遇……………二〇九

高等辨務官を交換……………二〇九

【ニュージールランド】

國防相訪米……………二〇九

昨年度戦費一億七千五百萬磅……………二〇九

海空軍基地を米國に提供……………二一〇

【南阿聯邦】

義勇軍國外派遣案議會通過……………二一〇

【カナダ】

陸海空軍兵力六十萬……………二一〇

對ソ援助実績……………二一〇

【アルゼンチン】

大統領公認候補はコスタス上院議長

——カステイリョ大統領言明——……………二一一

「後繼者も中立維持を誓約せよ」

——カステイリョ大統領聲明書發表——……………二一一

共産黨取締強化……………二一一

【チリ】

内閣改造……………二一一

【ブラジル】

反樞軸國同盟條約參加……………二一二

アラニア外相對日關係言明……………二一二

米洲外兵力派遣に同意……………二一三

海軍豫備兵召集……………二一三

【ベル】

大西洋憲章加入……………二二三

米秘軍事協定確認……………二二三

【パラグアイ】

モリニゴ大統領再選……………二二三

【ウルグアイ】

グアニ外相歸國……………二二三

新内閣成立……………二二四

【ヴェネズエラ】

大西洋憲章加入……………二二四

【スウェーデン】

動員令一部緩和……………二二四

陸相一行歸還……………二二四

一九二二年生れ全男子召集……………二二五

港灣施設大擴張……………二二五

西葡貿易協定成立……………二二五

【ポルトガル】

國防軍司令官任命……………二二六

産業動員令公布……………二二六

【スエーデン】

在營期間延長……………二二六

瑞諾通商協定締結……………二二七

【フィンランド】

リネ大統領再選……………二二七

内閣總辭職……………二二七

一九四二年度歳出二百六十億マーク……………二二七

【トルコ】

新年度豫算發表	二二八		
首相中立政策闡明	二二八		
大統領中立堅持聲明	二二八		
獨大使暗殺未遂事件處刑確定	二二九		
土、洪通商協定調印	二二九		
土、羅パーター協定成立	二二〇		
		内閣總辭職	二二〇
		新内閣成立	二二〇
		ソヘイリ新首相施政演説	二二〇

【イラン】

大東亞經綸に關する東條内閣總理大臣議會答辯

—於衆議院豫算委員會—

昭和十八年二月八日

大東亞建設の指導精神は實に三千年來の肇國の大精神にあるのであります。帝國の此の崇高なる指導精神に付きましては、他の國家、他の民族をして之を正しく理解せしむると云ふことは中々むづかしいことであり、一朝一夕の業ではないと存するのであります。が併し總ての者が根氣よく、時日を以て努力を重ねて参りますれば、必ずや成る日は來るものと私は確信するのであります。政府は此の上とも此の確信の下に大東亞の建設に邁進致す所存であります。

更に附加へて申上げて見たいと思ひますことは、大東亞省の設置、此の精神も實は茲に發するのであります。即ち大東亞地域に包含せられる所の獨立國、又占領治下に於ける所の諸民族、是等は此の大東亞戰爭の開始と共に其の性質は一變をしたのだらうと思ふのであります。即ち日本と實に是等の諸國は血が通つて居るのである、兄弟であり、親子であり實に大きな血が通つて居るものと私は信じ、其の精神の上に立つて諸施策と云ふものは講じられなければならない、外交上の儀禮等に付きましては別問題と致しまして、是等の諸國と附合ふ上に於きましては他人行儀では相成らぬ、何處までも親類附合ひ以上兄弟附合ひでなければならぬと思ふのであります。其の精神は何れも先程



申しました精神から来るのであります。是等の國が日本と話をするに何も表支關から常に来る必要はない、是は他人行儀である、例へば自分の家庭に於きましても明瞭である如く、自分の家に子供が學校から歸つて來るのに表支關からベルを押して名刺を出して歸る子供は一人も居ない、今歸りましたと言つて、下駄を脱いで、泥足で上つて來て母に抱き付く、是が親子である、是等の吾々の兄弟であるべき獨立國と云ふやうなものが日本と附合ふのに、支關からベルを鳴らして、名刺を出して、左様然らばで來るやうな、さう云ふ水臭い考へは私は持ちたくないのみならず、さう云ふ水臭い考へで行くべきでないと言ふ信念の上に立つて居るのであります。即ちそれは只今申しました此の八紘爲宇の御精神、是の上から申しまして、今私の申しました如き至誠あるべきである、斯う云ふ信念であります。大東亞省設置の根本の精神も實は其處にあるのであります。併しながら先程申しました如く、是等の所謂八紘爲宇の御精神、更に私は哲學者でないから知りませぬけれども、兎に角徳を樹つること洵に我が國は深厚である、而して御勅語にも明示せられるが如く、「古今ニ通シテ謬ラス之ヲ中外ニ施シテ悖ラス」と仰せられる、是れ即ち八紘爲宇の御精神其の本は所謂徳にある、是は今あなたの言はれた通りであらうと思ふのであります。徳を以て臨んで、而して究極に於て之に共鳴せざる人類はないと思ふのであります。併しながら唯ヨーロッパ諸國の如く、或はアメリカ諸國の如く、唯物的に深く教育された所の人には中々頭に入りにくい、之に感染した所の、從來是等から彈壓され、搾取せられたる所の民族に對して、此の精神を注入すると云ふことは中々難かしいだらうと思ふ。併しながら先程申しましたる如く根氣好く事實を以て之を示し、努力して行く、又是は政府ばかりでなくして、日本全國民が今申しました精神に於て是等の諸國の人と附合ひ、而してあなたが今例を以て御示しになる如く、支那なら支那の有力な人に凡少

る機會に此の精神を説き、さうして之を導いて行くならば、究極に於て必ずや分つて呉れる日がある、斯う私は固く信ずるのであります。

對支方針に關する東條内閣總理大臣議會答辯

— 於衆議院豫算總會 —

昭和十八年二月四日

支那事變に關する處理、是は昭和十六年十二月八日、即ち對英米戰の御開戦の御決意と共に變つて來て居るのであります。それは何處が變つて來て居るか。一方支那に於ては、膺懲の意味の戦さをやつて居ります。さうして重慶をすつかり壓迫して、之を叩き付けて、之に反省を求め、が併し大東亞戰に突入するまでは、何を言つても支那に於ける英米の存在と云ふことは、是はとも一から十まで無視することは出來ない、成べく出て行つて貰ひたいと云ふ希望はありますけれども、兎に角まだ英米とは戦さをして居ないので、英米の勢力と云ふものは、支那に置かれて居る、それでありますから、支那事變の處理と云ふものも其の考慮を常に置いて處理して行かなければならなかつた。が併しながら十六年十二月八日を契機として、そこは一變した、今度は大びらに支那の全土からぢやない、大東亞の全區域から英米の勢力を皆驅逐してしまつて、是ははつきりした態度で進み得る、其の點は非常に變つて居るのであります。が併しながら支那其のものを處理すると云つては、是は支那の人が怒りますが、支那其のものをどう取扱つて行くかと云ふ此の根本觀念、是は實は今日に於ても變らぬと思ふのです。即ち吾々は何時も言ひますやうに、兄弟だと思つ



て居る、自分の親戚だと思つて居る、自分の弟だと思つて居るのです。是は何としてでも悪い所は反省さして、さうして是と一體になつて行けるやうに歩いて行きたい、是はもう戦争があるなしに拘らず變らない、参戦、是は英米に對する参戦である、支那其のものに對する根本觀念に於ては變らない。(拍手) 但し蔣介石は違ひますよ、あれは支那人ぢやない、英米人です。是は違ひますけれども、あとの支那人は兎に角何とか一緒になつて行けるやうに觀念として行きます。然らば支那に於ける所の戦ひ、是はなくなるかと云ふとさうは行かない、是は子供に對して尻べたを叩く場合もあるし、頭を撫でる場合もあらうが、頭を撫でるのも、尻べたを叩くのも、皆愛から始まつた大きな仕事なんです。即ち今日支那に於て大きな戦さをやつて居ると云ふことは、是は愛の一つの大きな現はれである。根本の支那に對する所の感じと云ふものは、觀念と云ふものは、今日に至つても變らない。唯變つたのは、先程申しました昭和十六年十二月八日を契機として大びらに英米の勢力を皆驅逐してしまふ、此の點だけは明確に變つて居ります。

對ビルマ方針に關する東條内閣總理大臣議會答辯

— 於衆議院豫算總會 —

昭和十八年二月四日

ビルマの獨立と云ふ點に付きましては、もう明確なる帝國の態度を表明をして居ります。而してビルマの獨立を完成すると云ふ點に付きまして、日本が軍事的にも經濟的にも技術的にも出来るだけの援助を之に與へて、獨立を完成させて行くことに協力をすると云ふことは當然であります。

對比方針に關する東條内閣總理大臣議會答辯

— 於衆議院豫算總會 —

昭和十八年二月四日

フィリピンに對しましては先般本會議に於て申上げました如く、帝國の眞意を諒解し大東亞共榮國建設の一翼として協力した場合には、帝國は欣然として彼等に獨立の榮譽を與へんことを聲明致して居る、之を重ねて先般の議場に於て、私は帝國の態度を宣明致したのであります。而して又フィリピンに於ての現在の事態はどうか、新しき指導者即ちヴァルガス長官の下に帝國に對する協力の誠意大いに見るべきものがある、是は認めて居る、又治安の回復も逐次向上しつつある、併しまだ私は治安の回復は完全なりとは認めて居りませぬ。逐次向上しつつある、是は洵に頼もしい限りである、斯う言つて居るのであります。それで私はフィリピンが更に積極的な協力を示して、斯くしてフィリピンの獨立が成べく速かなる時機に於て實現せんことを衷心から期待をして居る、政府は此の態度を明確にして居るのであります。

泰國及佛印の發展に關する東條内閣總理大臣議會答辯

— 於貴族院豫算總會 —

昭和十八年二月十七日

タイ國が多年に亙る米英の桎梏から離脱を致しまして、獨立國としての權威を完うし、帝國と志を同じうして米英

撃攘の大戦争に参加致して居りますことは、是は帝國の朝野を擧げて敬意を表する所であります。帝國と致しましては、タイ國の獨立を尊重するは勿論タイ國の興隆を心から希望し、軍事、政治、經濟、文化の各分野に互りまして、タイ國の發展に協力を惜しまぬものであります。佛印又複雑機微なる世界情勢に對處致しまして、帝國に協力の態度を示して居りますことは、是亦帝國の敬意を表する所であります。抑、帝國の大東亞に於ける是等諸國に對する態度は、終始一貫、我に協力せむとする者に對しましては、誠心誠意を以て之に對應し、積極的に出來得る限りの援助を惜しまぬものであります。併しながら米英の願使に甘んじて、我が眞意を解せず、我が高遠なる理想の實現に協力せざる者に對しましては、是はもう斷乎たる處置を執ることは改めて申上げる迄も無いと思ひます。以上のやうな趣旨の下に、政府としては總ての處理を講ずる次第であります。

對印方針に關する東條内閣總理大臣議會答辯

—於衆議院豫算總會—

昭和十八年二月四日

インドに對します帝國の態度に付きましては既に施政演説に於きまして私から申述べた通りであります。帝國がインドに對して領土的野心のないと云ふことは勿論、其の本然の姿に還さんと努力して居ることは今次戦争の目的に對しましても明かでありませぬ。のみならず敵側は色々な宣傳を致します。帝國の八紘爲宇の御精神に基いて此の堂々たる行爲、是は敵として最も痛い、痛いからそれに觸れぬやうに、それを破壊するやうに、なれば領土的野

心があるのだと斯う宣傳をする、併しながら事實は明確に證明して居るのであります。即ち立派なる滿洲國の獨立國としての存在、是は何と見る、支那はあれだけの作戦行爲をし、さうして今や南京政府を盛立てて、さうして正常なる發達を庶期して居る、是亦大きな事實であります。又タイに對しましてもタイの獨立と云ふことを尊重し、其の領土を保證し、さうしてタイも安心して日本と協同作戦をして居る事實を一體何と見る、又あれだけの戦闘をしながらいルマに對しましては御存じの通り帝國の態度は開明にして居ります。此の事實を一體何と見る、フィリッピンに對しましても是は煮ても焼いても食へる姿勢にあるのであります。併しながらフィリッピンが日本の施策に協力して來るならば、此の獨立は努めて是が早きを期待するのであると云ふ態度を今日表明して居る、之を一體何と見る、即ち領土的野心とかそんな小さい考へを持つて居らぬと云ふことは事實が證明をして居る、此の事實は着々として今日大きな日本の政策として立派に表明されて來て居るのであります。之を何として英米側が糊塗しようとしても糊塗出来ない事實に現在置かれて居るのである、之を世界は胡麻化さうたつて胡麻化し得ないのであります。又日本が斯うやると言つた以上はやることは事實に於て之を證明して居るのであります。如何なる宣傳をしようとも、眞の事實は宣傳を破壊して行くものと私は考へて居るのであります。要するに御尋ねのインドに對しましては、繰返しまするが、日本と致しましては領土的野心がないのみならず、其の本然の姿に還さんと吾々は努力して居るのであります。そこはつきり申上げて置きます。

樞軸國關係に關する谷外務大臣議會答辯

—於衆議院豫算總會—

昭和十八年二月五日

樞軸國、即ち日獨伊關係に付て色々流説があり、殊に收ける國は宣傳が上手だと云ふことでありましたが、洵に其の通りで、樞軸國の敵である米英は此の點に付ては御説の通りであります。随ひまして彼等の放つて居る色々流説の因になつて居ると云ふことは私も承知致して居ります。先づ其の謂はれなきことに付きまして日獨伊の關係から申上げますと、只今池崎さんからは或は佛印、或は蘭印の問題等に付て自分は言はないがと言はれたのでありますが、さう云ふ點を私が進んで申上げますれば、結局日本は佛印に對しても、蘭印に對しても利己的の考へを持つて臨んで居る、而して大事な與國の利益を顧みない國であると云ふことが、敵方流言蜚語の原因になつて居るのであります。然るに帝國が根本の外交政策と致しまして、飽くまでも榮國の精神に則つて、實に帝國が自存自衛を全うするのみならず、與國も亦レーベンスラウムを全うする、否世界全體が日本の理想の行はれるやうな世界になりたくいと云ふのが日本の大理想でありまして、此の點に付ては何等宣傳も何もないのであります。私共は外交施策を行ひますに當りまして、絶えず此の點に留意して、實際具體的問題に當つて居る譯であります。又情報局總裁と致しましても他に執るべき途はないのであります。而してそれでは一體どう云ふことをして居るか云ふ問題になるのであります。是は先づ

イツと日本との間に於きましては、さう云ふ誤解が侵入する暇がないやうに、絶えずベルリンに於きましても、東京に於きましても當局の間に親しく戦局の推移に付て話合を續けつゝあります。而して其の幾多の話合の手續はありましたが、此の際總てを申上げることの出来ないのは、池崎さん御諒承のことと思ひます。唯一つ先月の二十日に締結致されました所の日獨——後で申します日伊のことも同じであります。日獨經濟協定は其の一つの大きな現はれであります。既に一月二十日に發表致し、又議會に於ても私の演説中に、相當詳細に其の意義及び其の使命を言及して置いたのであります。斯様に致しまして戦局が重大になつて來れば來る程、日獨の關係は極めて頻繁に、而も打明けて話をせねばならぬ状況になつて居ります。同時に又其の通りに私は實行して居るのであります。今朝のスターマーの聲明に日獨の關係を極めて親密にして行かなければならぬ、又自分は之に對して全幅の信頼を持つて居ると云ふ意味を申して居りますが、是が纏て帝國政府の執つて居る態度の反映とも見るべきものと私は確信致して居ります。

次に日伊の關係であります。日伊の關係も亦三國同盟の關係から致しますれば同様であります。其の間色々流言蜚語、又反間苦肉の策動に對しましてやつて居ります外交施策の大綱は、殆ど同工異曲であります。唯イタリアは地理的境遇、其の色々點から敵側は之を奇貨とし、此のイタリアの脱落を狙つて盛んに宣傳工作をやりましたことは、過日他の席に於て申した所であります。それは事實であります。併しながらイタリアと致しましては、賢明なるムソリーニの指導の下に、今日此の日獨伊の大事なる同盟關係から離脱した場合には、是れ即ち自國の破滅であると云ふことに付きましては、指導者も國民も皆一致して自覺して居ります。然るのみならず、日獨に於きましてもイタリアとの提携に付ては絶えず苦心し、此の席では申上げ兼ねますけれども、具體的に色々措置を講じて居り

ます。先程日獨の場合申上げました経済協定の如き、日伊の間にも存在するのであります、斯う云ふ關係から致しまして私はイタリヤが三國關係から離脱することは絶対に信じて居りませぬ。

敵國及斷交國在留同胞に關する谷外務大臣議會答辯

—於貴族院—

昭和十八年二月四日

敵國及斷交國在留同胞に關しましては、其の安否に付きまして、政府と致しましては常に心配して居るのであります、只今丸山君から此の點に付きまして、詳細御調になり、實に同情に溢る、御所見竝に御質問がありまして、政府と致しましては誠に感謝に堪へませぬと同時に、之を傳へ聞きます海外同胞は、如何ばかり喜ぶかと存する次第でございます。大東亞戰爭勃發に依りまして、敵國又は斷交國に於きます同胞が、多年粒々辛苦の結果を一朝にして奪はれ、其の將來に付きまして不安を感じざるを得なくなつたのみならず、或は抑留せられ、或は強制的に移住を命ぜられました、種々辛酸を嘗め盡して居ります模様は私も御同様心痛致して居る次第でございます。顧みますれば、開戦と同時に、米國、英帝國及蘭領印度に於きまして、在留同胞を多數檢束致したのでございますが、米國に於きましては、其の後も引續き檢束をして居りまして、カナダと合せますれば、十二萬の同胞は太平洋沿岸から強制的に奥地に退去を命ぜられ、悲惨なる生活を送つて居ることは、只今丸山君から御話になつた通りでございます。強制退去命令が、實に國際法違反なるのみならず、非人道的行爲であると云ふことは勿論でありまして、政府は之に對し嚴

重抗議を致して居るのでございます。又數十の在敵各地の收容所に於きましては、設備待遇等極めて悪い場所もございます。又檢束移動の際、取扱振りの不當なる點もありましたので、之に對しましてもそれ／＼スイス、スペイン、スウェーデン等の我が利益代表國を通じて、屢次抗議を提出して居るのでございます。其の結果是等諸國に於きまする取扱振り及待遇は多少とも改善せられた點があるのでございます。政府と致しましては、今後一層注意を拂ひまして、今後とも抗議すべきは抗議し、敵側の反省を促しまして、正義人道に反したる取扱に對しましては、有らゆる方法を以て是正したいと考へて居る次第でございます。御尋の第一の點に付きましては、現在各抑留所別に、我が利益代表國及赤十字國際委員から種々情報を得て居りますので、之に依りまして抑留者の名簿を作成し、其の安否を確知するに資して居るばかりでなく、抑留者の移動に付きましては、色々情報を纏めまして新聞に發表して居りますことは、御承知の通りでございます。更に抑留所には、我が利益代表國及赤十字國際委員會、ローマ法王廳の代表者が親しく之を視察しまして、其の報告を我が政府に送付して居る實情でありまして、博愛精神の發露とは申しながら、赤十字國際委員會及ローマ法王廳の努力は誠に多とせねばならぬのであります。尙我が利益代表國が注意を怠らず、適當に我が方の要求に應じて働いて呉れて居りますことに付きましても、此の際私は感謝の意を表したいと考へるのであります。尙利益代表國出先各官が、我が方事務の爲に増員をせねばならぬと云ふやうな場合に付きましては、其の手不足の代表國公館には補助員を置くやうに夙に申送つて居るのでございます。此の點に付きましては、政府は交戦國及斷交國に於きます在留民の利益保護の爲に、利益代表國に交付すべき經費と致しまして、昭和十七年度追加豫算に於きまして金二百五十三萬圓を、又昭和十八年度豫算に於きまして金一百萬圓を計上致して居る次第ござ

います。第二の困窮者のことに付しましては、抑留者又は集團生活者は、一應衣食住には事欠かないことになつて居りますが、抑留者の家族又は抑留せられて居ります者の中には、生業其の他に對する制限等に依りまして、時日の経過するに連れ、相當困窮者を生ずる虞もございますので、政府と致しまして、折角對策考案中でありまして、之に要する經費も昭和十八年度に於きまして、是から申上げます第四の點と併せて適當の措置を講じて居るのでございます。丸山君の最も重きを御置きになりました敵國又は斷交國にある邦人の將來のことに付しましては、政府に於きましても絶えず考慮を拂つて居るのでありまして、之を將來守り立てる爲に必要なことをすることが大事であると云ふことを痛感して居る次第であります。従ひまして其の一例と致しまして、本年元旦に際し、被抑留者達の各收容所に宛てまして、赤十字國際委員會を通じて、年賀の辭を、私と全國民の名に於て送りましたる處、之に對して謝電を寄せたのであります。在留同胞の心の裡が自ら酌み取られる次第でございます。他方聞く所に依りますと云ふと、抑留所にある者のみに止らず、在留邦人は苦難の中にも隠忍自重し、戦後再起を決意して居るやうに察せられるのであります。政府と致しましては、右のやうな事情に鑑みまして、是等苦難にある所の同胞を出來得る限りの手段を以て力を附けたいと考へて居るのであります。又是等同胞の粒々辛苦の結果に對します其の築き上げたる所の財産又は無形の損害に對しましては、極めて同情を表して居るものでありまして、其の再起の爲には、敵國より補償を取りますことは固より、其の他適正なる措置に依りまして彼等の復興に付て萬全の策を講ずる堅き決意を持つて居ります。第四の内地關係者の救済は、在外邦人家族の中、本邦に在住し送金に依存して生活して居た者、特に老齡者、學生、婦女子の如き、其の救済を要すべきものと認められます者に對しましては、適切なる措置を執る方針を以ちまします。

て、之が爲に糺に申述べました所の第二の救済費と合せて、昭和十八年度の豫算に於きまして、在外居留民其の他救済費として金二百萬圓を計上した次第でございます。尙右豫算額にしまして不十分であるやうな事態がはつきり致しました場合には、政府と致しましては臨機適切なる措置を講ずる意向でございます。以上の救恤に當りましては、政府は内外共に從來より特に協力を得て居ります所の日本赤十字社、其の他對外關係諸團體の協力を、此の上とも要望して已まない次第でございます。第五の今後の居留民、民間の邦人に付きましては、それ／＼相手國との交渉は繼續中でありまして、事情が許すならば、成るべく速かに實施致したい考でありまして、何時にても交渉が纏ります次第之を實行すべく、折角其の準備を進めて居る次第でございます。第六の我が支配下に於きます敵國人の取扱に付きましては、政府は固より公正なる立場より之に當つて居るのでありまして、赤十字國際委員會代表よりも、我が支配下にある抑留所を視察報告を出して居りまして、我が方取扱の公正なることは段々と世界に證明せられて居る模様であることを此の際申上げて置きます。以上申上げましたる所に依り御了解を得ますと存じますが、政府は敵國等に殘留致して居ります所の同胞を、決して棄民と考へて居るのではなく、何處迄も子に對する親の氣持を持つて、當然と言ひながら、其の氣持を持つて是等同胞を力付け、其の將來の發展を助長したいと考へて居るものでございます。

回教徒に關する谷外務大臣議會答辯 (一)

— 於衆議院豫算第一分科會 —

昭和十八年二月九日

回教徒が嘗て燦然たる文化を持つて居つたのに拘らず、現在に於きまして其の大部分が米英の爲に自由を奪はれ、其の壓制下に呻吟して居りますと云ふことは近代文明の恥でありまして、只今御尋ねのやうに決して帝國政府としては之を無關心に考へて居るのではなく、絶えず遺憾として居る點でございます。なほ大東亞地域に於きましては皇軍の善謀勇戦の結果、英米蘭等の帝國主義國の勢力は一掃せられまして、茲に嘗ての被壓迫民族は其の本然の姿に還つたのであります、今回新たに解放されました大東亞民族、マライ、スマトラ其の他各方面に居ります所の回教徒の外に、佛教徒、インド教徒、キリスト教徒等があるのであります、今御尋ねのやうに、帝國と致しましては飽くまでも擧國の大精神である所の八紘爲宇の大訓に基きまして、其の宗教の如何に拘らず、彼等をして安居樂業、其の所得さしめると云ふことを根本方針と致して居ります。此の點がインド其の他に行つて居ります所の所謂イギリスの分割政策とは根本的に異なる點だと考へて居ります。西南アジア及びアフリカ方面の回教徒は其の大部分が今尙ほ米英軍の事實的壓制下に置かれて居りまして、憂國の志士は或は國外に逃れ、或は牢獄に呻吟すると云ふ氣の毒なる状態にあるのであります。帝國政府と致しましては彼等に衷心同情を表しますと共に、地理的に接近して居ります所の我が國と致しましては盟邦獨伊兩國と相協力致しまして、是等の解放に苦心致して居るのであります。樞軸側面に帝國の勝利の結果、彼等が英米の魔手から解放される日も遠くないと確信致して居る次第でございます。

次にトルコに付きましては、帝國が同國との國交を重視致しますことは勿論でありまして、幸ひ兩國間には傳統的に親善關係が存在して居ります。此の關係を益々促進したいと帝國政府としては考へて居る次第でございます。

次に帝國に最も接近して居ります所のインドに付きましては、從來英國のインド教徒と回教徒とを分割して統治すると云ふ所謂分割政策及び極端なる彈壓政策の結果、強力なる統一的反英民族戦線の結成が遺憾ながら妨げられて居つたのであります、帝國政府と致しましては速かに兩教徒が一致團結し、先づ其の共同の敵たる英國の勢力をインドより一掃し、インド人のインドを建設せんことを切望して居るのであります、帝國は既に度々聲明して居りますやうに、インドにして希望する場合には凡ゆる援助を吝まない覺悟でございます。

之を要しまするに、帝國の回教徒に對します方針は、其の信仰を尊重し、回教諸國の正當なる地位の回復に付きましては誠意を以て協力したい熱意に燃えて居る次第であります。どうぞ御諒承願ひます。

回教徒に關する谷外務大臣議會答辯 (二)

— 於衆議院 —

昭和十八年二月二十三日

只今の御質疑に對し、私に關係深い部分に付て御答へ致します。私は嘗て燦然たる文化の持主であつた所の世界幾億の回教民族が現在陥つて居ります境涯に對しましては、無限の同情を有するものであります。同時に其の由つ

て来る所を考へまするのに、是亦貪婪飽く所なき米英の利己的世界制覇の犠牲であると云ふことに想到致しまする時に、一種の義憤をさへ感ずるものであります。申すまでもなく帝國の戰爭目的は、聖國の大訓に則りまして、正しき者が正しき所を得ると云ふ道義に基く世界の新秩序であります。既に大東亞地域に於きましては、御稜威の下皇軍將兵の勇戦奮闘に依り、此の域内に於ける回教徒は、米英の桎梏より解放せられ、其の信仰は尊重され、既に安居樂業の第一歩を踏出して居るのであります。併しながら眼を世界に馳せまするのに、未だ其の所を得ざる回教徒は幾億とあるのであります。現に重慶の殘存政權の下に於きましても、インドに於きましても、西南アジアに於きましても、又エジプトに於きましても、北アフリカに於きましても、幾億と云ふ回教徒が、今尚ほ不幸なる境涯に居るのであります。帝國と致しましては、盟邦獨伊と益々結束を固く致し、此大東亞戰爭を飽くまで戦ひ抜き勝抜きまして、而して是等不幸なる回教民族に對し、一日も早く其の不幸なる境涯から離脱し、彼等の文化を以て世界の文化に貢獻し得るやうにしたい、此の念願に燃えて居る次第でございます。斯の如く致しまして、帝國の回教民族に期待致しまする所は、何等他意なく一に彼等の信仰を尊重致し、彼等が世界に於きまして、當然占むべき地位を占めんことを冀ふものであります。而も帝國の主張する所は何等嘘偽りなく、彼の米英の如く偽購的宣傳をなすものではありません。總ての主張は其の裏に現實の事實を以て裏付けて居るのであります。即ち今回の對支新政策と云ひ、又フイリツピン、インドネシヤ並にビルマに對する帝國政府の呼掛と云ひ、總ては事實に即したる現實の問題であります。私は世界の回教徒が此の現實を眺め、此の現實に即したる日本の聲を耳に致します毎に、必ずや彼等は猛然として立上り、此の千載一遇の好機會を逸せざるが爲に、凡ゆる工夫と努力とを惜しまないであらうと云ふことを、固く信じ

て疑はないものであります。

回教徒に關する青木大東亞大臣議會答辯

—於衆議院—

昭和十八年二月二十三日

回教徒は從來英米の世界政策の犠牲となりまして、洵に同情すべき地位にありましたことは、只今外務大臣の述べられた通りであります。私は億兆萬民をして、其の所を得しめると云ふ聖國の御精神を、廣く全世界の回教徒に及ぼしたいと存ずるものであります。尙ほ今回の聖戰の意義を、彼等の間に十分理解徹底せしめることが必要であると考へて居ります。現在大東亞地域に於きましては、北は滿洲より支那南方地域に互りまして、非常に澤山の回教徒が住んで居ります。殊に支那に於きましては、御承知の通り西北地方を中心と致しまして、凡そ三、四千萬の回教徒が居ることと見られて居ります。是等の回教徒に對しましては、我が國と致しましても、重大なる關心を持つて居るのであります。蒙疆北支の回教徒に付きましては、共榮國建設の使命に目覺め、反共運動其の他建設運動に協力致すやう施策を致して居るのであります。華北に於きましては、回教總聯合會の組織の下に、多數の地方的團體がありまして、着々運動の歩を進めて居ります。滿洲に於きまします回教徒は、奉天省を初めと致しまして、各所に散在して居りますが、彼等は滿洲國の忠良なる國民として、其の堵に安んじて居るのであります。滿洲國政府の指導の下に結成されて居ります滿洲回教協會も、次第に其の内容を整備して參つて居ります。又南方地域に於ける回教徒が聖戰の

餘澤を受けて、多年の米英オランダ等の桎梏から免れ、我が方に協力の態度を執つて居りますことは、御存じの通りであります。

尙ほ只今御質問中にありましたやうに、是等の回教徒に對しまして、日本を本當に理解させる爲に、其の代表者であるとか、或は留學生であるとか、さう云ふやうなものを招致してはどうかと云ふ御意見に對しましては、今後十分其の實現に努力して参りたいと存じて居ります。

要するに各地域に於ける回教徒が、世界の大局に目覺め大東亞圈内各國の善良なる國民、住民たると共に、吾人と相携へて大東亞建設の聖業に協力し來ることを期待するものでありまして、帝國と致しましては、之に對し極力支援を與へ、大東亞を以て彼等の安住の地たらしめんことを期するのであります。

反樞軸側情勢に關する奥村情報局長議會答辯

— 於衆議院決算委員會 —

昭和十八年二月十五日

宣傳戰が非常に重大である、武力戰と呼應してしつかりやれと云ふ御意見に付きましては有難く御受け致しますし、微力を盡して今後大いにやりたいと思ひます。而して對外宣傳は敵の戰意を破摧するのにあるのだ、敵の足並を亂すやうに、弱點を狙つてやると云ふことは、全く對敵宣傳の眞諦を御衝きになつた御意見でありまして、吾々其の衝に當る者は全く左様に考へて居るのであります。さうして時々凡ゆる戰況は固より、米英の國內事情に付きまして

も、出來る限りの方法手段を以ちまして之を審かに、且つ至急に知るやうに努めて居るのであります。それ等の國內に起つた出來事を捉へて、日本では之を解釋致しまして、御意見のやうに戰爭の無意義なこと、それから又戰爭目的の間違つて居ること、日本に對する所の敵對心に對する米英戰爭指導者の錯誤は盛んにやつて居るのであります。併し其の點は幾らやり過ぎててもやり過ぎることはないと云ふ程重要でございますので、今後は一層其の點に努力したと思ひます、對敵宣傳は獨善的、獨り善がりであつては駄目です。相手の國民性、傳統、歴史と云ふものに立脚しない所の宣傳は、幾らやつても到達しないのであります。目標に撃たなければならぬ彈丸と同様に、宣傳戰も相手の目標を撃たなければならぬと云ふ點から、時々さうした掘下げた國民性、傳統、弱點と云ふものを検討して、而して又日々起つて居ります所の諸現象を捉へて、戰意破摧に持つて來て居ることだけは申上げて宜からうと思ひます。

次に情報局としての米英等敵側の内部事情は獨り分るやうになつて居ると思ふが、それを差支へない限り國民に知らせる意味に於て、此の機會に話せと云ふ御質問でございます。勿論只今申上げましたやうに、戰爭は獨り戰場に於てのみでなく、己も知り敵を知れば百戰百勝危からずでございます。今日の總力戰に於きましては、敵國民が戰ふことが厭になり、戰意が破摧されると云ふ點に究極の勝利がございますので、其の點は常に調査を怠らないのであります。又此の方法、手段等に付きましては、公開の席では固より戰爭中は申上げられないことばかりであります。極めて慎重にやつて居りますことだけは、結論として御承知願ひたいのであります。併し吾々の諒知した所の敵の内情を悉く其の儘國民に知らせると云ふことになりまして、是は一考しなければならぬ點が色々出て來るのであります。

す。即ち日本の戦争指導者に於て敵國、即ち彼等から見れば自分でありますが、自分等を斯様に考へて居るのであると云ふ一つの結論を洞察されることは色々戦争指導上障碍があるのであります。そこで政府としては、戦争指導者としては敵國の内部事情は出来るだけ詳しく早く知らなければならぬが、之を國民に其の儘其の時に知らせると云ふことは一考を要するのであります。寧ろ慎重に考へなければならぬのであります。其の意味で悉くを知らせると云ふ御趣旨ではないと思ひますが、左様な方針の上に於て時々新聞を通じて、ラジオを通じて國民に知らしむるやうに努めて居る譯であります。國運を賭して戦つて居る敵國の動向と云ふことに付て、國民の知りたいことは無理もございませぬし、又皇軍の忠烈勇武なる戦果が如何なる影響を敵國に與へたと云ふことも是亦知りたいことでございます。併し又さうした影響動搖を與へる爲に戦つて居るのでありますので、今後は一層御希望に副ひたいと存じます。そこで最後に當面の御質問でございました米英、其の他敵陣營側に於ける内部事情はどうかと云ふ點に付て日、獨、伊三國は緊密な連絡協力の下にやつて居るが、敵國米英の間に於ては自分は必ずしも緊密な連絡が付て居るとは思はれないと云ふ御意見に付きましたは、吾々としても全然御同感でございます。日、獨、伊三國は開戦と共に盟約を更に新たに致しまして、單獨不講和を約して、所謂水も漏さざる關係で戦つて居るのであります。其の戦ひは結局鞏固なる立派なる條約があると共に、御指摘のやうに戦争目的が共通である、等しく世界舊秩序である所の英米制覇に惱まされ居つたさうした事情、戦争に起たざるを得なかつた事情が共通であると云ふこと、それから此の國運を賭する戦ひを通じて建設しようと云ふ所の戦争目的が等しく英米的アングロ・サクソンの、搾取的、支配的野望を粉碎して、日本は大東亞に新秩序を建設しよう、獨伊は歐洲に新秩序を建設しよう、而して世界をして汚れなき、淨らかな搾取

なき、萬邦をして其の所を得しめると云ふ、日本に取つては肇國以來の大理想を顯現しよう云ふ、さうした雄渾にして且つ深刻雄大な戦争目的が等しいと云ふ點から、私は御指摘のやうに日、獨、伊三國は非常に緊密周到に連絡が出來て居ると、斯様に考へるのであります。之に反しましてイギリス及びアメリカ側は確かに御指摘のやうに表面的には如何にも連絡して居るやうに見えます。又吾々も皆様と共に敵米英と云ふ言葉を能く使ひますが、米英に於きましても、それは一口に敵米英と云ふ言葉が現はすやうに、完全に鞏固に團結をして居るとは思はれないのであります。色々御指摘の内部事情を調査して見ますと、此の兩國間には外觀は緊密に連絡して居るやうであつても、内實は然らざる所の所以が掩はぬとして掩ひ得ざるものが多々あることを發見するのであります。それは御質問にもございましたやうに、何と云つても私は戦争目的に關してイギリスとアメリカとは根本的な相違を内藏して居ると云ふことに基くと思ふのであります。即ち兩國の間には戦争指導者は固よりでありませんが、今次の此の大戦争の目的を必ずしも一にして居らない、異にして居ると云ふ點から、色々兩者の關係が巧く行かないことが想像されるのであります。事實に付ても左様に言へるのであります。それを三つ申上げますと、イギリスの首相チャーチルは昨年十一月十一日に大演説を致しまして、此の中でイギリス國民に對して、本當にイギリスが今國運を賭して居る所の所以と云ふものを管々と述べて居るのであります。其の全文を仔細に讀んで見ます時に、此のイギリスの戦争目的が過去二百年に互つて世界を支配し、制覇して來た所の、吾々から見れば舊秩序、彼等から見ればイギリスの秩序、其の秩序を何處までも維持しよう。即ち大英帝國の世界的地位を成べく現狀に於て維持しよう云ふ爲に自分等が戦つて居るのである、其の爲に國民が犠牲を拂つて居るのだと云ふことを強調して居るのであります。之に對しまして、

丁度チャーチルが演説した直後でありまして、それは有名なウエンデル・ウィルキーズが強調致したのであります。是は御承知のやうに共和黨の大統領候補者として、一昨年ルーズヴェルトと覇を争つた人でありまして、一寸考へると共和黨の首領でルーズヴェルト政權と對立して居るやうに見られますが、今日のウィルキーズは決してさうではありませぬ、寧ろ對外的にはルーズヴェルトより強いと言はれる位に、對日攻勢を叫んで已まないものでありまして、彼が昨年の秋ルーズヴェルトの私設特使としてエチプト、トルコ、ロシヤ、重慶に派遣されて、百方工作して参つたことは御承知の通りであります。斯様なことから考へましても、もうルーズヴェルトとは對外問題には完全に意見が一致して居るのでありまして、寧ろ私が見る所に依ればウィルキーズをしてルーズヴェルトの言はんとする所を言はしめて——而して相手の國及び國際輿論に悪い影響を及ぼさないと云ふあのアメリカ特有の謀略を圖つて居ると見て居るのであります。此のウィルキーズは今申しましたチャーチルの演説直後、即ち十一月の十一日から七日置いて大演説を致したのであります。其の中に於て彼はアメリカが今國民に非常な犠牲を背負はして戦つて居るのは、何もイギリスのチャーチルが言ふやうにイギリスの秩序を世界に維持する爲ではない、況や大英帝國を世界に残して置かうと云ふ爲では更々ない、寧ろ率直に言へばさうした舊秩序的なイギリス本位の世界秩序を打破して、さうして自由な聯合國家を作らうと云ふことにあるのだと云ふことを言つて居るのであります。即ち眞正面から此のチャーチルの演説を論駁して居るのであります。是は非常な波紋をアメリカ國民の間に起しました。

更に又御承知のライフと云ふ米國の有力な雑誌がございますが、此の雑誌の中で、是はアメリカが一番澤山讀まれて居る政治的な大衆雑誌であります。其のライフが社説としてイギリス國民に對する公開狀を米國々民の名に於て

發表して居ります。今米國は國を擧げて英國を援助して居るのは、何もイギリス人が考へて居るやうに、大英帝國を世界に残して置かうなどと云ふことでは全然ないのだ、是は全くさうした事の爲に援助して居るのではないのだ、英國民が若し米國の此の熱心な援助をイギリスを今の儘で世界に残す爲だと考へて居るならば、大間違であると云ふことを發表致したのであります。此の前後からイギリスの新聞雑誌は固よりアメリカの新聞も盛んに戦争目的に付て議論を致して居りまして、兩國の戦争指導者も一寸困つた位に、此の問題が議論されたのであります。丁度其の前後から戦争の犠牲が國民の各生活部面に及びまして、丁度それと前後致しましたので、又戦争目的が對立するやうになりました爲に、斯うした議論も起つたのであります。是から見ましても御質問のやうに私は兩者間が必ずしも旨く行つて居るとは考へませぬ。

更に又米國の高唱して居ります所謂民主自由主義、或は大西洋憲章の狙ひと云ふものも能く検討して見ますと、是は言葉だけが綺麗であつて、所謂架空的、美名的の原則を羅列したのみであつて、其の裏を返して見ますと、言ふまでもなく戦後に於てアメリカが世界の覇權を握りたい、アメリカが中心となつて世界を思ふ儘に引廻してやらう、此の前の第一次歐洲大戰以來の野望であつた世界覇權をアメリカが完全に取らうと云ふことであることは、是は御承知の通りであります。左様な含みを持つて居るのであります。隨て戦争指導に付きまして、イギリスとの間に色々と食違ひが起り、問題が起るのであります。先づワシントンにイギリスとアメリカの合同參謀長會議を設置致しました、是が亦兩國間に非常な問題を投掛けたのであります。又戦争資材の生産配給等に付ても、各種の委員をワシントンに置きまして、それから又アメリカが中心となつて、南米諸國を自己陣營中に掌握致しました。此の點はイギリ

スに取つては色々と國家經營上支障があるのであります。必ずしも之を好まないものであります。それから又武器貸與法に依りまして、濠洲、インド其の他にまで、色々援助する——と言へば言葉は宜いのですが、干渉する爲にやつた、此の點イギリスの戦争指導者、國民に色々と不満を與へて居るのであります。それから又最近濠洲、インド、太平洋諸島、南米へ澤山の兵隊を分散派遣致しました爲に、傳統を重んじ、古を戀ふ所のイギリス人は、自分等の領土には曾て獨立した、而も總督の居つた所に、アメリカの兵隊が傍若無人に振舞つて居ることに非常に反感を持つて居るのであります。此の點はイギリス本國に付ても同様でありまして、イギリスの本國に於て、約二箇月位前に、あれは古い憲法の原則から、イギリス本土の者は悉くイギリスの法律を適用すると云ふのを、援助に來て居る所のアメリカの兵隊に對しては、イギリスの法律を適用しないと云ふ法律を議會に出したのであります。是がイギリスの傳統に反すると云ふ譯で、議會でも議論があり、又國民も非常な反感を持つて居るのであります。アメリカ人の兵隊の給與、それから又振舞と云ふものが、英本國は固より、濠洲の間にも非常な反感を齎して居るのであります。事實色々國民感情の上にもそこに背離矛盾があるのであります。斯様なことは勿論今日抽象的にも想像が付きませんが、依然として吾々の注意して居ります所の實際の出來事を通じても、同様な判斷が付くので、間違ひがないのであります。又一昨日でありましたか、ノックスが太平洋諸島を初め、世界各地の飛行基地として使へる所は、全部アメリカが管理すると云ふことを新聞記者に申しました爲に、イギリスでは非常な議論が生じて、遂に議會でイーデン外相に對して其の事實を質問し、且又其のノックスの言の傍若無人なことに付ての反駁的質問がありました。非常に困つて居ることは先程私が手にした情報でも分るのであります。何れにしろ斯様な状態にありまして、兩國が悉く戦争目的の根本的

致がない、全く自己本位、自國本位であると私は言うて宜いと思ふのであります。隨て御述べになりましたカサブラシカの會談の如きも、亦其の一つの現はれだと思ふのであります。カサブランカ會談は宣傳は非常に成功と言つて居りますが、併し何と云つても國を擧げて戰つて居る米英の戦争指導者の最高首腦者が、遙々北アフリカの沙漠の一都市で會合するなど云ふことは、それ自身が生易しいことではないので宣傳の爲にさう云ふことをする筈はない、結局は宣傳に使つて居るのであります。わざ／＼ルーズヴェルトがカサブランカまで出掛けなければならなくなつたと云ふこと自身、探究して見ますとそこに問題があるのであります。手紙や電報では間に合はぬ、使ひでは解決が付かない、指導者が肚を割つて話をしなければ解決が付かない根本のものがあるから話合ひをしたのであります。勿論是はイギリスに亡命して居り、又フランスがドイツに降伏せしめられました直後、イギリスと氣脈を通じたド・ゴールとそれからアメリカ軍が北アフリカに上陸する直前、外交謀略で成功したダラン一派との支配權の問題、イニシアチーブの問題でござ／＼して居つたのであります。さうしてアメリカの派遣司令官であるアイゼンハウアーに對するアメリカ人自身の非難が起つて來たのであります。彼人餘り戦争をせざる政治問題ばかりやつて居ると云ふこと、又北アフリカの上陸が非常な成功であると云つても、一向局面が展開しないと云ふ非難が露々で、左様な關係の鳧を付ける爲にやつたのであります。御承知の通りド・ゴールと暗殺せられたダランの後繼者ジローとの間に表面的了解が付いたと言はれて居りますが、決してさうではないことは、彼等自身が稱して居るのであります。何れにしてもさう云ふ問題があるのであります。是は一月十四日から十日間の永きに互つてチャーチルとルーズヴェルトが本國を留守にして、色々議論したと云ふ所に、相當深刻なる相剋が伏在して居ると、私は此の機會を借りて國民に告

懇請したのであります。遂に其の事實はなくて、米英兩國民を悲觀せしめたのであります。幻滅を興へたのであります。斯様な事情から見ましても、非常に兩者間が巧く行つて居ると思ひませぬ。特に最近スターリンググラードの奪還以來、アメリカの國內に於きましては、色々又議論が出て居るのであります。ソヴィエトが餘りに素晴らしく進出すると云ふことになると、是は又別の心配が起るのだと云ふやうなことを盛んに言つて居るのであります。御承知の評論家として有名なウォールター・ジュランティが一昨々日ニューヨーク・タイムズに於て、其の點の、戦後經營に關するソ聯の進出に付ての非常な詳細なる論説を發表して居るのであります。是が發表出來たことはアメリカの戦争指導者もそれに同感をして居るからだと思つて宜いのであります。左様な點から見ても必ずしも巧く行つて居ない、微妙な關係にある譯であります。相互利用し合つて居ると云ふやうな状態であると私は考へるのであります。

それから最後に重慶との關係であります。大東亞戦争が勃發しましたから半年位の間は、重慶は世界の寵兒、可愛がられる所の子供でありまして、今までは英米が重慶を援助してやると云ふ、主體が重慶にありましたが、大東亞戦争が起つて英米が世界戦争の本格的な役割をするやうになりますと、主客顛倒して、重慶は寧ろ總理大臣が御述べになりましたやうに、英米の一戦線である、即ち蔣介石はアメリカ對日戦争の一軍司令官であると云ふやうな立場に顛倒してしまつたのであります。併しながらそれが對日攻勢の基地であると云ふ點から色々ちやほやされたのであります。米本國に居る所の支那人一般に對してアメリカ人がどう云ふ豹變的態度を執つたかと云ふことも色々調査が出來て居ります。非常に歓迎されたものであります。困つたから薬をも掴む以上の意味に於てちやほやされ

て寵兒になつて居つたのであります。併しながら大東亞戦争の進展と共に、米英の重慶を援助する所のルートがビルマ・ルートを初め主たつた所が悉く占領されてしまつて、援物資が止つた、事實何も入らなくなつてしまつたのであります。最近ではアフリカ及びインド經由で若干の飛行機及び軍需品を空輸して居るに過ぎないと云ふやうな状態であります。そこで重慶の方面は宣傳だけの、口先だけの提携援助である爲に非常な不満を感じるやうになつたのであります。ワシントンに居る所の重慶派遣の大使は數箇月前送りましたが、盛んに毒づいて居るのであります。一方又、是は最近一箇月位前に極秘に蔣介石の夫人の宋美齡が飛行機に乗つてニューヨークに現はれました。今盛んに活躍して居ります。彼は自動車に乗る時に足を捻らして捻挫した、其の修繕に行つた譯であります。盛んに宣傳が巧いので、是は自分が戦線視察の時に、日本の軍隊の飛行機に依つて爆弾を投げられた爲だと云ふことを言つた爲に、非常に宣傳効果百パーセントで、新聞は鳴物入で之を取扱つて、今はニューヨークの病院に入院して居りますが、先程参りました情報に依りますと、大したことはないですから、直き治る譯です。治つたらワシントンに参りますと云ふ譯で、歓迎準備委員會等が發表されて居る、蔣介石夫人が議會に現はれば必ず如何なる外國人も會つて経験したことのないやうな、示されたことのないやうな心からの歓迎を受けるであらう、さうして一部議員は來るべき夫人の訪問をジャンヌ・ダルクの出現に匹敵するものと看做して居ると云ふことを言つて居るのであります。是も一つの笑ひ事として見ればそれまでありますが、重慶に對するアメリカの援助が必ずしも鳴物入りの宣傳程でないこと云ふことから彼を利用した一つの狙ひであると私は見て居るのであります。何分にも宣傳の巧い彼等のことで

ありますから、動けば必ず風を生ずる譯で、何かの宣傳を生ずる譯であります。それから最近又顧維鈞夫人も同様のことをやつて居るのであります。それ等の影響から、最近米國の大統領が議會に與へた教書の中で、米國は重慶に對しビルマ・ルート閉鎖前と同等以上の軍需品を輸送する決心があると述べて、重慶の悲鳴的な抗議に應へて居るのであります。何れに致しましても、其の言姦びすしき割合に其の實之に伴つて居ないと云ふのが、米英と重慶との關係ではないか、斯様に考へて居ります。特にカサブランカ會談に於てスターリンに付ては非常に辭を低うして會談を求めたに拘らず、蔣介石に對して招請狀が發せられなかつたのであります。左様な點から非常にむくれて居ると云ふのが真相であります。

以上御質問に依りまして出來るだけの範圍に於て詳しく申上げた積りでありますが、要するに御意見御開陳のやうに、敵陣營側に於ては完全なる所の諒解があるとは思ひませぬ。併し又戦争の深刻化と共に、戦争目的の乘離から來る所の色々の矛盾撞着の爲にこた／＼するであらう、私は斯様に考へます。併し又戦争が敗戦的になればなる程、向ふも一生懸命になると云ふことは忘れてならぬ所で、吾々は英米が表面のやうに提携してやつて居ると云ふ覺悟の下に勝致くまで戦はなければならぬ、斯様に考へるのであります。

南方軍政基本方策に關する陸軍當局の指示

基本事項

一、軍政機構

軍政は統帥行爲の一部であつて、實行の責任は軍にある。従つてこれが運営も指揮統帥の系統に従つて行はるべきものであるが、一面國務と密接不離な關係を有つものであるから、その基本的事項は大本營政府連絡會議の議によつて決定し、また經濟處理の企畫および統制等については大東亞省の連絡委員會を通じ、關係各廳と密に連絡決定する等よく軍政に國家の總意を反映せしむることく措置せられてゐる。現地の軍政機構は南方各地域は各々の特性を有し、かつその統治要領も地域により差異があるので、各地の軍政機構もまた各々特色をもたしてゐる。概括的に述べれば比島およびビルマでは原住民による行政府をわが指揮下に運用し他地域では軍自ら行政に任ずるの方式により機構が定められてゐる。

各軍には軍政實施の衝に當る軍政監部が設けられ、その本部は所により多少の差異あるが、概ね總務、内務、司法、産業、財務、交通、敵産管理の各部に分れ、恰も内地における各省のごとき中央行政機關として活動し、地方行政機關としてはジャワの大部、マライ、スマトラ、ボルネオ各州市に司政長官以下を配し、比島およびビルマは各州市の行政は行政府に管轄せしめある故に、これが指導のため各々數箇所に軍政支部を置き、またジャワのジョクジャおよびソロの二州並にビルマのシャン諸州のごときは我指導下に從來の土侯をもつて地方行政の衝に當らしてゐる。

右に述べた軍政機構の要員であるが、これには成るべく軍人を減少し、各省の官吏および民間有能者を充當して統治成績の向上に努めてゐる。しかしながら占領地は將來においても一部に敵の反攻を豫測しなければならぬので、作戦と軍政とは緊密一體でなければならぬのみでなく、作戦軍日常の健兵壯馬の策も軍政と不可分の關係をもつので、軍政機關中所要の位置には、武官を充當してゐる次第である。

大東亞省と軍政の關係であるが本質的には大東亞省設置により軍政は何ら變化はない。しかし前にも申し述べたごとく、軍政と國務とは密接不可分の關係があるから、軍政に國務より協力を必要とする部面、即ち占領地外の大東亞地域(内地を含む)と關係ある事項、將來に備ふる調査、研究、準備等勤くないのでこれらは大東亞省で大東亞を一環として處理に當るを適當とするのである。従て南方經濟の企畫、調整等は大東亞省の連絡委員會により審議し、また南方要員の鍊成に當る興南鍊成院も大東亞省の所管となつてゐる。

二、軍政指導要領

現に軍政を運営するため根本としてゐる指導要領中、主要なる事項を述べれば次のごとくである。

(一) 統治の實施に當つては、特に風俗習慣の尊重に留意す、即ち統治は物心兩面の把握あつてはじめて全きを期し得るのであつて、軍政の目的たる治安の確保も重要國防資源の急速取得も住民の心からなる協力を得てはじめて實現し得べく、これがため注意を加へてゐる諸件は在來の習慣の尊重をもつて第一としてゐる、その地の歴史および民族性等を深く研究することなく徒に多くの法令を制定し、または土地に合せざる風習等を強要する等の民心離反の原因をなすことを嚴に戒めてゐる。故に軍政實施にあつては、在來の風俗習慣は十分に尊重し、不必要なる容喙改正等は避けしめてゐる。なかんづく宗教は原住民の心底に深く滲透し、その信仰心また極めて旺盛なるに鑑み、在來の宗教は統治に妨げない限り、これを保護するの方針により、また信仰に基く風習は努めてこれを尊重し、もつて人心の安定民心の把握に資してゐる。第二は土侯の取扱であるが、これまた社會的宗教的また場所によりては政治的地位を有して居たものであつて、これが取扱ひには特に慎重を期し、徒に日本人の優越感を振奮し

て土侯を輕蔑し、あるひは土侯の私生活に細部の干渉を加へるがごときは避けてゐる。第三は日本人の自重であるが従來の例によると異民族に對する個人的不當の行動が政策全般を打壞し、民心を惡化せしめたことが尠くないので、直接異民族に接すべき軍政要員、進出邦人は特に日本人たるの矜持を保持せしむることと指導を加へてゐる。

(二) 極力殘存統治機構を利用し、不必要かつ速急な改變を避け、統治の圓滑化を期するとともに、成るべく多くの原住民を活用して最少限の日本人をもつて統治の目的を達成すべく着意してゐる。

(三) 民族指導は治下諸民族に對して大東亞戰爭の眞意義を徹底せしめ、もつて同甘共苦各々その能力に應じ、欣然わが施策に協力せしむることを主眼とし原住民に對しては、當面徒らに觀念的主義を鼓吹し、あるひは形式的文化の普及を避け、帝國に對する信倚感を助長せしむることを方針として指導し華僑に對しては各地域の特性に基き、我に協力同調することと指導し、心より悦服し來るものに對しては、その經濟的活動も相應にこれを認むる方針であり、印度人に對しても帝國は英領印度に對し攻撃を加へあるも、印度人を敵とするに非ずして英米の武力を破擯するの眞意を明にし敵國人に對しては勿論斷乎たる態度をもつてこれに臨みあるも、我に心服し來るものにして技術者等はその能力を發揮せしめてゐる。樞軸諸國との關係益々緊密を加ふるのときこれら諸國民の我占領地に在留するものに對して、なし得る限りの便宜を圖つてゐることは勿論である。

(四) 軍政の實施にあたりては、徒らなる劃一の方策を排して、克く各地域の戰爭遂行上における地位産業、經濟上の能力および民度等につきその特異性を審にし、特に各地域に對し、帝國が何を求めんとするかを明かにして施策の宜しきを得るに努めてゐる。

(五) 經濟開發において特に留意してゐるのは、まづ極力現地の人的資源を活用して、なるべく國內の負擔を軽減しながら開發目的の達成を計るをもつて第一とし、次に開發能率の發揮を庶幾して、十分民間業者の組織および經驗を活用して生産性の向上を計ること、これがため徒らなる觀念的統一企業體の結成は避けてゐる。しかしながらこれら擔當指定業者に對してはその權益を與へたものでもなく、また既成事業として將來必ずこれを附與するものでもないことは明示せられてゐる。しかしこれら擔當指定業者もこの國家の方針に違ひ、南方開發擔當の光榮を認識して挺身努力してゐるのである。南方經濟において問題となるは各種特産資源であるが、これは徒らに消極減産を行はず、総合的開發利用の方途を拓く方針にて進んでゐる。

(六) 敵産處理について南方にある莫大なる敵産をもつて帝國の戰爭遂行力の劃期的躍進を圖ることと適切なる施策が講ぜられてゐる。徒つて前項でも述べたごとくこれら敵産が戦後私人の特權化するがごときことなきは勿論、全國民が均霑し得ることと特別の工夫が考究されつつある。

(七) 海上輸送力の重要性は茲に贅言を要しない。南方經營でも決定的要素とも稱し得べく、南方各地においても海上輸送力増強のために用ひ得べき方策は剩す所なく利用することと努力中である。

(八) 財政金融 速に財政の自立を圖つて軍政費は勿論のこと、將來は國防に要する經費も應能負擔することと努力してゐる。

軍政の現状

以上述べたごとき機構と要領とによつて軍政を實施中であるが、各地域とも概ね順調に發足、かつ要員の進出、機構の整備に伴ひ、既に本格的統治の段階に達してゐる。今各部門毎にその現状を述べれば次のごとくである。

一、治 安

治安に關してはマライの一部に少數匪賊の蠢動を見るのと、比島は數千の島嶼より成り立つてゐるために交通不便なるよりして、一般に他地域に比しやゝ不良ではあるが、その他は極めて良好であつて、治下諸民族は悉く皇軍の威武に悦服し、民心は極めて安定してゐる。また比島にありても、現地各部隊各機關の連續不斷的討伐と宣撫工作とが效を奏し、治安は逐日良況に向ひつゝあるは喜ばしい。しかしながら戰爭の進展とともに民生は逐次逼迫し來るのは當然であつて、かつ敵の反攻をも豫期するを要するので、治安維持の困難性は寧ろ今後にありとの心構へをもつて現況に油斷することなくこれが對策に遺憾なきを期してゐる。

二、行 政

各地域の戡定に伴ひ軍政による統治を開始したが、初期においては軍政機關未だ整備せられなかつたため、一部においては作戦部隊をもつて統治に任じたる所あるも、逐次軍政要員の現地到着に伴ひ、本格的軍政に推移し現在においては各地域共概ね統治は滲透し、鋭意軍政目的の達成に邁進中である。しかしてその行政の運営方法においては各地域に應じ、その特性があるからその概況を左に述べる。

比 島 比島は従來の統治形態等にもかんがみ、行政は比島人をして行はしめ、軍はその大綱、重要事項につき指揮命令するの方式により軍政目的を達成せんことを期してゐる。すなはち周知のごとくバルガスを長官として、昭和

十七年一月二十三日比島人をもつて概ね戦前の形態に則り、行政府を組織せしめ軍政監部の一下部機関として直接比島人を対象とする行政の実施に當らしめてゐる。地方行政に關しては戦前の四十九州十市を編合して四十六州八市としてこれまた比島人による州知事以下を配置し、行政府の管轄下に行政實施に任せしめてゐる。軍政監部は前述行政府を監督する外バギラ、マニオ、レカスビー、セブ、ダバオに支部を置き司政長官以下を配し行政府地方廳の指導に任せしめてゐる。

ビルマ ビルマもまた比島と概ね同様の方式により軍の指揮下に昨年八月一日バ・モを長官として行政府を組織せしめ、シヤン諸州およびカレンニ州を除く他地域の行政に任せしめて居る。地方行政としては州にビルマ人の知事を置きこれに當らしめシヤン諸州およびカレンニ州は行政府の管轄下に入るゝことなく、軍政監部よりシヤン州政廳を分派し、該地區の軍政を實施しつゝあるも、土侯の行政権を認めて下部行政に任せしめてゐる。ビルマ人の皇軍に對する協力は作戦開始以來誠に熱烈なるものあり従つて軍政克く滲透し、治安また甚だ良好なるは緬甸の戦争現段階における重要性に鑑み、特に心強き次第である。

マライ、スマトラ マライおよびスマトラは比島および緬甸と異り、全行政を軍自ら實施し、中央行政は軍政監部これを擔任し、地方行政のために昭南特別市およびマライ一〇州、スマトラ一〇州に市長及び州長官(司政長官)以下を配置してゐる。もちろん行政機構内には十分原住民を採用し、縣以下は悉く原住民に委するの形態を採つて、最少限の人員にて統治目的の達成を期するが、行政府を運用する比島およびビルマの方式とは大なる相異がある。土侯(サルタン)に關してはマライにおいてははその社會的名譽、時に宗教上の權威を保持せしめ民心指導に當らしめ、

スマトラにおいては州長官の指揮下に地方行政に參與せしめてゐる。マライ人口の四割を占むる華僑も占領當初嚴格なる態度をもつて臨みたるをもつて、爾後においてはわが威武に服し、目下においては我施策に協力しある狀況である。

ジャワ ジャワの行政はマライおよびスマトラとは同様の方式により軍政監部より十七州およびバタビヤ特別市に州長官および市長としての司政長官その他を配しあり、しかしながら特に差異があるのはソロ及ジョクジャの二土侯州であつて、兩州は從來の土侯をそのまゝ州行政の責任者となし、政務指導部をもつてその指導監督に任じてゐる。ジャワにおける蘭人は約廿萬(内五萬純粹の蘭人)であつて、それは一部主要なるものを監禁し、他は逐次居住制限を行ひつゝあるが、石油、鐵道等の技術者、主要研究所の研究者等我軍政施行に利用し得るものはこれが活用を圖つてゐる。

北ボルネオ 行政は概ねマライおよびスマトラと同様にして、五州に區分し統治しあり、但し北ボルネオは由來他地域と異り華僑の政治的勢力大にして、縣長は殆どこれが占むる所であるから、一部軍政要員を増加し、縣長は日本人をもつて代らしむることく處置してゐる。

三、邦人進出狀況

南方諸地域に進出する大和民族は治下諸民族に對する指導的使命を負荷すべきものであつて、從來のごとき移植民的觀念をもつて律するを排してゐる。しかし共榮圏の核心である日滿支の建設事業特に重要國防産業要員および兵員の所要數も逐次増加し、實際問題として現下多數の邦人を南方に進出せしむることは至難である。一方開戦以來國

民の南方進出熱の昂揚は誠に喜ぶべき現象であつて、轉廢業者の進出希望者も多いのであるが、上述のごとき状況に鑑み、悉くを南方に進出せしむることは出来ない。固より轉廢業者中内地の重要産業要員たり得ざるものであつて軍政實施及び産業開發に必要な人員を進出せしむることは現地のためにも亦國家問題としても適當なるをもつて現地において眞に必要なにして、かつ成功可能なる職業の種類、人員等を調査中である。

次に既往滿洲及び支那の經營に鑑み進出邦人に對しては眞に原住民の指導者たる資格と矜持とを保有せしむることく益々指導に注意を加へ、不良なるものは斷乎送還するの處置を採り、現在まで若干名の被送還者を見てゐる。

なほ既任邦人は優先渡航せしむることく國策決定せられ、逐次その復歸を見つつあつた、特に既往の經驗を活かして軍政と在住民との媒體的役割に遺憾なからしむることく活動せしめてゐる、しかして昨年十二月末迄に進出したる邦人數は、軍機關(軍政機關)大部要員ならび經濟開發要員各六千七百名、再渡航者約三千人である。

四、經濟開發

皇軍力闘の戦果として敵の破壊を免れたる生産施設からざるに加へて神速なる軍政の滲透により工場、事業場等の復舊は戦前の豫想に比し遙に迅速良好であつて石油鑛山等の重要國防資源に於て特に順調である。然れどもこれら豊富なる資源も戦争遂行力となすためには内地に輸送することを要するのであつて、一面に於ては船腹増強に努め他面に於ては國防上緊要なる資源輸送に船腹を成るべく多く利用せしめ得る如く圖つてゐる。その開發の概況は次の通りである。

(一) 石油 南スマトラに對しては二月中旬落下傘部隊の敢闘によりパレンバン精油所を占領せし後探油隊の主力

は地上第一線部隊に跟随してパレンバン附近に上陸し爾後引續き奥地に進入した。かくて各地域共三月既に所要油田及び製油所を完全に占據して直に復舊に着手し着々其の功を收め敵側の著大なる破壊に拘らず現在既に戦前における諸施設の約〇〇パーセントを復舊し、昭和十八年度末においては全施設の一〇〇パーセント、産油額は戦前の全年産量を超ゆるに至るも餘り遠き將來にあらざるを豫想せられる。

(二) 鑛物資源 南方占領地において帝國の期待する鑛物資源はボーキサイト、銅、鉛、錫、マンガン、クロム、タングステン等を主としこれら鑛山中には若干破壊せられたるものもあるも既に大部の企業擔當者現地に到着し着々開發の成果を挙げつゝあつて、これら資源に關しても既に大部は船腹の増加に伴ひ帝國所望量の取得は概ね可能な状況にある。

ボーキサイトはビンタン島及びマライ半島ジョホール州を重要生産地とするもこれが復舊は急速に進展し既に戦前産出量の域を超え本年度に於ても帝國所望量を賄ひ得る状況であつて、石油の取得とボーキサイトの確保は帝國航空戦力増強の爲確固たる基礎を得たものといふべく誠に心強き次第である。

鐵鑛についても既に開發は相當程度の進捗を見つゝありて昭和十八年度においては輸送これを許さば約〇〇萬トンの取得可能である。銅鑛は比島に於てはマンカヤン銅山を主とし破壊は相當大なりしたため還送開始の時期に若干の遅延を見たが、擔當業者の決死的努力及び附近金山施設の轉用等により十月より出鑛を開始した。銅に關してはビルマ、ボードウイン鑛山も着目せられてゐるが、本鑛山は鉛、亞鉛を主とし銅、ニッケル、コバルトをも含有する鑛石を産し鉛、亞鉛は戦前程度の生産量に達する曉においては資源上のみより論ずれば帝國の所望を充足し銅

に關しても比島と相俟つて帝國銅資源増強に相當なる寄與をなし得るも、本鑛山は海路最も遠隔の地、しかもビルマの奥地にあるを以て輸送上難點がある。

由來東亞の地はクングステンの世界における獨占的産地であつて、占領地においてはビルマのタポイ及びマウチ鑛山を大なる破壊を受くることなく確保し支那における取得量と合し概ね帝國の所望量を充たし得る狀況である。

(三) 農林資源 農林資源に關しては南方地域は眞に世界の寶庫とも稱すべくゴムをはじめ、チーク材、コブラ、パーム油、キニーネ、マニラ麻、砂糖等の生産量は莫大であつて、その交流可能なるにおいてはもちろん東亞圈内の需要を充たして餘りがある。しかし前にも述べた通りこれら特産資源は消極減産の處置を採ることなく生産力の維持に努め將來世界における帝國の經濟的優位確保に資せしめんとしてゐる。

ゴムに關してはガソリン轉換は現地において既に實用の域に達し、また潤滑油生産も既に實用化せんとするの狀況にある。砂糖にありても比島及びジャワにおける糖業は大東亞の現需要に比し著しく過剰であるが、これを活用して刻下の急需たる航空燃料の原料たるブタノールおよび自動車用燃料アルコールなどの製造原料に充當を企圖してゐる。

コブラ、パーム油、キニーネ等もその重要性に鑑み既に開發或ひは莫貨擔當者を進出せしめ、更に原住民をも十分に活用しこれが開發に努力中である。大東亞における不足資源たる棉花に關しては速かに南方において培養を圖るため、差當り繰綿數百萬擔の出廻を確保することを目標とし、フィリッピン及びビルマ、ジャワ、北ボルネオ等の地域を選び増産實行中である。

(四) 食糧 南方地域における軍需民需の食糧對策は總て現地自治に徹底し、内地よりの追送を絶無ならしむる方針の下に實施してゐる。しかしマライにおける米は從來より約三分の二不足であるが、極力輸入の節減に努むるため畑作の増産を圖ると共に消費の規正を徹底し更に不足する分をビルマ、泰、ジャワより輸入する計畫に進んでゐる。スマトラにおける米は從來より約十分の一不足であるが、これは雜穀の増産消費規正に徹すると共に若干はジャワより輸入する計畫である。

ジャワは米及び雜穀(玉蜀黍、カツサバ等)輸出餘力ありこれが餘力は他の不足地區に輸出する計畫である。ビルマにおける米の輸出餘力は莫大であつてマライ地區等に移出するほか餘力は現地において貯蔵するのほかにこれが用途に關し研究中である。フィリッピンにおける米は若干不足であるが蓬萊米の生産は極めて良結果を收めつつある。

五、交 通

數千キロに亘る廣大なる戦面を確保しつゝ敵の反攻を撃退するを要する情勢下において軍用に供する船腹の妙からざるものあるは蓋しやむを得ざる所である。かかる状態においても國の物資生産力に寄與するの要切なるを認め軍は開戦以來徴備船の歸航船を利用して物資輸送に協力してゐる次第だが、何といつても南方建設の成果が戦争遂行力に寄與するの大小は海上輸送力の如何に懸りありと稱し得る。

南方占領地における沈船引揚の實行は主として海軍の擔任しあるところだが、陸軍としても極力これに協力するの外、現地部隊機關をもつて實施し得るものは鋭意これが實施に努力中であつて、既に處理済のもの〇〇萬トンに達しこれはことごとく既に我輸送力として活用中である。又軍政地域における船腹増強のため五ヶ年間〇〇萬トン計畫を

以て既に内地より相當数の木造船業者を進出せしめ豊富な木材と努力とを活用して鋭意これが建造に努力中である。所要の内地機帆船等を進出せしめかつ支那我克の南方進出に關しても研究中である。

南方鐵道は大陸幹線の整備を重點とし、目下においては先づ秦、緬甸連接鐵道を建設中であつて遠からず完成の豫定である。また軍政地域内の鐵道は現地資材の轉用により炭鑛その他資源開發用の鐵道を建設中であつて作戦間より鐵道は鐵道隊及び鐵道職員より編成せる特設鐵道部隊により逐次これを復舊して來たが、さらに各地にそれ／＼管理局を設置し、これが運営に任じ一般營業も開始し、資源開發に概ね遺憾なき狀況である。

また自動車は陸運の一元的運用の觀點より鐵道と綜合的に運営するため各地の特性に應じ管理局の直營もしくは監督下に民間に經營を委託してゐる。陸運のため所要資材補給は將來はこれが對策を顧慮するの必要ありと認めてゐる。

六、財政金融

財政金融施策の方針は戰爭完勝を目標とし、南方各地區をしてその能力に應じ帝國の戦力増強に貢獻せしむること、財政の自立、金融資金の現地調達を基調として財政支出、金融資金使用の重點を重要企業の開發に指向することく運営してゐる。

(一) 軍政會計 南方各地の軍政施行に伴ふ財政は統治形態ならびに各地域の實情に應じ財政制度を確立し、本邦財政と分離して會計を樹立しそれ／＼、財政の自立を圖り、進んで經濟戦力の培養に資するを以て根本方針とし、これが實現に努力中であつて各軍とも財政組織再建に努めた結果、十七年度後半期以降概ね平常化する財政收支を樹立す

るに至り、十月以降三月までの各地域行政會計豫算歳出總計約四億圓を計上するに至つた。右に占領以後九月までの歳出を加ふる時は五億圓餘の金額に達する程度である。各軍とも軍政施行の進展に即應し財源の確保擴充を圖りもつて現地財政自立の實現に鋭意努力中である。

(二) 通貨 南方占領地域における使用通貨は目下軍票と在來通貨の二本建とし兩者の價值關係は等價として維持してゐる。現地における軍票は現地民の絶對の信頼を基礎として圓滑に流通を見、在來通貨も亦その價值を軍票に比し故意に低落せしむるが如き措置を採らざるため兩者の價值關係は等價として順調に流通せられ通貨工作上顧慮すべき所無き狀況である。しかしして現在における流通通貨量は戦前通貨量と大差なきものと推定せられ、必需物資生産並輸入減にも拘らず通貨膨脹による悪性インフレーションの傾向は未だ發生してゐないものと觀察されてゐる。

また現在現地通貨と本邦通貨、外國通貨並に現地通貨相互間の價值關係の成立は原則として認めず臨軍會計による交易制度並に臨軍會計を通じての南方開發金庫よりの融資制度により交易ならびに金融を實施しある狀況なるも根本的なる通貨制度の具體的研究準備を行ひつゝある次第である。

(三) 金融機關 南方地域における主要金融機關は本邦側機關を充當しもつて戦前における敵性銀行の掌握しありし金融指導權を確保する方針の下に、南方開發金庫はじめ正金、憲銀等の支店出張所の新増設を行ひたる結果戦前支店出張所所在地数は二十一箇所未滿に過ぎざりしに現在においては六十箇所を算するに至つた。

即ち、マライに於ては支那系銀行七行、印度系三行、比島においては國立銀行、比島銀行外二行、ジャワにおい

ては庶民銀行、官營質屋等がそれ／＼再開せられ、必要に應じ本邦銀行より所要資金を融通せしめ、以て地場金融機關の健全なる回復を期してゐる。

南方地區において金融施策上特に重要な庶民および農業金融機關については民生全般の立場より従來高利率貸出金利の制限、官營質屋の貸出利率の引下、軍政會計出資に係る庶民金庫の新設等積極的に庶民金融機關の善導育成を強化してゐる。

七、現地自活

作戰軍現地自活の確保は軍政の一大目的であつて、即ちこれをもつて極力國家の負擔を軽減しつゝ作戰を遂行せんとするを方針として進みつゝある。

食糧に關しては既に全く自活の態勢を確保し、特殊調味品等のものを除き全く追送を要せざる状況であつて、日用品に關しては大部を自活してゐるが、漸次南方地域のストック涸渇し來りたる故に小規模なる工業の移駐による現地材料による製品の生産を企圖して所要の處置を行つてゐる。兵器及び彈藥に關してはその性質上現地自活はこれを望むべくもないが、現地工場の轉換により現地修理施設の強化を策してゐる。

海軍軍政に關する海軍當局の指示

第一 軍政の方針

占領地軍政は地域實情に應じ、それぞれ方式形態等を異にしてゐるが、實施の根本方針は、統治上はたまた資源開發上、統一處理するの要あることもろんなるをもつて、陸海軍は中央において十分緊密に連繫し、なほ大東亞省との關係においても、いやくも齟齬を來さざるやう、極めて緊密に連絡調整して、實施の完璧を期してゐる。即ち占領地處理ならびに統治上の重要事項は、大本營、政府連絡會議によつて決定せられ、また經濟開發に關しても、主要事項は悉く中央において陸海軍および關係各省より成る連絡委員會を通じて決定せられ、實施はこれに基きそれ／＼の擔任に應じて處理せられてゐるのである。

現地にあつても、陸海軍軍政機關の間には、各般に互り折衝調整すべき事項は多々あり、例へば南方地域の物資偏任に基く地域間物資交流の問題、特産資源處理の問題乃至は輸送、交通、通信、郵政の問題等がそれであるが、これらは全般として統治開發上、相互に關聯交渉を有するをもつて、それ／＼の機關を通じ、大局的觀點よりその都度相互に緊密なる連絡調整を行ひ円滑に實行を進めてをり、陸海軍は中央現地を通じ、作戰は固よりのこと、軍政に關しても眞に同心一體の實を擧げてゐるのである。

占領地軍政實施の根本方針としては、まづもつて大東亞戰爭完遂を第一要件とし、速かに治安を恢復し、重要國防資源の急速開發を期するとともに作戰軍自治の途を確保するを緊要とするはいふまでもない。従つて統治開發各般の施策また悉くこの根本方針に基いて按畫實施せられてゐる。今その主なるものを擧げて見ると概ね次の通りである。

(一) 統治に當つては軍政機關は統治の根本を把握して、なるべく殘存統治機構の利用を圖り、土侯、原住民官吏お

よび民間長老等のうち誠意あり信望ある者を極力活用して、運営の圓滑適切を期してゐる。同時に従來の社會組織、宗教、民族的慣行等はこれを尊重してなるべく干渉を避け、特に日本人の劃一的な方策を濫に強要するがこときことは嚴にこれを慎み、もつて民心の把握、安定に努めてゐる。

(二) 主要國防資源の獲得開發に關しては、急速にこれが實績を擧ぐることを第一義とし、民間業者の能力および經驗を最大限に發揮せしめんことを期してゐる。これがため、大部分の事業は業種、規模等に應じ、それ／＼中央において指定せる適格者に委託經營せしむることとし、特殊のものは軍直營とし、または國營として委託經營せしむるものもあるが、いづれにしても速かに戰爭遂行の要求に應ぜしむることをもつて主眼とする。従つて委託經營によるものとも、當該擔當指定業者に對し權益を與へたものでもなく、また所謂既成事實として將來を決定的に約束されたものでもないが、要するに現下戰爭遂行上の急需に應じ、且つ占領地建設開發を期する上において、重大なる國家的責任を負ひ、南方第一線における積極的活動を期待されてゐるものであつて、速に實績を擧げることこそ現下の喫緊事といふべきである。

なほ原住民の經濟生活に對しては、大東亞戰爭完遂のため不可避とする若干の困難はこれを忍ばしむるの外ないが、作戰軍の自活および國防資源の獲得に支障を來さざる限り、極力戰爭による影響を救済し、所要限度の生活維持に努むるとともに、全般の施策により原住民をして、大東亞戰爭の眞意義を徹底せしめ、もつて皇軍に信倚することと指導してゐる。

(三) 交通輸送 就中物資の輸送に關しては、最善の努力をもつてこれが増強を期するものとし港灣施設の完成はも

とより、造船特に木造船の急速促進を圖つてゐる。

(四) 文教對策としては、既存宗教その他固有の信仰乃至は社會的慣行を通じて民衆教化を圖るのほか、速かに原住民の學校を復舊充實し、技術教育の普及振興を期し、同時に日本語および日本文化の普及を圖り、彼等をして速かに、當方に對し全幅協力せしむることと措置する方針である。一方また進出邦人の指導も、統治上極めて重視しなければならぬ。即ち邦人をして指導民族としての確固たる自覺と、必要なる素養を備へしめ、大和民族の一員として、よく原住民を統率指導せしむるに足る如きものならしめねばならぬ。これがため渡航者の嚴選に努むるとともに、現地における善導に關しても、終始努力を續けてゐる。

(五) 敵産處理についても、戰爭完遂を目途として十全にこれを活用し、當面の戦力増強に資することと處理すべきであり、これに關し私人の特權を設定することがことなきは勿論である。

(六) 通貨は従來の現地通貨と外貨票示軍票とを併用する。但し速かに軍票に代るべき通貨を使用する方針である。大體以上のごとき根本方針に基き陸海軍及び關係各廳緊密なる連絡の下に戰爭目的完遂に應ずることと統治しつゝある。

第二軍政機構

海軍における軍政は、當該方面艦隊司令長官をもつて現地最高責任者とし、その轄下に民政府總監を置き、専ら民政を擔當せしめられてゐる。民政府には官房のほか総務、財務、産業、交通土木、衛生および法務の六局を置き、



地方機構としては民政府の下に民政部を置き、民政部長官をして總監に隸してそれ／＼管轄地域の民政に任せしめられてゐる。なほ各民政部管下所要の地には、民政部支部が既に設置せられ、さらに州知事以下の地方行政機構も目下整備中で民政の地方浸透に努力してゐる。民政府および民政部は、開設後日なほ淺きも、總監以下非常の意氣込をもつて任務達成に努め、戦争遂行の要求に照しつゝ緩急をはかつて着々實績を擧げてゐる。

ニューギニアにおいては以上と別にニューギニア民政府が設けられ、總監以下職員は本年初頭既に現地に進出してゐる。この民政府の組織は他の民政府と異りニューギニア急速開拓を第一義として官房、開拓局、衛生局および調査局を置き、人選もこれに適應せしむることと努めてをり、なほニューギニアは未開の處女地であり、資源においても有望であるので、民政府に對し、特に有力なる調査探検隊を附し、困難を排して急速調査を行ふことと計畫してゐる。

第三 軍政の現状

一、統治の概況

海軍の軍政管轄地域には未開の地域が多いのでその統治方式も比較的原始的であるが、大體に於て差支なき限り舊來の方式を踏襲してゐる。即ち各州及び各土候領の長州長又はサルタンは概ね從來の原住民をその儘任命し、これらに對し新にそれ／＼の領域内における政務執行を命じ、法令のごときも必要やむを得ざる部分のみを修正して、これを適用し徴税もまた同様に續行せしめてゐる。然し何分にも原始的状態であつて一般に交通不便なるため、各般の統計、資料等いまだ十分に揃はず種々不便も多い。

従つて差當り今日までに知り得たる實情に基き統治上の各般の對策を樹立し、緩急に從ひ着々實行しつゝある。原住民は全く我軍に信倚し大東亞戦争の意義を諒解して衷心軍政に努力するの態度に出で、洵に心強く感ずるところである。

二、一般民情

治安は極めて良好であつて統治上些かも不安なきも、原住民の生活については各地を通じ米穀の配給交流および増産に對し大に努力の必要がある。特に増産に關しては目下セレベス、バリおよびロンボック等の諸地域において努力してゐるが、未だ需要額を充すには至つてゐない。同時にまた衣服類雜貨等に關しても占領地相互の物資交流を計ると共に、現地野生のガネモと稱する樹皮纖維の採集、その他の方法により、綿纖維の代用たらしめることをも計畫して近く實行に着手する豫定である。

また各地を通じ多數原住民の生業とするコブラを如何に處理するかは統治上にも大なる問題であるので、コブラ管理組合を設けてコブラの蒐集、内地への輸送および現地における搾油等の事業を行はしむることとなり、その一部は既に進出してゐる。なほコブラから代用燃料を採ることも奨励し、現にディーゼル用代用燃料として使つてをり、今後一層擴充する方針である。

またボルネオのゴム栽培事業を如何にするかといふことも、これに従事する約七〇萬人の原住民の生活を最小限度に維持する必要より見ても重要な問題であるのでバンジエルマシン附近では生ゴムおよびラテックスの製造事業を起してゴムの消化に努めてゐる。かくてこれら原住民の生業に對し極力生産規制を避けその生活を維持し得るやう

努めてゐる實情である。

三、經濟開發

南方地域における經濟開發は、國防重要資源の取得開發を第一義とし、おほむね所期の成績を得てゐるが、全般の問題として輸送力の増強が刻下の急務である。

(一) 石油關係施設は敵の手により何れも甚だしく破壊されてゐたが、我軍占領後異常の努力により急速復興し、昨年末までにボルネオにおいてはトラカン、サンガサンの出油を見、その他セラムは復舊に着手し、一部の出油を見つゝあり、タンジョン(ボルネオ)は昨年十二月末までに調査を完了したので、目下開發準備中で直に出油を期待し得る状況にある。バリツク、パン製油所は周知のとほり施設、港灣併せて優良なることにおいて、殆ど類を見ざるものであり、占領と同時に復舊に着手し、鋭意努力の結果、現在既に十分の製油能力を發揮し得るに致つてゐる。

(二) ボルネオの石炭は今後南方開發上、重要な地位を占むるものと考へられ、目下ブラウ(トラカン南方) ロア クール二箇所を復舊し出炭中である。

(三) セレベスのニツケル鑛の採鑛は極めて順調に進み、現在迄に相當量を内地向に送り出してゐる。

(四) 棉作はセレベス、小スンダが有望であり、今年度メナド附近において約二、五〇〇町歩栽培し、極めて良質の棉花を得た。來年度においては本格的に植付を行ふ豫定であり、その後逐年増産の計畫を樹立してゐる。

(五) 將來の開發計畫を確實化するためセレベス、ボルネオ、セラム、小スンダ等の地域に對し、鑛産、電力、農林、水産各部門の應急調査を實施中であり、ニューギニアに對しては前述のとほり鑛物、農林水産の急速調査を行ふた

め、探檢隊を派遣してゐる。

(六) 占領地の通信に關しては目下海軍軍用通信を主用してゐるが、統治開發上急速處理を要するので従來の施設を新狀態により重點的に對酌して、昨年末までに一應の復舊を完成して郵政關係員、國際電氣通信會社その他の要員を派遣し、既にマカッサルにおいては昨年十二月八日以來放送を開始し、電信電話等の事業も二月一日より實施中である。

(七) 海上交通は幹線と沿岸航路に分ち、それ々の擔當者は既に定まつてをり、幹線たる内地との定期航路は目下開設計畫中であり、また沿岸航路は一部既に實行されてゐる。輸送力の増強は内外各地を通じ目下の急務であるので、徴備船舶の活用を圖ると共に、沈船の引揚、木造船の利用等、中央、現地を通じ極力努力してゐる。

特に木造船は現地においても鋭意努力中であり、約十一箇所に業者を進出せしめ、十八年度中に一五〇トン乃至五〇〇トン級機帆船相當量を建造する計畫である。海上輸送により内地向に積出してゐる主なる物資はニツケル、コブラ、生ゴム、ダマル、コパール、線綿等で、國防資源の充足に相當寄與してゐる。

陸上交通バス、トラツク等の整備は治安維持、開發上緊急を要するので、これも有力なる擔當業者を進出せしめ逐次整備してゐる。現在ボルネオ、セレベス、セラム等においては、バスを運轉してゐるが、未だ十分なる域には達してゐない。

(八) その他現在までに進出したものは、主として國防資源取得のための特殊の業者が選ばれたが、事態の進展とともに、現地の經濟状態も速かに平常化する必要があるので、中間經濟機構整備のため、内地中小商工業業者を進出せ

しむる必要ありと認め、その具體的調査のため代表的業者數名を近く現地に派遣の豫定である。
(九) ニューギニアの資源開發は前述したる探検隊の調査を待つて實行のこととなるが、差當り食料の自給自足を急いでゐる。中部北岸地方の鑛産その他全般を通じての林産等は極めて有望と考へられる。

四、財政、通貨、金融

財政通貨金融につきましては既に概ね諸機構の整備成り、現に日本側金融機關の進出開店せるものはセレベスのマカッサル、メナド、ボルネオのバンジエラマシム、バリツク、パパン、タラカン、サマリダ、ボンチャナク、セムラのアンボン、ニューブリテンのラバウル、小スンダ列島のシンガラジャヤ等であり、何れも日銀國庫代理店、南方開發支金庫、もしくは出張所として臺灣銀行がその事務の代理に當つてゐる。在來の金融機關中開店せしめたものは庶民銀行一行で、マカッサル外十三店を開いてゐる。

五、復興する文化

文化方面においては、原住民學校の大部は既に復興して教育を行つてゐるが、その他にマカッサル、バンジエラマシム、アンボン等を始め、民政部支部のある町では、何れも日本語學校を創めて日本語普及に努めてゐる。マカッサルには原住民教育のため師範學校、農業學校、工業學校の設立を計畫中であり、近く開校の運びになつてゐる。マライ語新聞は既に發行してをり、日本語新聞もセレベス、ボルネオでは既に昨年十二月八日から發刊してゐる。

以上のほかガム、ニューブリテン、アングマンにはそれ／＼民政部を置いて海軍指揮官の下に民政を行はしめてゐる。

るが、なかんづくニューブリテンのラバウル民政部は、戦線の第一線にあり、文武官協力克く軍政統治の使命を果してゐる。

その他クリスマス島においては着々燐鑛石の開發を行つてをり、今日までにジャワ方面に相當量を積出し、内地輸送の手配中である。

以上各般にわたり大要を記したが、要するに占領地軍政は大東亞戦争完勝を期し、作戦軍の要求充足と國防必需物資の急速開發とを第一義とし、重點的施策により戦争遂行に寄與せんとするもので、今日までのところ着々その實績を擧げてゐるが、占領地域は概ね決戦場至近に位し、日々の戦闘の要求を充足せねばならぬこともちろんであり、特に後方補給と現地自活とは緊急問題であるので、文武官協力して異常の努力を拂つてゐる現状である。

ガンジー翁の斷食に關する奥村情報局長

一問一答(要旨)

—於記者團會見—

昭和十八年二月二十三日

問 ガンジー翁の斷食に對する政府の關心如何。

答 ガンジー翁の斷食とその容體は、單にガンジー一個人の問題でなく、全印の問題、否全世界の問題であるから、

日本の朝野においても勿論重大な關心を持つてゐる。

問 ガンジー翁が高齢かつ重體であるにもかゝらず英政府ならびに印度政府のこれに對する態度は非常に不可解である。

答 英政府は今日、ガンジー翁の非妥協的活躍を欲してゐないのだ。即ちガンジー翁が全印度民衆の精神的政治的中心である状態を、英政府は何とかして覆したいと願つてゐる。今回ガンジー翁の斷食を幸ひとして翁を見殺しにしようとしてゐることは明かである。

翁の反英非妥協的態度は結局反樞軸國に非常に不利に作用すると思つてゐるからである。吾々は、英政府が利己的目的から印度民衆の聖なる崇拜者ガンジー翁を監視したり、今度は見殺しにせんとする魂膽を察し、痛憤にたへない。これも前大戦に英國が印度に好餌を與へる確約をなして戦争協力を強制しておきながら戦後となつては印度に與へたものは、たゞローラツト法とアムリツアの虐殺であつた事例を顧みれば、英國傳統の極めて非紳士的な公正(フェア)でないやり方であつて驚くに當らないのである。

問 英政府のかゝる政策により、印度の反英感情と抗英運動は彈壓出来るか。

答 逆に益々抗英運動は熾烈となるであらう。今日の印度民衆の反抗は二つの原因から成つてゐる。一は英國と英國の戦争が齎した印度の永久的飢餓である。第二は、大東亞戦争の發展である。

永久的飢餓は英帝國の搾取的存在が消滅しない限り續く。第二に印度の反英熱が大東亞戦争における日本の勝利と大東亞圈より米英を驅逐せる事實に刺戟されたことは明かな事實であるが、日本が必勝不敗の態勢を維持し、ま

た東條聲明に基き印度の隣國たるビルマの獨立をはじめ、東亞諸民族解放の大業を次々と力強く推進する限り、印度の反英抗争は下火になるどころか、益々擴大の一途を辿るであらう。

問 英國はガンジー翁亡き後の印度操縦につき何かまた悪企みを持つてゐるのではないか。

答 印度の反英非妥協運動は大東亞戦と日本の勝利とに激動されて今後いよいよ擴大するであらうが、たゞ警戒せねばならぬのは、英國一流の「分割支配」の魔手である。ガンジー翁を見殺しにせんとする英政府の態度の蔭には、ガンジー翁亡き後に残れる指導者達を分割して牛耳り、また諸種族、諸民族の相互軋轢を増大せしめようとする「分割して征服せよ」との英國傳統の統治形式が窺はれる。わが日本が、印度において種族、民族、宗教の別なく全印大同團結を支持する正義の立場と全く相反する對照である。

かゝる英帝國の「分割支配」の魔手に對しては、同じ反樞軸陣營の米國やソ聯からさへ批評の言葉が聞える位である。然し印度國民はこれらの八百長的の聲に耳を藉すことなく、自ら英國の策謀毒手に對し愈々深く警戒せんことを吾らは希望するのである。

今こそ印度は反英運動において英の分割の手を斥けて全印一丸となつて獨立のために奮起せねばならぬ時と考へる。印度民衆は大東亞の領域で日本が友邦と共に米英を撃ち退け斷乎アジア解放のために戦ひつゝあり、従つて印度人の印度のために印度の獨立に對しても強力なる支持を供與する決意に燃えてゐることを忘れてはならぬ。たとひガンジー死すとも印度民衆は第一、第二の反英指導者ガンジーを創造し、また四億の印度民衆はガンジーの愛印精神、その所志と實行力を堅持して、反英解放の戦ひを續けることこそわが日本の固き確信である。

ガンジー翁の斷食闘争を繞る印度危局に關する 堀情報局第三部長談

—於内外人記者團會見—

昭和十八年二月二十二日

ガンジー翁は今や頗る危険な状態に在り、同翁の容態を繞つて印度内外物情騒然たる有様であるが、翁の偉大なる精神力は肉體的痛苦を超越して依然印度獨立の爲に雄々しくも豪壯な戦を繼續してゐる。印度四億の民衆も亦此の悲壯なる場面に際會して聖雄ガンジーの即時釋放と印度の獨立自由實現とを要求しつゝある。

然るにも不拘、英國政府は冷然として顧みる所なく、印度民衆の眞摯なる學國的要望を蔑視し蹂躪せんとする不逞の態度を改めないでゐるが、斯かる英國政府の態度は今更不思議でもなく亦驚くにも當らない。前大戰直後に於ける英當局の印度に對する出方を想起すれば其理由は明白である。

大戰中印度に對して誓約した獨立許與を大戰終結するやけろりと忘れ果てたかの如く實行しなかつたのみか、苛烈極まるローラット法を發布して印度民衆の正當なる言動を彈壓し、更にアムリツアの大虐殺事件を敢てして血腥き印度歴史上更に忘れ得ぬ非道殘虐の一頁を加へて恬として恥ぢざる英國政府である。ガンジー翁の生死とか印度民衆の切なる要望とかに眞面目な考慮を拂ふ彼等ではない。

之に反し我日本帝國の對印態度は一月二十八日の議會に於ける東條首相演説に於て明かであつて、今や將來の運命

を決する最も重大時期に直面せる印度民衆は全面的に我が公正なる態度を認識信頼すべきである。首相は言ふ、

「帝國は新らしき印度の建設の爲に、印度國內に於て又其の國外に於て生みの苦しみを爲しつゝある印度の指導者及民衆に對し深甚なる同情の意を表すると共に、其の回天の大事業の遠からず成就することを深く期待するものであります。而して帝國は之が爲に全幅の協力を惜まざることを重ねて宣明するものであります。」

右我方の方針に鑑み、我々は刻下の印度情勢の成行に對して深甚なる同情理解を以て見守つて居るのであつて、若し夫れ印度民衆の終局的勝利に關しては我々は何等の疑問をも抱いてゐない。蓋し邪は一時的には榮えむも斯くの如きは所謂權花一朝の夢に過ぎず、人類の胸奥より迸る正義と其の當然なる抱負とは何ものをも突破して窮極的勝利を占むること人類史の古今を通じて示顯する眞理であるからである。

聖雄ガンジーは英帝國主義の桎梏の下に遂に絶命するかも知れない。又更に多くの印度指導者が英國壓制の犠牲となつて尊き血を流すかも知れない。

然し乍ら印度四億民衆の胸中深く根ざした獨立獲得の精神は如何に頑迷不戻なる英國政府の彈壓に遭ふとも決して死滅することは無い。

協力的印度人に對する取扱に關する情報局發表

昭和十八年二月二十六日

帝國は新しき印度の建設の爲に深甚なる同情と全幅の協力を惜まざる方針なることは屢々闡明し來つたのであるが、今回右方針に基き從來敵産管理法及資金凍結令の適用上は英國と印度との關係よりして印度人を敵國人と看做し來つた取扱を改め、帝國の戰爭目的を理解し大東亞建設に協力する多數の印度人に對しては右法令の適用より除外し事務的取扱に就ても敵國人扱を爲さざることとした。但し帝國の眞意を解せず敵性行動を爲す者は此の限にあらざること勿論である。

尙米國、英國及和蘭の舊領土にして現に我占領地域たるフィリッピン聯邦、香港、舊英領ボルネオ、舊英領マライ、ビルマ及舊蘭領東印度の住民に對しても亦右と同様の取扱を爲すものである。

協力的印度人に對する取扱に關する大藏省發表

昭和十八年二月二十六日

印度は昭和十六年十二月二十四日以降敵産管理法上の敵國に指定せられ、印度人は敵國人としての取扱を受け、又外國爲替管理法に基き外國人關係取引取締規則に依る指定國人としてその取引につき取締を受けて來たのである。之は印度と英國との間の關係よりして已むを得ざる處置であつたが、印度は既に精神的に英國より獨立して居り、帝國としてはその完全なる獨立に絶對の支援を惜まざる方針であり、印度人中大東亞の開放に就て米英の羈絆を脱せんとし吾等と志を同するもの續出する有様であるので、今般印度人を敵國人及び指定國人より除外することとした。但し印度

人にして帝國の眞意を解せず敵性行動に出づるものに就てはこの限りにあらざることとしたのである。尙米國、英國及び和蘭の舊領土にして我占領地域たるフィリッピン聯邦、香港、舊英領ボルネオ、舊英領マライ、ビルマ及び舊蘭領東印度の住民に就ても亦右同様の取扱を爲すこととした。以上に關する大藏省告示は近く公布せらるゝ豫定である。

最近の國際情勢(カサブランカ會談と其の後)

情報局第三部長 堀 公 一

昭和十八年二月二十三日放送

昨年十一月米英軍の北阿上陸作戦は、初期の華々しい宣傳に反し樞軸軍が逸早くチュニジアの戰略上の要地に集結した爲米英軍の攻勢が著しく鈍つたのみならず、他方グルラン、ジロー及ド・ゴール兩傀儡を繞る米英の確執が曝露せられて天下の嘲笑を買ふと云ふ實情で、米英輿論が焦慮の色を見せて來た折柄、米英政府は一月二十六日共同發表を以てルーズヴェルトとチャーチルとが佛領モロッコのカサブランカに於て一月十四日より同二十四日迄の十日間會談を行つたことを發表致しましたことは御承知の通りであります。

ルーズヴェルト、チャーチル會談は今回が第四回目である譯でありますが、其の會談内容に付て米英側は、

- 一、此の會談に於て今年に於ける對日獨伊作戦全般に付米英兩國當局間に具體策の一致を見た。
- 二、此の會談にスターリン氏の参加を求めたが其の出席を得られなかつた。但し會談の經過並に援蘇援將の具體事項に付ては逐一之をスターリン氏及蔣介石に通報した。

三、此の會談にはジロー及ド・ゴールも参加させ、其の麾下の軍隊は反樞軸陣營に加擔することゝなつた。等の事項を發表し之に附け加へて米英は樞軸國側を無條件降服させる迄は鋒を収めないのだと例に依つて大見榮を切つて居るのであります。

之等敵側の發表は別と致しまして、各般の情勢上、此會議の主要題目が歐洲に於ける作戰計畫にあつた事は略、確實でありまして、恐らく英國側の歐洲主戰論が勝ちを占めて、米國も今年は歐洲の作戰に全面的に協力すること、その代り英國は絶対に太平洋戰を放棄して講和するが如きことのない保證を與へたものと思はれ、又附隨的に米英のソ聯に對する態度、重慶に對する援助、佛蘭西アフリカ傀儡政府に對する方策等が論議せられたことは勿論であります。此會議に付ては、本年一月中旬頃より米英報道機關は反樞軸國間に戰爭遂行に關する重要會談が行はれるであらうことを頻りに報じ、或るものはルーズヴェルト、チャーチル、スターリン、蒋介石の四人の間に會談が行はれて居ると迄傳へ、其の主要協議内容としては、米、英、ソ、支四國軍事委員會の結成、對潜水艦戰術の樹立等があらうと取沙汰せられて居り、一般民衆も何か重大決定の發表があるものと豫期してゐたのであります。所が發表せられたものは、頗る抽象的であり、決定事項が具體的でないもので、一部に不満があり、殊にスターリン氏と蒋介石とが出席しなかつたのみならず、其の代表者すら出席しなかつたことに付種々の憶測が行はれ、傳へられた様な反樞軸戰線の統一を計るべき米、英、ソ、支四國軍事委員會が成立しなかつたこと、及益々重大化しつゝある獨潜水艦對策に關する決定が發表されなかつたこと、又ジローとド・ゴールとは、一應仲直りはした様なものの根本的には全然解決策が講ぜられなかつた事等の爲め、政府筋の甚々しい宣傳にも拘らず、一向意氣は昂つて居らぬ模様であります。ルーズヴェルト、チャーチ

ル共に歸國後辯解とも宣傳とも付かぬ言明を繰り返して居るのも之等の不滿緩和の爲かと考へられるのであります。カサブランカ會談後、ルーズヴェルトはブラジルへ赴きヴァルガス大統領とナタールに於て會見し、又チャーチルはトルコに赴きイノニュー大統領とアダナに於て會見致しました。ナタール會談は一月二十八日に行はれ、其の内容は西アフリカを樞軸軍の作戰基地となさしめぬ方策及南太平洋並にカリブ海に於ける樞軸潜水艦に對處する手段を協議したとあります。

ナタールは南米大陸中最もアフリカ大陸に近い地點にある爲、アフリカに野心を有するルーズヴェルトは夙に此地に目を付け、戰爭前からブラジルより軍事基地として借用して居たのであります。之から見ても今回の會談に於ては、ブラジルを基地としての、米のアフリカ侵略方策に關する協議が行はれたことは、略、疑ひ無い所と思はれます。

米國としては、北阿に於ける軍隊の補給や喜望峯廻りに依る印度及濠洲に對する補給を、樞軸の潜水艦に依る脅威から少しでも安全にする爲に西アフリカと大西洋上の諸島嶼とを確保する必要があるのであります。西アフリカの佛領に兵を入れるのは佛の叛逆者と話の付いた今日では何でも無いことではありますが、出來得れば他國の軍隊で同じ目的を達するに越した事はない、殊にブラジルの兵隊は熱帯に慣れて居る等の事情から、米としてはブラジル軍隊を利用するのが得であります。又米國の垂涎措がさる大西洋上のアゾレス群島、カボ・ヴェルデ諸島等はポルトガル領であつて、必要がある場合には同じポルトガル系であるブラジル軍を利用してポルトガル領へ侵入すれば、米に對する非難も幾分緩和され様と云つた米の野心から頻りにブラジルの出兵を追つて居る模様で、ブラジルは既に五萬人の出兵準備を整へたのが、軍隊の反對の爲めに紛糾を生じ一時出帆延期となつたと傳へられて居ります。

一方チャーチルは一月三十日及同三十一日の兩日に互りシリア國境に近きトルコの一小都會アダナに於てトルコ要人と會見したのであります。此の會談に付ての發表に依りますとトルコ代表は、最近數年間のトルコの政策を説明し、之に對しチャーチルは英政府がトルコの政策に同情と十分なる理解とを有する旨を確信し、又英土兩國代表間に、トルコの一般的國防を強化する目的を以て、米英が物質的にトルコを援助する事に意見の一致を見たとのことであります。トルコはダーダネルス海峡を握つて、黒海と地中海との連絡路を押へて居り、歐亞兩大陸に跨つて位して、バルカン諸國、ソ領コーカサス及びイラン、イラク、シリアの近東諸國と國境を接して居るので、其の向背は、樞軸國、反樞軸國の等しく注目する所であります。若しトルコが樞軸國側に參加すれば、樞軸國軍隊が直にイランを経てペルシヤ灣に進出し、若しくはシリア、パレスタインを経てスエズを攻略するに多大の便宜を受けるのであります。之に反し、トルコが反樞軸側に加擔すれば、直接バルカン諸國を窺ひ得て、最も有效な第二戰線を結成する基地となり得る譯であります。

然し今次大戰に對するトルコの政策は戰爭絶對不介入であつて、之が爲同國は、戰爭開始以來英國との間に同盟條約を結び、ドイツとの間には友好中立條約を締結し、又ソ聯との間には不侵略條約を爲し、斯くて只管中立の維持に努めて居るのであります。

チャーチル訪土の目的は勿論あわよくばトルコをして其の中立政策を抛棄して反樞軸國側に參加せしめんとするにあつたと思はれますが、チャーチルの此の使命は一應失敗に歸し、トルコの中立政策には變更無き模様であります。チャーチルも歸國後の議會演説で米英側の報道機關がトルコが反樞軸側に走つたとの如き宣傳を行つてゐたのを押へ

て政府公表以外に何か特別なものがあると思つてはならぬと戒めてをる様な次第であります。但し世界でも有名な算盤高い英國が、代金をとらないで軍需資材の供給をやると思ふのであり、又最近喧傳せらるゝ米英の歐洲第二戰線中バルカン方面よりの反攻企圖が相當重要性を以て論ぜられて居る現在、トルコの歸趨を廻る英米側の策動は依然十分の注意を要する事は勿論であります。

扱て以上の様な外交上の動きが進んで居る一方、戰局の一般情勢は何うなつて居るかを一瞥して見ませう。

米英主として米國が遭遇した第一の蹉跌は云ふ迄もなく南太平洋の作戦であります。

本月九日にガダルカナル、ブナ方面より任務を完成せる皇軍が轉進を了したことが大本營より發表せられ、尙此の南太平洋方面の作戦に伴ふ敵方の莫大なる兵員、艦船及飛行機の損失に付ては屢次の發表に依り皆様既に充分の御承知のことと思ひます。

抑々米國の對日戰術は、開戦前の大艦巨砲主義よりハワイ馬來沖海戦の敗戦に依り航空母艦中心主義に轉じ、次で珊瑚海、ミッドウェー海戦の敗戦に依り航空母艦に重大な損害を蒙るや、所謂沈まざる航空母艦陸上基地の奪回を企圖するに至り、斯くて濠洲を根據地として、皇軍に占據せられた太平洋上の諸島を奪還し且は布哇濠洲間の聯絡路を確保せんとしてガダルカナルに及ブナ方面に進撃し來つたものと思はれるのであります。

敵側は最初本作戰を對日反攻の基地を得る爲のものであると積極的な意味を持たせて宣傳もし、又其の積りで攻撃して來た模様であります。敵地深く挺進した我が戦線の最末端を反撃するに―而も我が軍隊が轉進した後初めて占據することが出來たのであります。一六ヶ月の日子を要したのであります。

勿論之は同地方の作戦に當れる我が忠勇なる將士の文字通り筆紙に盡し難い勞苦と犠牲と戦闘精神の賜であつて、若し日本以外の軍隊が之を防守したとしたならば一ヶ月も之を保持する事は出来なかつたであらう、此の戦闘を通じて日本將兵の表はした勇敢さは流石の敵も賞讃措かざるものがあり、敵國新聞雜誌通信の語り草となつて居る實情であります。

其の結果敵側は此の如き戦術では成功しないと云ふことを覺るに至り、國內に於ても島から島へと日本軍の根據地を一つ一つ奪取しようとする策戦は途方もない長日月と夥しい人命の犠牲を必要とするではないかとの非難が起つて來たのであります。

其處で米國海相ノックス遊りも、本作戦は濠洲自體及濠洲と米國との連絡路に對する脅威を緩和せんとするものであると消極的な宣傳を始め、二月十一日には米海軍としては島から島へと攻撃する戦術を固執するものではないと言明し、ルーズヴェルトも本月十二日の演説中で、島から島への作戦で日本を參らす事は長日月を要して到底期待出来ないが、對日反攻の道は何も一つに限つたことではない、支那から行く手もあるでは無いかと云つて、米の戦術が失敗に歸したことを事實上認めて居るのであります。

ガダルカナル島—太平洋の眞の一點に過ぎない—を占據する爲に拂つた米國の損害は大本營發表に依れば軍艦沈没九十八隻(破損したものを含まず運送船を含まない沈没した軍艦計りの數字であります)、飛行機一千三百以上、陸上戦闘だけで米國青年の生命二萬五千以上に達して居るのであります。之等の數字は勿論米國一般大衆にはひたかくしにかくされて居ります。さてさうなつて見ると米國の目に浮ぶのは矢張り支那戦線であつて、ルーズヴェルトが支那

を基地とする日本の空襲を再び叫び初めたのも敍上の状態に基くものであります、そこで我々は暫く重慶の様子を眺めて見ませう。

ビルマを皇軍に占領せられて以來、ビルマ・ルートは使用不可能となり、今は飛行機でヒマラヤ越に細々と援將物資を送つてゐるに過ぎないのでありますから、米、英側より一向約束の援助を得られぬ重慶は、カサブランカ會談に招待されなかつた蔣介石の面子問題は兎も角として、先づ「百の約束より一臺の飛行機」と昨今頻りに米國に向つて、救援方を懇願して居り、駐英大使の顧維鈞夫人將又宋美齡送動員して只管米國に泣き付いて居るのであります。然し、乍ら元々之は無理な相談であります。武器貸與法に關する米國議會への報告に依りまして、戦争開始以來輸送された物資は船で計算して全部で千七百四十五隻分であつて、内重慶向は僅に六十六隻分となつて居ります。而もその重慶向け物資の内、輸送出來ず印度に於て滞貨となつて居るものが過半を占めて居るのであります。援將物資の不充分に付ての非難に對して、米武器貸與局支那部長フランクリン・レイはルーズヴェルトの演説にも拘らず本月十五日に次の様に述懐して居るのであります。

「日本が支那の海岸線とビルマ・ルートの雙方を抑へて居る限り大量の武器を支那に送り込む方法がない、言葉の上で支那に對し好意を持つてゐても、又支那が對日攻撃の最良の位置であることを良く理解しても、先づ適當な陸路を開く迄は十分な對支援助を期待することは出来ない、このことはビルマ奪回の必要を意味し、更にそれはビルマ總攻撃の爲の海軍力の必要を意味する。然らばこの海軍力は何處にあるか、米海軍は太平洋戦に多忙であり、又英海軍の大部分は目下北阿作戦に参加してゐる。北阿作戦が旨く行つて英海軍の大部隊を此の方面から解放される

ならビルマ總攻撃も出来ようが、其れ迄は乍遺憾地中海戦の目標の一つが支那の背後への途を開くことであると思つて慰めるより他無い。

と辯解して居りますが、彼は實務家だけにルーズヴェルトより良く現實を認識してゐると評すべきでありませう。重慶救援の爲に、米、英としてはビルマ奪回の要のあることは別にレノの所論を待たずとも明かだ、現に米英が英將デイルと米將アーノルドを派遣して蒋介石やウエーヴェルと會合させ又重慶が何處欽を印度に派遣したのも其の表はれと思はれます。

然らばビルマ方面の情勢は如何か。

ビルマに於ては昨年皇軍が英、重慶聯合軍を驅逐し、英國の壓制に苦しんでゐたビルマ民衆を解放して以來、民衆は良く皇軍と協力、大東亞共榮圏の一環としてのビルマ再建に努力し來り、殊に一年以内に獨立の國家として認めるとの東條首相の言明を得て、歡喜に燃えて居ります。

之に反し、米、英のビルマ反攻の基地となるべき印度の現状は如何でありませうか。

米英は例の大西洋憲章で「兩國は總ての人が自己の政體を選擇する權利を尊重す」と立派さうなことを宣言してゐるのでありますが、此の宣言の下に當然許されるべき印度獨立は完全に無視せられ、昨年八月からは英國は無謀にも印度に對し強壓政策を執り、之が爲め投獄せられたる者並に、暴虐なる英國軍隊及警察に依り殺害された無辜の民衆は極めて多量に上つて居ります。而も引續く英國の暴狀に耐え兼ねて、最近ガンヂー翁が老齡をも顧みず斷食を開始したことは皆様御承知の通りであります。而も英國は印度人に食糧を充分供給せざるのみならず、却つて不足の食糧を印

度駐屯英米軍の爲徴發するので、印度は今や極度の食糧難に襲はれ、民衆は塗炭の苦しみに陥つて居るのであります。斯くの如き印度を足場として、皇軍の嚴然として守備するビルマの奪回を畫策するとは甚だ烏滸がましき次第と評する他無いのであります。他方我方に於ては、皇軍は一月決然參戦したる國府軍と協同の上本月中旬より中支那其他各地に於て新作戰を開始し、殘存重慶軍の掃蕩を行つて居り、一方佛國と協定し二月二十一日廣州灣に進駐を完了、戰略上の要點を確保致しました。

斯くて日本は南太平洋に於ても、ビルマに於ても、支那に於ても、遠くアリューシャンに於ても、敵に乘ずる隙を與へず、不敗の態勢を益々固くするに至つて居るのであります。

次に敵側第二の蹉跌はチヌニア作戦であります。敵側はチヌニアは昨年十二月末迄にとるか、又は本年三月迄にとるとか宣傳して居たのでありますが、リビヤより西方に撤退中のロンメル軍が無事チヌニア入りをし戦線の短縮と戦力の集結が完成しますや、樞軸軍は果然攻勢に出で今日迄の處チヌニアとアルヂェリアの國境線に近いトゼウル、ガフサ、フェリアナ、カセリン等の町が悉く樞軸軍の手に歸し、主として此の方面防衛に當つた米軍は重大な損害を受けた様であります。收戦に臨むと責任のなすり合ひをやるのが聯合軍の常であります。今回も倫敦邊りでは早くも米國軍の訓練なく經驗なき事を指摘し、中部チヌニアに於ける米軍の敗退は歐洲全體に對する作戰豫定を狂はすに至つたと非難をやり初めて居り、ロンメル軍の後を追つて南部チヌニアに入つた英第八軍の北進を只管に待ち詫びると云ふ狀況に到つて居るのであります。

此の時に當つて、米英側にとつて何等かの快報がありとすれば、それは獨ソ戰東部戦線に於ける獨逸軍の撤退で

あります。敵側宣傳機關は聲を収めてこの戦況の誇張宣傳に努めて居るのであつて、又東部戦線に於ける局地的の蹉
跌並にスターリングラード方面に於て獨軍が相當の損害を受けた事實は獨逸政府の認めて居る處であります。敵側
が宣傳する様に歐洲に既に築き上げられた樞軸陣營の基礎を危くするが如きものでは決して無いのであります。殊に
最近に獨逸軍は隨所にソ聯軍に反撃、重大な損害を與へつゝ戦線の短縮の爲め撤退を行つて居る模様で、之は來るべ
き春季大攻勢の基地線を固めるものと信ぜらるゝのであります。茲に興味ある事實はソ聯軍の冬季攻勢を廻つて早く
も彼等の陣營の脆弱性を曝露して居る事でありませう。

即ちソ軍の冬期攻勢が米英の豫期に比して進捗した爲米英に於ては早くもソ聯に對し嫉視、猜疑が表はれて來た事
であります。元より戦争目的を異にした寄り合世帯の反樞軸聯合でありますから、何か事が起れば反目するのは當然
であり、米英側の獨ソ戦争に付ての希望は兩者の共倒れであるので、萬一獨逸がソ聯に完敗したら歐洲の覇權はソ聯
に握られ、米英の手を出す隙が無くなることを心配するものも尤もであります。米英の言論機關が歐洲に於けるソ聯の
勢力範圍を限定せねばならぬとか、ソ聯はバルト三國とベッサラビア位で満足すべきであるとか、假令ソ聯が勝つた
としても疲弊してゐるであらうから米英でソ聯の我儘を抑へられるであらうとか、中にはソ聯がバルト三國並にバル
カン方面の失地回復を求めるのは當然であるが米國も亦太平洋諸島中占據を希望するものがあらうから今の中に關係
國の間に協定を遂げ置くべきであるとか論じて居るのであります。

何れも取らぬ狸の皮算用で、無用の取り越し苦労ではあります。一寸でも戦況が有利に進むと早速戦後の自己の
勢力確保だけを考へ出し、彼等の主張せる大西洋憲章も二十六ヶ國の共同宣言も何もかも忘れ果てたかの如き主張を

敢てする米英の醜惡なる態度には我々道義を信條とする日本人は全く呆れるより外なき次第であります。
扱て世界の大局を斯様に觀察して参りますと此の世界大戦に於て現在樞軸側の占むる必勝不敗の地位が判然りと解
るのであつて局地的の勝負等は問題にはならないのであります。

然し乍ら常時も云ふ通り敵も必死であります。今年に敵は主力を擧げて歐洲に於て新攻勢に出づるであります。
又太平洋に於てもルーズヴェルト大統領が日本空襲を言明した手前もあり將又重慶瀛洲への面子もあり各種の攻勢
殊に通商破壊戦及空爆に力を注ぐことでもあります。然し通商破壊戦や空襲が急速なる致命的打撃を與へ得ない事は
敵國英本土の例を見ても解るのであります。聖戦完遂の要は國民全般が如何なる場面に直面しても恐れず、惶てず、
侮らず、膽を据えて職域奉公に邁進することにありと確信する次第であります。

在支敵産移管に關する情報局發表

昭和十八年二月八日

帝國政府は戦争完遂に付ての協力に關する日華共同宣言の趣旨に據り大東亞戦争勃發以來日本側に於て押收中の在
支敵産處理に付ても中國側に對し好意的に措置すべく準備中の處今般其一部の準備整ひたるを以て不取敢主要なる敵
産中千餘件を正式に中華民國國民政府に移管することとし本二月八日其の手續を了せり

治外法權撤廢専門委員會委員、專管租界還付實施の爲の 委員任命に關する情報局發表



本日左の通り發令せらる

昭和十八年二月九日

- 特命全權公使 堀内干城
- 大使館參事官 中村豐一
- 特命全權公使 田尻愛義
- 同 鹽澤清宣
- 總領事 高瀬眞
- 特命全權公使 岩崎民男
- 治外法權撤廢專門委員會に於ける帝國委員被仰付
 - 特命全權公使 堀内干城
 - 大使館參事官 中村豐一
 - 特命全權公使 田尻愛義
 - 同 鹽澤清宣

また支那側委員は次の如し
專管租界還付實施のため帝國委員被仰付

專管租界還付のための委員

天津及廣東兩英租界行政移管に關する帝國政府聲明

昭和十八年二月十八日

- 外交部々長 褚民誼
- 無任所大使 吳頌臬
- 駐獨大使 李聖五
- 外交部次長 周隆庠
- 治外法權撤廢專門委員會における委員
 - 外交部々長 褚民誼
 - 無任所大使 吳頌臬
 - 駐獨大使 李聖五
 - 外交部次長 周隆庠
 - 司法行政部々長 羅君強
 - 司法行政部次長 湯應煌

(主任委員)

(主任委員)

天津及廣東の英國租界に對しては大東亞戰爭勃發と共に兵力を進駐し帝國軍に於て之が管理に當り來れる處我方に於ては右租界の行政を國民政府の管理に移すこととなり其の旨國民政府に通報せり

佛國の在支租界還付及治外法權撤廢聲明に關する 堀情報局第三部長談

—於内外人記者團會見—

昭和十八年二月二十四日

曩に帝國の在支租界還付及治外法權撤廢に關する日華協定締結せらるるや伊國政府は直に帝國の政策に同調し在支伊國租界の還付及治外法權撤廢の意旨を聲明する所があり、又佛國政府に於ても豫て同様の意旨を有して居たのであるが愈々今回之を自發的に聲明するに至つた。抑々帝國の租界還付及治外法權撤廢は之に依り過去に於て中華民國に課せられた不平等的制約を打破し以て同國の政治的地歩の向上に協力すると共に大東亞に於ける公正なる新秩序の樹立を促進するの意圖に出たものであつて、伊國政府に次ぎベタン主席統率下の佛國政府が帝國の右意圖に呼應し今回の賢明なる決斷に出でたことは單に中華民國の爲慶賀に堪へざる所であるのみならず中華民國發展を希念する帝國に於ても亦均しく欣快とする所である。

大東亞戰勃發後英國租界は逸早く接收せられ帝國及伊佛兩國の租界は相繼いで自發的に返還せらるることとなつた結果、近き將來に於て中華民國には最早外國專管租界は存在せざるに至る譯である。反之治外法權を有する國家は尙

數多存するのであるが中華民國に於て重慶なる權益を有する伊佛兩國が率先帝國に同調し既に治外法權撤廢を聲明したのであるから中華民國に於て有する權益比較的輕少なる爾餘の諸外國に於ても進んで速に同様の舉に出でんことを我々は衷心希望するものである。

友好及文化的協力に關する日本國ブルガリヤ國間 條約締結に關する情報局發表

昭和十八年二月十一日

日本國政府及ブルガリヤ國政府は現に兩國間に存在する友好及相互的信頼の關係を確認し且一層之を強固ならしめんことを欲し又一方兩國の文化關係を増進せしめ之に依り兩國國民の相互的理解を深からしむるの目的を以て條約締結方に付今般意見の一致を見本十一日午後四時外務大臣官邸に於て谷外務大臣と在京ベエフ公使との間に友好及文化的協力に關する日本國ブルガリヤ國間條約の署名調印を了したり。

友好及文化的協力ニ關スル日本國「ブルガリア」國間條約

大日本帝國政府及「ブルガリア」王國政府ハ

幸ニ兩國間ニ存在スル友好關係ヲ嚴肅ナル文書ニ依リテ確認シ且之ヲ強固ナラシメンコトヲ欲シ

兩國ノ文化關係ヲ増進セシメ且之ニ依リ兩國國民ノ相互的理解ヲ深カラシムルノ希望ニ均シク促サレ



左ノ諸規定ヲ協定セリ

第一條

兩國政府ハ兩國間ニ存在スル友好及相互的信賴ノ關係ヲ茲ニ再確認ス

第二條

兩國政府ハ兩國ノ文化關係ヲ能ク限リ増進スベク之ガ爲最モ緊密ナル協力ヲ爲スベシ

第三條

本條約ハ署名ト同時ニ實施セララルベク且十年間有效トス本條約ハ兩國政府ノ一方ガ本條約滿了ノ六月前之ヲ終了セシムルノ意思ヲ他方ニ通告セザル限リ暗黙ノ更新ニ依リ一年ツツ延長セララルベシ

日米交渉と米英の策謀

—於大阪中之島公會堂—

特命全權大使 來 栖 三 郎

昭和十八年二月二十七日

昨年十二月、日米開戦の一周年に當りまして、ハル國務長官は新聞記者と種々質疑應答を重ねて居りますが、其中「來栖特使は専ら米國を欺く爲に來たのか」と云ふ質問に對し、此の問題は後日更に資料蒐集の上論すべきだと答へたと云ふことであります。又本年一月三日米國國務省の出版した白書(ホワイト・ペーパー)即ち「平和と戦争」と題す

る書物の一節によりますと、グルー大使は既に一昨年一月二十七日附の報告を以て大規模なる眞珠灣襲撃の可能性があると云ふことを本國政府に警告し、其後更に同年十一月三日附即ち私が米國に飛行の爲東京を出發致しました約二日前に我國の經濟力、財政力を消耗せしめ日本を崩壊に導くことが出來ると云ふ様な考へ方に反對し、日本政府は「劇的且危険なる突然さ」を以て日米戦争を避け難くする様な方策を採ることあり得可しと警告したと書いてあります。

之に依て觀ますと、當時は勿論約一年後の今日に於ても米國政府は私が眞面目に交渉を援助する目的を以て飛來したと云ふことを疑ふべき何等の理由をも持つて居らなかつたのみならず、米國政府としては現地に於る自國大使の報告に依て當時形勢が隨る緊迫し交渉上一步を誤れば遂に取返しつかぬ事と成ると云ふ事を充分承知して居つたとが明かに分るのであります。然らば斯様な事實を承知して居つた米國が何故にあの最後通牒にも等しい昭和十六年十一月二十六日附のノートを我々に手交したか、即ちハル長官自身陸海軍長官に對し交渉は事實上終結せり開戦の用意あり度しと云はざるを得ざるに至つたあの公文書を何故吾々に突付けて参つたか、と云ふことは、日米開戦の経緯を検討せんと欲する者に當然起つて來る第一の疑問であります。

事新しく申す迄もなく、本來米國は民論の尊重を少くとも表面上政治運営の立前として居る國柄であります。成る程一昨年十一月中旬私の華府に到着しました前後に於きましても、日米が開戦したら日本は數ヶ月或は數週間の間に壊滅すべしと云つた様な議論もあり、甚しきに至りましては、上院外交委員會の一員たる身を以て日本との交渉は無用であるから來栖の如きは大西洋中に投込むべしと放言するものすらあつたのであります。私は米國政府のやつた如く飽迄我が國を壓迫して開戦を餘儀なくせしむると云ふことが米國民衆多數の希望であつたとは到底信ずる事が

出来ないのであります。

従来兎角我國及歐羅巴に於ては、自國の國情として東京を動かす事が即ち日本を動かす事であり、伯林の動きが即ち獨逸の動きであると思われ得る關係上、紐育、華府等の新聞論調又は記事等を以て直に米國全體の動向と連斷する傾向があるのであります。米國は何分にも領域が廣大である爲に、各地域即ち東部、西部、南部、中西部の各地域によつて各經濟上、政治上、社會上の利害關係を異にするのみならず、建國以來主權が各州にあると云ふ様な國法上の立前を採つて居ります關係上、華府、紐育等の動向殊に新聞の論調記事のみに依て米國人心の動きを判斷することは出来ないのであります。此觀點に立つて私が着米後の極めて短い時間に觀測致しました所によりまして、大體市俄古以西及南部地方等に於きましては日米開戦を欲せざる者も仲々少くなかつたと認められたのであります。現に昨年五月、前大統領フーヴァー氏が紐育でやつた演説の一節によりましても眞珠灣襲撃以前に於ては米國民衆の七割五分は戦争に反対であつたと云ふ事があります。茲に於て民意民論の尊重を其國體の基調とする米國が何が故にかくも多數の國民の意向に反して果し狀に等しい公文書を突付けて我國に戦ひを挑んだかと云ふ第二の疑問が必然的に起つて参るのであります。

此等第一、第二の疑問に對する解答としては、米國が我國力の過少評價をした、即ち前に述べましたグルー大使の報告等があつたにも拘らず當時既に四年以上に涉つた日支事變の結果我國は既に其國力の大部分を消耗して居るから戦争になつてもならんでも、經濟的壓迫さへ加へれば極めて容易に日本を崩滅せしめ又は屈服せしむることが出来ること考へたと云ふこともありませう。又當時米國の一部、殊に所謂ニューデイルの一群、即ち是非此際米國の社會的及經

濟的革新をやらうと云ふ一派の間には、日米戦争を誘發せしむる事によつて參戰問題につき分裂しつゝある國論を一舉にして一致せしめ、且戰時體制の下に嫌應なしに社會改革、經濟改革を遂行せしめんとした様な者もあつたのであります。其他内政方面に於て、他に種々複雑な素因があつたらうと思はれますが、私は其他に更に國際關係に於て一層根ざす所の深い原因があつたと觀測するのであります。殊に其内の主なものは近年の國際政局に於ける米英兩國の共同策謀であつたと考へるのであります。

米英が歴史的民族的に切つても切れぬ關係を有する事は今更改めて申す迄ありませんが、私が茲に特に指摘せんと欲する所は、一九三八年のミュンヘン協定前後からの米英の關係であります。蓋し時の英國首相チェンバレンは此ミュンヘン協定によりまして當時息づまる様に緊迫して居つた歐洲の國際政局を打開し獨逸の關係を一應調節せんとしたのであります。其當時歐羅巴は之によつて戦争必至の空氣から逃れ出で全くホット一息つき、英國民の多數も歡呼の聲を擧げて此協定を持歸つたチェンバレンを迎へたのであります。其時分から此チェンバレンの宥和政策に對し眞向から反對したものは、今日英國の政權を握つて居るチャーチル、イーデンの一派であり、大西洋の彼岸から之に強い支持と聲援を送つたものは米國の有力なる一部の輿論であつたのであります。

當時私は歐洲に居りまして此推移を見守つてゐたのであります。其時一米國外交官は私に對し此米國の動向は要するに英佛等をして對獨戦争を敢てせしめんとするものであるが、然し愈々戦争になつた場合には米國自身は何等英佛を援助すべき實際的な準備を持つて居ないのであると私に嘆息を漏らして居つた様な状況でありました。其後歐洲の形勢は引續き悪化したのみならず、一九三八年十一月には巴里に於て獨逸の一外交官がユダヤ人に殺害されたの

が導火線となり、獨逸に於けるユダヤ人排撃運動が俄然深刻化致したのでありまして、之が爲ユダヤ人勢力が各方面に滲透して居る米國に於きましては獨逸排撃論が益々火の手を擧げ、遂に翌年即ち一九三九年一月の議會教書に於て、ローズベルト大統領は自ら米國に於ける排獨論の陣頭指揮に立つに至つたのであります。其後一九三九年九月に歐洲大戰が勃發し、獨逸軍がワルソー、巴里等に於て押收した公文書の公表されたものによりますと、當時波蘭、佛蘭西等に居つた米國使臣其他は頻りに策謀を逞ふし、此等の國々の對獨強硬論を煽り、之を戰爭に驅り立てた消息が明にされて居るのであります。

斯の如く米英の合作、否寧ろローズベルト一派とチャーチル一黨との結合は、實は此當時から其基礎を固めたものと見る事が出来るのであります。當時の米國は米國一外交官が私に語りました通り、自ら英佛側に參戰する準備も決意も不充分であり、唯だ英佛の結合戦力が大體に於て前大戰通り獨逸の進撃を喰止め之を陣地戦即ち消耗戦に引込み得るであらうから、米國は背後にあつて英佛の武器庫たり軍需工場たる役割をつとめれば充分であると云ふ打算の下に、其外交上軍事上の諸工作を計畫したものと見られます。獨逸が一度其銳鋒を英佛に向けますや、獨逸軍の勢破竹の如く、戰前頻りに難攻不落を宣傳せられたマジノ線の鐵壁も一たまりもなく打破られ、英佛軍は遂にダンカークの惨敗を喫し、佛蘭西の存亡は勿論英本國の運命すら頗る危殆に瀕するに至りますや、米國は愕然として當時其貯藏して居つた武器の殆ど全部を擧げて英國に與へる様な措置に出たのでありまして、ローズベルトが歐洲戰爭參加を決心したのは實に此時からであると考へられるのであります。

一方英國と致しましては、所謂生死の關頭に追詰められ、如何なる犠牲を忍んでも遮二無二米國を戰爭に引入れる

より外に全く生きる道がないと云ふ重大な危機に直面し、それ以來米國引込の爲には如何なる手段をも辭せずと云ふ方策に出たものと見られるのであります。英國の日米交渉に對する態度も亦此遮二無二米國を參戰せしめんとする根本方針から出發して居ると考へらるゝのであります。從て英國は、自國が歐洲で戰つてゐる間支那其他大東亞の各地に於ける自國の地位権力の擁護に米國を利用せんとする政策以外に、飽迄米國を參戰せしむる爲には寧ろ日米開戰を希望したと考へられるのであります。

此觀點に立つて見ますと、今回日米交渉に對處した英國の肚の中はよく讀めるのでありまして、一昨年十一月私が東京を出發致しました前後に於きまして、今日の昭南當時の新嘉坡方面にあつたダフクーパーの一派は頻りに對日強硬策を主張し、日米を開戰せしめる事に依つて米國を戰爭に引込む事を本國政府に獻策して居つたと云ふ報道も傳へられて居つたのであります。又事實此ダフクーパーと共に新嘉坡其他南方方面を巡察して居つた一英國人は急遽ロンドンに赴く爲私と同一の飛行機にマニラから乗込んで米國に向つたのであります。彼は途中私に對して日米交渉は既に手遅れであると申します以外に、ホノルル、桑港等に於きまして新聞記者に對し頻りに日米交渉の成功を妨害せんとするが如き宣傳に力めた様な事もありましたのみならず、我々の乗つて參つた飛行機が故障を起して四十八時間ミッドウェー島に滞留致して居ります間に、チャーチル首相は日米戰爭開始の場合には英國は一時間以内で米國側に參戰すると宣言し、一面我國を威嚇すると共に、米國內の主戦論を聲援するが如き態度を示したのであります。更に私が華府に到着致しました頃には、英國は日米交渉に關しては全部米國の爲すが儘に一任すると言明し、英國は日米交渉をまとめる事に骨を折るよりも寧ろ日米開戰によつて米國が參戰して來るのを待つて居るのだと言はんばかりの態度を示したのであ

ります。

更に又例の昭和十六年十一月二十六日附のノートを愈々當方に手交するに先立つて、ワシントンに於て開かれた所謂 ABCD 會議即ち米、英、濠洲、和蘭、重慶の各代表者の會議に於きましても、英國代表者が此方針によつて會議を導いた事は明かでありまして、現に濠洲代表の如きは、ノート手交の直後に於きまして次に來るべき事態の極めて重大なるべきを憂慮し、之が打開策を講ぜんとして奔走し、英國側にハネ付けられた事實を私は正確に承知して居るのであります。此會議に於て米英の外に、和蘭、重慶代表の如きも頻りに強硬論を主張したと傳へられて居りますが、此等は要するに米英の傀儡で、どの途米英に追隨する外ないのであります。殊に重慶代表の如きは少くとも第一回の會議に於きましては他の代表の後より招致せられ、殆ど事後承諾を求められた様な事實もあつたのであります。

以上申述べました如く、日米交渉を破局に導きます上に於て英國の策謀が與つて容易ならざる力のあつた事は明かでありまして、之は決して米國が單に英國に引摺られた即ち米國が英國の策謀にのみ踊らせられたと云ふ事ではないのであります。それよりは寧ろ米國が英國にとつて代つて國際政治及經濟上の指導的地位を占めんとする策謀に出たと見るべき點が多々あるのであります。

今之を事實について見ましても、加奈陀、濠洲、中南米は何れも相次いで米國の壓倒的勢力の下に隸屬する様になりつゝあるのであります。殊に中南米諸國に付て見ますと、第一次歐洲大戰の結果英國は米國に對して多大の債務を負ふこととなり、其の支拂ふ一部として英國が中南米方面に有して居つた權益を米國に譲りました爲に、前大戰後は米國のラテン・アメリカに對する勢力は俄然増大し、英國の勢力はそれだけ後退するに至つたのであります。

今次の歐洲戰勃發後に於きましても、英國は又々米國に對し多大の債務を負擔することとなり、之が代償として次第に中南米諸國に残存する英國の權益を失ひつつあるのであります。

他方中南米諸國と致しましても、今次歐洲戰争開始後、彼等の主要産物たる農産品、畜産品の主要販路である歐洲市場の大部分を失ふこととなりました結果、忽ちにして經濟上財政上の苦惱に陥り、是亦米國に借款を求めざるを得ざることとなり、米國の中南米に對する制壓力は之に依ても亦益々強大となつたのであります。

更に米國が參戰することとなりますや、米國はラテン・アメリカに對する此の經濟的制壓力を利用して、中南米諸國をして次々に日獨伊三國に對し或は宣戰を布告せしめ或は國交を斷絶せしめ、之に依て此等諸國に於ける日獨伊三國人の財産を沒收し又は凍結せしめ、此等諸國に在留し拮据多年其の基礎を築き上げました樞軸國民の主なる者を大量的に追放せしめ或は拘禁せしむることに依て、日獨伊三國の中南米に於ける正當なる權益を一舉にして壊滅せしめんとしつゝあるのであります。前に述べました英國資本の追放と併せて中南米を完全に米國制覇の下に置かんとしつゝあるのであります。

此等の諸事實は米國の世界制覇が着々築き上げつゝあることを如實に物語るものでありまして、更に之を最近頻りに傳へられつゝある北阿問題印度問題に關し米英の間に起りつゝある暗闘摩擦の裏面と結付けて考へて見ますと、米國が參戰に依て贏得んと目論みつゝあるものが果して何であるかと云ふことは頗る明白に看取することが出来るのであります。

米國は斯の如く明かに世界制覇を目的として戦ひつゝあるに拘らず、之に對する内外の非難を憚かつて頻りにアン

グロサクソンの世界制覇云々を否定するに努めつゝあるのですが、ローズヴェルト大統領以下各要人は相變らず戦後の目標として日獨伊の武装解除、國際警察即ち米英兵力による世界の制御を主張し、副大統領ウォーレスの如きは、昨年十二月廿八日の演説に於て戦後日獨の教育制度に迄干渉し之を監視すべしと唱へて居るのであります、斯の如き考へ方が世界制覇でなくて果してなんでありませうか。

又米英は其後も盛んに例のアトランチック・チャーターによる世界經濟解放を唱導して居りますが、其口の下からチャーターは、昨年十一月十日、マンシヨンハウスに於ける演説に於て、英國帝國主義の擁護、オックワプロック理念の保持を主張し、之が爲米國のウイルキー一派の非難を蒙り、延て米英の間に激しい論争迄惹起された様な有様であり、又米國側にをきましても、オックワプロックと共に世界經濟の痛とも稱すべき其高關稅政策に關しては一指を染めんとする氣色もありません。

抑も前大戦後、米國は國際貸借に於て債務國から一躍債權國となり、國際經濟當然の理法に従ひ從來英國のなした如く輸入超過國たるに甘んじ、以て世界經濟の圓滿なる運営を計るべき地位に上つたのに拘らず、前大戦後に於ても不相變保護政策を固執し、外國から受取るべき商品サーヴィスは高關稅其他の制限方法を以て之を喰止め、對外債權の元利は唯金によつてどしどし取立てると言ふ政策をとつた結果、一方米國には金貨の山が出来、米國自身も遂に持て餘して空しく之をケンタッキーの山中に死蔵し、他方それ迄金を中心として動き來つた國際經濟組織は結局之が爲に崩壊し、世界を舉げて恐惶のどん底に落とし込まれたのであります、米國に於ては今尙此我儘勝手な經濟政策について大統領はじめ只た口先だけで改善を演説する計りで、之を實行する最も手近な方法たるべき自國の關稅政策

變更には今申上げた通り何等手をつけ様ともしない實情なのでありますから、米英の主張する世界經濟の自由と言ふのは要するに彼等にのみ都合のいい自由であるのみならず、彼等が我國に對して行つた經濟壓迫即ち資産凍結とか輸出禁止とか言ふものを今後やらんといふ様なことは一過もいつた事はないのでありますから、要するに不相變各國の米英に對する經濟依存關係を思ふ儘に利用して、彼等の言ふ事を聞かぬ國に對してはいつでも經濟壓迫を加へ様と云ふのであります、斯様な身勝手な構想が世界制覇でなくて何でありませうか。

米國の戰爭目的は、斯の如く、明かに世界制覇の方向に向つて居り、有名なるワシントン大統領の離任の際の告別演説から出發した米國の傳統的外交政策とは全く正反對な傾向を示して居るのでありますから、既に米國內に於ても之に對して不安、不信を抱くものも少くない様であります、米國政府が開戦以來約一年に渉りあらゆる權力、凡ゆる宣傳方法を利用して其戰爭目的を國民に浸透せしめんと努めつゝあるに拘らず、米國輿論調査機關即ち有名なるガロツプの取調べによりますと、米國民の三割乃至四割は今尙米國の戰爭目的に疑念を持つて居ると云ふことであります。

又米國の議會方面に於ても、戰爭目的を一層明瞭ならしむべしと云ふ議論が屢々起つて居り、且米國政府の世界制覇的政策に對しましては、大統領の獨裁權擴充に對する抗争又は武器貸與法即ちリース・ lend 法の運用振調査要求といふ様な形に於て次第に強い反對が起りつゝあるのであります、現に本年の初め英國方面に於ては此形勢を以て孤立派の擡頭なりとして頻る憂慮の色を示した様なこともあり、濠洲自身の新聞の報道する處によりますと、濠洲のカーチン首相の如きはかくの如き傾向か米國の濠洲援助に及ぼすべき影響を慮れ、自ら渡米して此形勢挽回に力めんとしたと云ふことであります。

最近米國が白書を發表したり、ローズヴェルトが一月七日の議會教書を以て頻に戦局の好轉、生産力擴充の實績を誇稱したり、將又ローズヴェルトとチャーチルとが芝居がかりでカサブランカ會談をやつたりして居るのも、一つには此の米國の國內狀勢に對處せんとする工作を多分に含んで居るのであります。

斯の如く米國にも種々な内情はありますが、然し今日迄の所米英共に政府の指導力は益々強化こそすれ何等弱化するを示さず、兩國政府共に相變らず其經濟力物質力を誇示しますと共に、歐洲、北阿、南太平洋に涉つて戦局一變彼等が總反撃に出づべき時期近きにありと宣傳して自國民を引摺り、中立國民を惑はしつゝあるのみならず、最近のカサブランカ會議の結果として笑止千萬にも樞軸諸國の無條件降服を高唱し、チャーチルの如きは先づ獨伊を屈服せしめたる上に於ては米英の全力を擧げて日本を撃破すべしと繰返し豪語して居るのであります。蓋し彼等が無條件降服を云々致しますのは、強ち一時的の「タワ言」と聞流すべきでないものでありまして、彼等は獨逸に對してはベルサイユ條約の對獨條項が手ぬるかつたが爲に獨逸が復興し大戦が再び起つたのであるから、今度こそ獨逸をして再び起つ能はざらしめ様と云ふ考へを持つて居り、日本に對しましては既に我國の興隆が有色人種一般の覺醒を促し彼等の植民地搾取を困難ならしめつゝあるに鑑み、どこまでも日本を倒して其變を除かうと云ふ考へを持つて居るのであります。其の根ざす所は誠に深刻なのであります。

從て我々が彼等を倒すか彼等が我々を倒すか二つに一つであつて、彼等の間に妥協の餘地は全然ないと認めらるゝのでありますから、我々は今後益々全力を傾倒して敵を制壓し、一層必勝不敗の態勢を整へ、以て東亞十億の民族に不動の信念を植付け、且大東亞共榮圈建設に向つて一歩々々力強き行進を続け、遂に如何なる外力を以てしても到底

之を覆滅すること能はざる境地に迄達せしむべきでありまして、之以外には聖戰目的達成の抜け道も近道もないことを充分覺悟せねばならぬのであります。

顧みますれば、既に私共が米國に抑留せられて居りました當時に於きましても、印度獨立運動の慰撫及重慶政權操縱の目的を以て米國一部にも人種平等論が擡頭し、其後其勢は益々盛になつた様であります。然し我々今以て米國が移民法の一行支那人排斥法の一句すらも改めたのを聞かんであります。又我々の主張する世界の平和を地域別機構の編制及其相互協力に依て確立せんとする考へ方も米英に於て次第に表れて参り、米國副大統領ウォーレスの如きも前に述べました昨年十二月二十八日の演説の一節に於きまして「實際問題として地域別主義は國際問題處理上顯著なる價值を有する、例へば歐洲各國は南米の問題につき關心を有するとも之に専念すべきにあらず、それと同時に全米洲諸國は歐洲の問題に關心をもつても之に没頭すべきでない。即ち、純粹な地域關係の問題は之を當該地域に一任すべきである云々」と述べ、議論の上に於ては我々の大東亞共榮圈の構想に多少の接近を示して居りますが、然し彼は遂に東亞の問題に言及せず、又現實の問題と致しましては西半球に於て地域別主義を實行せよと主張する國內の所謂孤立派の人々を極力壓迫して居るのであります。其外爾來米英の表面に唱道する處と其實行する處との間に大なる相違がある事は、前大戦後に於てウィルソンの十四ヶ條が行衛不明になつたことや、華府會議後に於て同會議精神が悪用されたこと等によつて我々はまさきと見せ付けられて居るのでありますから、吾人は今後益々勇往邁進此の大東亞戰爭を勝抜くことによつて米英の自負自惚の根柢を打破り、依て以て彼等が其不當なる優越感や他民族に對する僻見侮蔑から完全に脱却し、先づ彼等自身の良心の前に彼等こそ無條件に降服する迄總てを投出して戦はねばならぬのであります。

終に臨みまして、私は先づ其後引續き各方面に於て擧げられつつある赫々たる戦果に對し、前線皇軍將士の一方ならざる勞苦と敢闘とに向つてただ衷心より感謝を捧げますと共に、米英の戰爭目的が飽迄自國の利益のみに立脚し之が爲に米英の間に争ひまで生じて居るに拘らず、大東亞に於ては一月九日南京國民政府の對米英宣戰により日支協力の關係が一層強化せられ、且一月二十八日議會に於ける東條首相の演説によりピルマ、ヒリツピンの獨立が約束せらるる等着々輝かしき東亞細亞の建設の根幹が打立てられつつあることに對し、諸君と共に心から之を祝福し、且飽迄之が有終の美を爲さしめんがため、外は益々盟邦との結束を固むると共に、内は 大御稜威の下に一億一心「撃ちて止まん」の精神を以てどこ迄も闘ひ抜かんことを誓はんと欲するのであります。

レンネル島沖海戦戦果に關する大本營發表

昭和十八年二月一日

帝國海軍航空部隊は一月二十九日ソロモン群島レンネル島東方に有力なる敵艦隊を發見直ちに進發、惡天候を衝きてこれを同島北方海面に捕捉し全力をあげ薄暮奇襲を敢行敵兵力に大打撃を與へたり

敵は我が猛攻を受くるや惶惶として反轉、南東方に遁走せんとせしが翌三十日更に我が海軍航空部隊は晝間強襲を決行し、これに大損害を與へ敵の反撃企圖を破挫せり、本日迄に判明せる戦果、及我方の損害左の如し

戦果
戦艦 二隻 撃沈

巡洋艦	三隻	撃沈
戦艦	一隻	中破
巡洋艦	一隻	中破
戦艦	三隻	撃墜
損害		
自爆	七機	
未歸還	三機	

(註) 本海戦をレンネル島沖海戦と呼稱す

レンネル島沖海戦戦況に關する嶋田海軍大臣

議會報告

—於貴衆兩院—

昭和十八年二月一日

ソロモン群島方面に於きまして新たなる海戦が起りましたので、茲に其の戦況を説明申し上げます。
一月二十九日帝國海軍航空部隊はソロモン群島の南端、レンネル島の東方海上に於きまして、戦艦、巡洋艦及び驅逐艦等より成る有力なる敵艦隊を發見致しましたので、直ちに進撃、折柄の惡天候を衝いて之を同島の北方海面に捕

捉を致しました。猛烈なる敵の防禦砲火を冒して、薄暮強襲を敢行し、忽ちにして敵の戦艦一隻及び巡洋艦二隻を撃沈致しました。敵は我が猛攻に依りまして、爾餘の艦艇にも相當の損害を受け、惶惶として南方に逃走せんと致しましたが、我が部隊は飽くまで之を追及し、翌三十日有力なる航空部隊を以て再び此の敵に晝間強襲を決行し、重ねて戦艦一隻及び巡洋艦一隻を撃沈し其の外にも大なる損害を與へました。

今回の戦闘はソロモン及び東ニューギニア方面に於きまして、我が陸海軍協同の果敢なる行動に對して、敵が反撃を試みんとして起つたものでありまして、其の企圖は茲に見事に破挫せられたのであります。

以上二日間に互るレンネル島沖海戦の結果は、本日までには判明致しました所は、戦艦二隻及び巡洋艦三隻を撃沈し戦艦一隻及び大型巡洋艦一隻を中破しました外、戦闘機三機を撃墜致しました。

我が方の損害は、飛行機に於て自爆しましたもの七機、未だ還らざるもの三機を出しましたのみで、其の他に損害はありません。

茲に特に附加へて置きたいことは、二十九日の戦闘に於きまして、我が航空隊の指揮官機は、熾烈なる防禦砲火を冒して、敵の戦艦に對し魚雷發射を行ひましたが、發射の直後、被弾の爲め基地への歸投不可能と見るや、驀らに其の戦艦の艦橋目掛けて衝突自爆を致し、自らの發射致しました魚雷に加へて、壯烈身を以て敵戦艦撃沈の止めを刺した事實であります。僚機の目撃に基く右報告に接しまして、全軍異常の感動を受けたのであります。以上を以ちまして戦況報告を終ります。

イサベル島、ニュージヨージヤ島、カントン島 方面海軍戦果に關する大本營發表、

昭和十八年二月四日

一、帝國海軍航空部隊は二月一日ソロモン群島、イサベル島南方に機動中の敵海上部隊を捕捉攻撃し、又ニュージヨージヤ島方面に於いて挑戦し來れる有力なる敵航空機群と交戦之に多大の損害を與へたり、戦果及我方の損害左の如し

戦 果 巡洋艦一隻轟沈、巡洋艦一隻小破、飛行機三十三機撃墜(内大型爆撃機四)

我方の損害 自爆及未歸還十機

二、帝國海軍潜水艦は一月二十三日及同三十一日フェニックス諸島、カントン島の敵軍事施設及在泊艦に砲撃を加へたり

南太平洋方面戦況に關する大本營發表

昭和十八年二月九日

一、南太平洋方面帝國陸海軍部隊は昨年夏以來有力なる一部をして遠く挺進せしめ、敵の強靱なる反攻を牽制破砕しつゝ其の掩護下にニューギニア島及ソロモン群島の各要線に戰略的根據を設定中の處既に概ね之を完了し茲に新作



戰遂行の基礎を確立せり

二、右掩護部隊としてニューギニア島のブナ附近に挺進せる部隊は寡兵克く敵の執拗なる反撃を撃攘しつゝありしが其の任務を終了せしに依り一月下旬陣地を撤し他に轉進せしめられたり

同じく掩護部隊としてソロモン群島のガダルカナル島に作戦中の部隊は昨年八月以降引續き上陸せる優勢なる敵軍を同島の一角に壓迫し激戦敢闘克く敵戦力を撃攘しつゝありしが其の目的を達成せるに依り二月上旬同島を撤し他に轉進せしめられたり

我は終始敵に強壓を加へ之を憤伏せしめたる結果兩方面とも掩護部隊の轉進は極めて整齊確實に行はれたり

三、現在までに判明せる戦果及我が軍の損害は既に發表せるものを除き左の如し

(一) 敵軍に與へたる損害

人員	二五、〇〇〇名以上
飛行機	擊墜破 二、三〇機以上
火砲	破壊 三〇門以上
戦車	破壊炎上 二五臺以上

(二) 我方の損害

人員	戦死及戦病死 一六、七三四名
飛行機	自爆及未歸還 一三九機

南太平洋方面戦況に關する政府委員報告

— 於實業兩院豫算總會 —

昭和十八年二月十日

今般南太平洋方面の戦況に關し、大本營より發表せられましたので、私は之に基きまして陸海軍を代表して、主として陸戦の戦況其の他を敷衍して説明申し上げます。

先づ南太平洋方面の作戦經過に付て——南太平洋方面に於きましては、昨年八月七日米海兵隊約一師團が有力なる海軍護衛の下にガ島——是であります。是が全體がソロモン群島、其の北のツラギに上陸を致しまして、五月下旬以來ガダルカナル島に位置して居りました我が海軍小部隊と交戦中なりとの通報に接するや、陸軍は直ちに太平洋方面に行動中の某枝隊を急派し、次いで爾他の方面よりも兵力を増遣致しました。派遣せられました第一線指揮官は戦況の機微に處し、友軍たる海軍部隊の危急を救ふ爲め、獨力優勢なる敵に對し、攻撃を敢行し、或る部隊の如きは、敵中深く突進し、敵飛行場にも進入し、以て敵に大なる打撃と脅威とを與へたのであります。遂に敵を撃滅するの目的は達するに至らなかつたのであります。爾後更に兵力を増加して、南太平洋方面に於ける戦略的根據を設定し、今後の大作戦遂行の基礎確立を掩護する爲に敵を此の方面に牽制するの任に當らしめました。即ち斯う云ふ線に——ニューギニアの北方地區ニユーブリテンから北部ソロモン方面、是からずつとマーシャル群島に續くのであります。斯う云ふ線に戦略根據を設定して、爾後の作戦の基礎を確立するのを掩護せしむる爲に、此の方面(ニューギニア北方)、

此の方面(ブナ附近)に挺身させまして、敵を牽制するの任務に當らしめたのであります。所が此のガダルカナル島の地上作戦に協力すべき我が飛行隊の兵力は僅少でありましたのみならず、我が飛行場はガダルカナル島から後方千キロ以上も遠隔した位置にありましたのに對して、敵は機械力を利用して短期間に多數の飛行場を設定して、之に優勢なる飛行隊を續々増派して参りました爲に、我々はガダルカナル島方面の制空権を獲得することが出来なくなつたのであります。敵は制空上優位の地位に立ち、更に勢力を増加して飛行場周辺には堅固なるトーチカ陣地を構築するに至つたのであります。

我が作戦根據地から海洋遙かに隔絶致しました此の堅固なる陣地に對し、而も敵制空権下に遠く海上機動を行つて攻撃することは洵に至難の業でありました。又ニューギニア方面に於ける敵軍は、濠洲を基地とする米濠洲合軍であります。敵は既にポート・モレスビーに駐屯して居りました濠洲軍に對し、昨年八月頃から逐次兵力を増加して参りました。我が一部隊は昨年七月上旬ブナに上陸を致しました。九月初旬スタンレー山脈の線を突破してポート・モレスビーに近く迫つたのでありますが、全般の關係上ブナ附近に轉進させまして、海岸線附近の部落を固守してガダルカナル島部隊と同様に、南太平洋方面に於ける戰略據點を設定し、今後の大作戦遂行の基礎を確立するのを掩護する爲に、敵を此の方面に牽制するの任務に當らしめられたのであります。斯くしてソロモン群島のガダルカナル島並にニューギニアのブナ附近の部隊の我が將兵は、半歳の久しきに亙り、酷熱且つ濕潤なるジャングル内にありまして、凡ゆる困苦缺乏に耐へつゝ寡兵能く執拗なる敵の反撃に對して常に果敢なる攻撃に次々に攻撃を以てして、如何に損害を蒙るも尙ほ能く要地を固守して敵を牽制し、此の間ビルマから舊蘭印諸島、北部ニューギニア、北部ソロモン群

島を経てマーンシャル群島及び其の以北に亙る現在の第一線戰略據點を確保し、部隊の配備を終り、今後の新作戦遂行の基礎を確立するの目的が達成出来ましたので、ブナの掩護部隊は一月下旬、ガダルカナル島の掩護部隊は二月上旬、それ／＼撤退を開始して、新任務に轉進せしめられたのであります。兩方面の掩護部隊は、敵飛行機、敵軍艦の跳梁する中に、常に我が軍の制壓下に敵を俯伏せしめながら整齊確實且つ悠々と之を完了したのであります。

次にガダルカナル島及びブナ方面作戦の戰術的意義に付て申し上げます。我が軍はフィリッピン、マライの緒戦に大戦果を得るや、敵に息をもつかせず總進撃に移り、大東亞に於ける敵の戰略據點と重要資源地域とを悉く神速果敢に攻略する爲に、ビルマからスマトラ、ジャワ、セレベス、チモールを経てニューギニア及びソロモン群島の線に向ひまして一舉に敵を急追したのであります。此の我が軍の總進撃の最尖端に突進しました追撃隊が此のガダルカナル島及びブナ方面の部隊であります。

大東亞の戰略據點及び重要資源地域を將棋倒しに棄てまして、敗退に敗退を重ねました敵は、濠洲及び其の附近の根據地援護の下に、新たな増援兵力を得まして、ニューギニア及びソロモンの線に於て我が軍の追撃から逃れ、立直つて反撃に出たのであります。是に於てニューギニア及びソロモン群島の線で我が追撃と敵の反撃とが期せずして一大遭遇戦を惹起したのであります。斯様な状況に於きましてガダルカナル島及びブナ方面に向ひました追撃部隊は、此の日米大遭遇戦の前衛の役割に變つたのであります。即ち此の部隊は此の大遭遇戦の前衛の役割を擔當致しまして、さうして本隊の展開を援護する任務となつたのであります。其の本隊の展開と申しますのは、即ち是へ飛出し是へ飛出して後ろに於ける本隊の展開を援護することになりました。即ち是等後方要域——ずつと蘭印からビルマに

互ります此の後方要域に於ける戦略態勢の確定を援護すると云ふことであります。さうした本隊の展開を援護する爲に、敵の反攻準備はさる以前に敵地深く挺進をしたのであります。

抑、遭遇戦に於ける前衛の任務は、遭遇戦と云ふ戦ひの方式に於きまして、前衛と云ふものは如何なる役割をするものかと申しますると、要地に向つて獨力攻撃をする、或は要地を占領して敵を拘束して置いて、此の間に我が本隊に整然たる展開の自由を與ふると云ふのが遭遇戦に於ける前衛の任務であります。我がガダルカナル島部隊は米國の一大反攻據點であります所の濠洲と米本土との連絡路を——此の濠洲からニューカレドニア、フィジー、サモアの後ろを通つてハワイから飛石のやうに濠洲に連絡路があるのであります。ソロモン群島ニューギニアは是であります。此の米濠連絡路に對して、連絡路を脅威される位置にありまする敵側に取つては痛い所であり、又ソロモン群島の中に於きましては、良好なる航空基地を持つて居ります所のガダルカナル島に向つて獨力攻撃を斷行したのであります。ブナの部隊も同じく前衛の役割に當りまして、先程申上げました如く先づ此のスタンレー山系を突破してポート・モレスビー近くまで攻撃を致しました。爾後此のブナ附近の要地を確保して本隊の展開援護に任じたのであります。此の兩前衛の獨力攻撃に依りまして、濠洲及び米濠連絡路を脅威せらるる痛さに堪へ兼ねて、米國は反撃に出で得る力を擧げて此のニューギニアの一角とガダルカナル島に奮進して參つたのであります。

斯くてソロモン群島中四國の半分にも足らない蕞爾たる島とニューギニアの一角とが日米遭遇戦の焦點となつたのであります。此の大遭遇戦の焦點就中ガダルカナル島には、我が海軍部隊の一部が敵に先んじて之に上陸して其の一角を保持して居つたのであります。何しろ今日の戦場の王座である所の航空基地が敵の領有に歸しました爲

に、我れは戦術上甚だ不利となり、特に海上補給の上に格段の困難がありましたにも拘らず、半歳餘の久しきに互り難戦苦闘を續け、而も此の不利なる立場に、終始攻撃に次々に攻撃を加へた其の奮闘は、米國の大平洋に向けられたる海陸空の全力を悉くソロモン、ニューギニア方面に牽制し、以て本隊たる諸部隊をしてビルマから舊蘭印諸島ニューギニア、北部ソロモンを経てマインシャル及び其の以北に互り確實に戦略展開を完了し、戦略據點と重要資源地域を悉く包蔵する此の大東亞共榮圏の外壁にして、且つ今後の攻撃作戦の足場を固むることが出来たのであります。

抑、本隊の戦略展開が餘りに迅速且つ整齊に出来ましたので、世人の注意を惹かなかつたのであります。然るに米軍に取つては展開、即ち大東亞の外壁を固むると云ふことは實に容易ならぬ大事業であつたのであります。然るに米軍に取つては濠洲や、米濠連絡路に脅威を感じる痛い所とは云ひながらガダルカナル島やニューギニアの一角に半歳餘に亘つて全く牽制せられまして、我れをして爾他の全域を悠々と固めさせました米軍戦略の幼稚さ加減は、洵に笑止千萬なのであります。

次に何故ガ島及びブナ方面の部隊が撤退したのかと云ふことに付て申上げます。抑、遭遇戦に於ては、先程申しました如く前衛が或る要地に向つて獨力攻撃すると云ふやうな場合に於きましては、通常本隊は此の前衛の戦闘に逐次どん／＼加入を致しまして、さうして前衛と一緒になつて敵を攻撃するのが本則であります。併し時として前衛をして前方の要地にどん／＼戦闘をさせて置きながら、本隊は其の後方に展開をして戦闘準備を完成をし、其の戦闘準備が成ると、此の前方に出て居つた前衛を本隊の線に後退せしむることがあります。此の方式を私共は戦術上後退展開と申します。アメリカでは遭遇戦防禦と云ふやうな言葉を使つて居りますが、後退展開と申します。此南太平洋の遭遇

戦には此の後退展開の方式が採用せられたのであります。其の理由は次の通りであります。

一、此の戦ひは我が軍がフィリピン・マライの線から何千キロに亙る大追撃を行ひまして、其の追撃の末端に於ける遭遇戦でありまして、彼我の其の策源地からの距離を比較しますれば、是は全く比較にならない程我れは遠く、敵は遠洲の策源地から、目と鼻の先にあつたのでありますから、即ち彼我の策源地からの距離は比較にならない。随て彼我の展開速度に大なる懸隔を免れないのであります。故に若し我が本隊が通常の場合の如く、此の前衛がガダルカナル島に向つて獨力攻撃をして居るのに對して、我が本隊がどん／＼之に注ぎ込んで決戦を行はうと致しますならば、展開速度に於て非常な懸隔を生ずるのであります。随て戦闘は極めて不利となるのであります。元來此の後退展開、即ち前衛を前方に突出して置いて、本隊が後ろに展開して、其の戦闘準備終るや、之を下げると云ふ此の後退展開と云ふ方式は、敵に比して我が展開速度の不利な時に採用せられるものであります。敵はどん／＼展開速度が大である、こつちは展開の速度が不利であると云ふ場合に於きましては、終始劣勢なる兵力を以て優勢なる敵と對戦しなければならぬことになり得るので、それは著しく戦術上不利であります。此の不利を補はんが爲に、寧ろ敵と離隔して本隊は整然と展開をして、準備終るや前方に挺進して出て居りました部隊を後ろに下げると云ふ、此の後退展開の方式が採用せらるるのであります。即ち遭遇戦と云ふ戦闘に於きまして、一番大事なることは彼我の展開速度であります。其の展開速度が何等かの關係で不利なる場合に於て、終始劣勢なる兵力を以て優勢なる敵と對戦するの戦術上の不利を補はんが爲に、此の方式が採用せらるるものであります。

其の次にはガダルカナル島の敵航空勢力に對し、我れ又ニューブリテン、或は北部ソロモン、斯う云ふ方面に航空根

拠地を進めました。此の附近の地形は中々良い飛行場を設定するのに困難であります。地形の關係と、距離の關係上、敵はガダルカナルばかりでなくサンクリストヴァル島、もう此の後ろにづつと航空基地の網を張つて居ります。即ちガダルカナル島並に其の南方に組織されました所の、敵の航空根據地網に對して空中優勢を獲得すると云ふことは、短時日の間には殆ど不可能でありました。隨て敵の制空權下に、而も遠距離に亙る海上輸送に依つて兵力、軍需品をガダルカナル島に展開集積するには、莫大な船舶の損害を覚悟せざるべからざるのみならず、彼我の戦力集中に於て、我が方は甚しい不利に陥らなければならぬのであります。

次には將來積極作戦を企畫して居ります我が軍としては、一步でも半歩でも前方に地歩を占めて置くことは、勿論必要には相違ありませんが、併しガダルカナル島方面に我が軍が進出して行くと云ふことは、米濠連絡路に脅威を與へますので、敵に取つては痛い所ではあります。我れに取つては此のガダルカナル島、此の島一つが大局的には大なる影響がないのであります。斯かる島一つの爲に船舶其の他莫大なる損害を賭してまで、敵の制空權下戦術上不利なる場所に於て決戦を求むると云ふことは、兵家の嚴に戒むる所であります。但し此のガダルカナル島の島一つは問題はありませんが、斯う云ふ戦略線と云ふものは是は大事なるものであります。プナ方面はガダルカナル島方面とは少しく事情を異にするけれども、航空根據地と補給の困難なる點に於て、戦術上の理由は又略、同一なのであります。以上三點の理由に依りまして、遭遇戦の後退展開と云ふ方式を採用し、ガダルカナル島、プナ方面の前衛部隊を撤退せられたのであります。重ねて申上げますが、是等部隊の撤退は是等の部隊が孤軍奮闘、能く敵を牽制し、此の間本隊たるべき我が軍主力をして、戦略展開を整齊確實に完了し、大東亞共榮圏の外壁を固め、次の積極作戦の足場を獲得

するの目的を達成しましたが故に、是れ以上先方には是等の部隊を孤立戦闘させるの必要が消滅致しましたので撤退せられた次第であります。申すまでもなく、是等の部隊の撤退は命令に依つてなされたものであります。

以上私は南太平洋作戦に關して、戦術の原則に照らして説明を申し上げましたが、此の作戦に關して私は三つの重大事實を語らねばなりません。其の一は統帥上の英断であり、其の二は陸海軍の協同であり、其の三は軍隊の辛苦と功績であります。先づ統帥上の英断に付て申し上げます。昔楠正成は足利直義軍が九州から大舉東上致しまするや、之を京都に引入れまして糧道を断つて、一舉に之を撃滅せんことを主張致しました。所が藤原某と云ふ兵略を知らない長袖に妨げられまして、遂に正成が湊川に討死致しましたことは、極めて著名な話であります。此の正成の戦術は結局敵に不利なる足場を與へ、我れは有利なる足場に立つて、戦闘を交へようとしたものであります。即ち戦術の原則通りでありまして、其の原則とは、決戦と云ふものは常に最も有利な條件の備はる場所、之を行ふことが賢明なのであります。之に照して見ますならば、現在ガダルカナル島ブナ方面に於て決戦すると云ふことは、先刻から繰返り申上げます如く、航空根據地と補給の關係から、我が足場が非常に悪いのであります。敵は非常に有利なのであります。捷進して江州の賤ヶ嶽を占領したのであります。次いで秀吉の大軍の攻勢を受けるに當りましたは、佐久間玄蕃の捷進隊は柴田勝家の本隊が既に後方に戦闘準備を整へて居るのでありますから、賤ヶ嶽一つに執着することなく、秀吉の軍隊と決戦を避けて、速かに勝家の下に撤退すべきであつたのであります。然るに暴虎馮河の勇はあつても、大局を見る機略に乏しき玄蕃は、賤ヶ嶽に執着致しまして、此の原則に従はなかつたのであります。そこで機略

に富む秀吉は之を各個に撃破し、而も之に尾追致しましたので、柴田勝家の本隊も一舉に崩れてしまひました。越前北ノ庄に勝家が敢ない最期を遂ぐるに至つたのであります。即ち斯うした前方に捷進して孤立奮闘した部隊を之を下げる戦法を誤りますと、それが全軍の作戦に非常な禍害を及ぼすことがあるのであります。斯かる過去の戦例に付て批評を致しますることは、極めて容易でありますけれども、現實に一部でも撤退すると云ふことは容易の業ではありませぬ。特に日本軍は撤退と云ふことを好まぬ、又撤退は最も不得意とする所であるにも拘らず、陸海兩統帥部の英断は遂に其の難きを断行し、以て本隊を整齊確實に展開し最も有利な條件を具備する決戦の場所を求め、第一線部隊又長時日に互る惡戦苦闘能く其の牽制の任務を達成し、且つ困難なる撤退を沈勇大膽に能く整然と之を断行致しましたことは私は満幅の敬意を捧ぐるのであります。

次は陸海軍の協同に付て、開戦以來帝國陸海軍は水も漏らさぬ緊密な協同を續けて参りました。又現に續けて居るのであります。併しながら南太平洋の作戦に於ける我が陸海軍は最早協同などと云ふ言葉では表現出来ず、全く渾然一體でありまして、即ちガダルカナル島に於ては先遣せられたる我が海軍部隊が敵の來襲に會つて苦戦に陥るや、陸軍部隊之に駆付け友軍救援の熱情に燃え、兵力の劣勢も彈藥の補給も意に解せず、全滅を賭して敵に體當りの攻撃を断行したのであります。

次いで陸軍部隊が苦戦に陥り、而も其の苦戦が全く後方からの彈藥糧秣及び補充員の海上輸送の困難に遭ひたるを知りまするや我が海軍部隊は危険と損害とを顧みず、最初は運送船の護衛に任じましたが、敵の制空權が愈々強化せられ、遂に運送船を以て近付く能はざるに至りまするや、兵員は固より、楮ては兵器彈藥、糧秣すら尊き軍艦に依つて

輸送せられたのであります。軍艦は固より輸送には必ずしも適せないのでありまして、其の積載量は少いのでありますから、随て幾十往復も、幾百往復も敵の制空権と爆弾と魚雷の中を唯友軍に補給するの熱情に燃えて、文字通り不眠不休、連続猛活動就中陸軍航空部隊の進出するまでは専ら海軍部隊が遠い基地から飛んで來まして、陸軍部隊の苦痛を救はんが爲に基地に還る油が盡きてしまふのも忘れて戦ひました。遂に海中に不時着せるものも少くないのであります。陸軍將兵は斯うした海軍將兵に對して伏して感謝の念を捧げたのであります。斯かる海陸眞に一體となつての適切巧妙なる作戦指導に依りまして、敵機、敵艦の跳梁下に未曾有の困難なる撤退行動が殆ど損害を受くることなく整齊悠々と出來たと云ふことは、全く戦史に其の例がないのであります。

次は軍隊の辛苦と功績に付きまして、ガダルカナル島、ブナ兩方面の部隊共我が作戦基地から遠く離れて敵の航空有力圏内に深く突進し、敵機跳梁下にあつて戦闘を繼續したものでありまして、一兵と雖も天空に暴露する時は忽ち敵機の執拗なる攻撃を受け、一日三回もあります。スコールに濡れた軍衣を天日に乾かすか、又は炊事をする煙が一寸でも現はれますると直ちに敵に好目標を呈し、銃、爆撃を誘致致しまして、其の間に於ける部隊の勞苦は察するに餘りがあるのであります。特に敵の制空権、制海権下の補給輸送の困難は言語に絶するものがあります。敵航空機又は敵潜水艦の攻撃を受けずに歸つた輸送船は殆どないのであります。勇敢なる我が船員諸君は能く此の困難なる任務を成し遂げて呉れたのであります。斯くの如き状況でありますから、何と申しても揚陸せられる軍需諸品は僅少でありまして、隨て主食の如きは一日一合か二合、時には數日に亙つて支給せられず、而も其の米は埠頭設備もない海岸に揚げられ、海水に浸され、炎熱に曝されるので、腐敗を致します、之を敵機の眼を盗んで數回同時に炊

爨しなければならぬのであります。更に之を食へまするまでは炎熱とスコールの爲に愈々腐敗の度を加へ、之に僅かばかりの粉味嚙を加へて流し込むのであります。副食物の如きは殆どなく、久し振りに唯一度梅干を與へられた時に、將兵は手を拍つて後方部隊に感謝して泣いたと云ふことでもあります。隨て將兵は木の芽を摘み、草の根を掘り、苟くも毒物ならざるものは悉く採つて飢ゑを凌ぎ、海水を飲んで鹽氣を攝つて居つたのであります。或は榕樹に鉄劍を突刺して、又はチャンゲルの蕨葛を切つて、そこから滴れ水に咽喉を潤しながら數晝夜送つた者もあります。此の難局に處して部下は上官を思ひ、上官は部下を思つて、一握りの糧を互ひに分ち合ふと云ふ劇的場合は各所に見られたのであります。敵を前に上下相信じ、益々其の團結は強化されたのであります。其の作戦地は瘴癘の地でありますが故に、マラリヤに冒され或はデング熱に悩まされたのであります。安静を保つべき民屋もないのであります。我が將兵は此の間に處して一言半句の不平等も漏らさず、不満を言はず戦友同志勵み合ひ、慰め合ひ、さうして、燃ゆる敵愾心を來軍の撃滅に集め、敢然として戦ひ續けたのであります。斯かる困苦缺乏の中にも我が軍は毫も受身の防禦に陥らず、終始攻撃に次々に攻撃を以てし敵を壓倒し、甚だしきは昨年十二月十三日某部隊の中澤少尉工兵斥候が僅かに五名を以て至嚴なる敵の警戒網を潜つて敵地に挺身潛入し、飛行場にある飛行機二機、其の他給油タンク、探照燈等を爆破して敵の心憎を寒からしめ、又寺澤少尉斥候も同様僅かの兵を以てルンガ河附近の敵陣地を爆破し、敵に大なる損害と不安危惧の感と與へたのみならず、爾後の作戦指導上有利なる態勢を取つて居ります。斯くして困難なる中に終始敵を顛弄して居るのであります。斯かる果敢なる行動が能く敵を牽制し、屢々有力なる米國艦隊を誘致して、精銳なる帝國海軍に、既に發表せられましたる大戦果を、擧ぐる好機を與ふるの原因となつたのであります。又某部

隊長は困難なる密林を長驅機動した後に、夜襲を以て敵陣に突入したのでありますが、後援続かざるに至るや敵中に孤立奮闘すること一週間、最後に手兵十數名となりますや、部下を無理やりに連絡の爲めと稱して後方に歸して、自らは壯烈なる戦死を遂げたのであります。

男子我れ防人となる甲斐ぞあれ

東半球の果てに死ねれば

と云ふ辭世を遺して死んで居ります。敵國降伏を祈り七生報國を誓つて散華致しました戦友に對し、私共は心からなる感謝と哀悼の念を捧ぐる者であります。

此の勇戦奮闘、鬼神を哭かしむる我が軍活躍の状況は、之を敵國側の報道に付て見るならば、即ちクライブ元駐英大使は、テレグラフ紙に書を寄せまして、ソロモン及びニューギニアに於ける日本兵の頑強極まる戦闘は死を恐れざる。天皇尊崇の信念に基くものにして、歐米諸國の兵と異なり、其の如何に恐るべき敵なりやを證するものなり、對日作戦の特異性は、寧ろ日本軍將兵其のものにありと警告して居ります。又ブナ附近の戦闘に参加しましたロンドン・タイムス記者の目撃談に依りますれば、聯合軍は二箇月に互り猛攻し、其の情景凄慘を極め、日本軍の一部隊は遂に包圍せらるるに至りたるも、米軍の降伏勧告を拒絶し全滅した、日本軍指揮官は降伏か退去かの何れかを選ぶべき場合は、敢然として最後まで戦ひ抜き、將兵は皆 陛下の御爲に死すれば來世は 皇室の藩屏となり、再び生れ來るべしとの觀念に燃えて、其の背囊には寫眞と共に遺髪を入れて居るのを見た、又英國新聞は、ガ島に於ける日本兵は犠牲的精神を發揮して頑張つて居るのであつて、八月上旬同島に上陸せる米國軍は、有利なる態勢を保持して居る

にも拘らず、數ヶ月以上を経た今日尙ほ日本軍を撃退し得ざる状況であつて、此の日本將兵の態度は、皆 皇室に對する宗教的精神より出でたるものなりと述べて居ります。又タイムスの濠洲特派員は、最近ニューギニア戦線に關して次の如く述べて居ります。四ヶ月のニューギニア戦争は吾々に實に尊い教訓を與へた、第一日本軍の根據地を一つ一つ奮取し、一つの島から他の島に飛び、斯くして日本軍の現在の内線的戰略地位から追ひ出さうと企てる吾々の作戦は、結局途方もない長期戦となり、夥しい人命の犠牲を必要とすることが明かとなつた、假令制空權や制海權を握つて見ても、もつと直接的な打撃を加へない限り日本軍を參らすことは困難であると云ふやうなことを申して居ります。

ガ島ニューギニア方面の我が部隊の困苦缺乏、難戦苦闘の偉功は、繰返し申しました如く大東亞共榮圈の外壁を固め、來るべき大作戦の根據を確立し得せしめ、又帝國海軍をして屢、偉大なる戦果を擧ぐるの機會を作るにも與かつて力ありました所の戰略的大功績の外、以上敵の口をして語らしめました如く、我が將兵の忠誠勇武、猛烈果敢なる奮闘は、能く敵の心膽を寒からしめたのであります。戦ふと云ふことは、是れ全く犠牲の奉仕であります。是等部隊の偉大なる犠牲は、大東亞戦史に不朽の光を遺すことは勿論であります。併し私共は米軍に萬斛の恨みを遺して燈れて行つた是等勇士達の犠牲は、必ず討たねばならぬのであります。日本が會て一度でも米國民を侮辱したことがありませうか。會て一度でも彼等の利權を毀損したことがありませうか。況や日本が米國の存立を脅かしたことが爪の垢程でもありませうか。然るに彼らは徒らに日本國民を輕侮し、壓迫し、經濟的にも軍事的にも帝國の存立を危からしめ、茲に帝國は自存自衛の絶對面に追込まれて必死となつて奮起したのであります。此の事實、此の恨みは我等が死



んでも決して忘れることの出来ないことでもあります。然るに戦争勃發後ルーズヴェルトは、其の戦争目的をデモクラシーの擁護と言つて見ましたが、そんなことでは國民の戦意が燃えず、仍てルーズヴェルトは、昨年四月、此の戦ひはウワー・オブ・サーヴァイヴアル、七月、ハル國務長官はウワー・オブ・エキジステンス、即ち此の戦争を無理やりに生存の爲の戦争だとして付けて、戦争目的を偽造し、更に滑稽なのは、彼の昭和十六年十一月二十六日、日本に挑戦状を叩き付けながら、パールハーバーの奇襲を種に、戦争の挑發と戦略上の奇襲とを混同して、必死となつて國民の敵愾心を煽動捏造して居るのであります。戦争目的の偽造、敵愾心の捏造、米國の政治に何處に正義人道があるのでありませうか。唯暴戾の一語に盡くるのであります。此の偽造せる戦争目的と捏造された敵愾心とを以て、米國の純真なる青年達が、彼等が恐らくハイスクルの地理でも教はつたことのない南太平洋絶海の孤島のジャングルの中に、或は蟻の群る海中に二萬數千の生命を捨てて居るのであります。今後何萬何十萬を戦艦や航空母艦や飛行機と共に捨てることではありません。而もまんまと我が軍の牽制作戦に引掛かり、暴虎馮河、唯一圖にガ島やニューギニアの一角に盲滅法に引掛つて、さうして徒らに尊い多くの生命を唯むざむざと南海に散らすのであります。それは兎に角、米國の指導者が暴虐であるだけに、政治に正義がないだけ、外交や理論で話せる米國ではない、我等はどうしても勝つてく勝ち抜いて、眞に日本人の實力を彼等に目にも見せて正當なる態度を以て我に對し來るまでは絶対に戦ひ抜かねばならぬのであります。是が爲には今後敵の反攻を片つ端から撃擯するのみならず、進んで彼等の心臓部に我がメスを加へなければ傲岸なる米人の戦意を抛棄せしむることは難かしいではありません。仍て我等は一億國民の創意と工夫と努力と奮闘に依りまして、或は戰場に於て、工場に於て、農場に於て、家庭に於て、今日の決戦、明日の決戦

を戦ふと共に、彼等が戦争意志を抛棄せざる限り、多少時日は掛つても米國の心臓に必ず我がメスを加へなければならぬのであります。我等は眞剣に之を準備して居ります。斯うして戦ひ抜いてこそ初めて我等は、今日の犠牲となられし一萬數千の英靈に、更に大東亞全戦域の英靈に本當に靜かに眠つて載くことが出来ると思ふのでございます。

イサベル島沖海戦戦果に關する大本營發表

其後の詳報に依れば帝國海軍部隊は二月一日以降同七日迄にイサベル島南東方に於て左の戦果を収めたることを判明せり。

巡洋艦	一隻	轟沈
巡洋艦	一隻	撃沈
驅逐艦	一隻	撃沈
魚雷艇	十隻	撃沈
飛行機		八十六機撃墜
驅逐艦	一隻	大破
驅逐艦	二隻	中破

尙この間に於ける我方の損害を左の通り改む。

飛行機

十二機自爆及未歸還

(註) 本海戦をイサベル島沖海戦と呼稱す。

帝國潜水艦濠洲東岸に於ける戦果に關する大本營發表

昭和十八年二月十二日

帝國海軍潜水艦は一月中旬より二月上旬迄に濠洲東岸に於て敵船舶六隻、五萬四千噸を撃沈せり。

ソロモン群島及ニューギニア島方面未發表戦果に關する大本營發表

昭和十八年二月十三日

帝國海軍部隊が昨年八月七日以降本年二月七日までにソロモン群島及ニューギニア島方面に於て收めたる未發表の戦果竝に我方の損害左の如し。

戦果

一、艦艇	擊沈	擊破	計
驅逐艦	〇	三	三
潜水艦	四	三	八

魚雷艇	三			
哨戒艇	一			
計	八			
二、飛行機	擊墜	擊破	計	
	二〇五	三二	二二七	
三、船舶	擊沈	擊破	計	
	八	二	一〇	
損害				
一、艦艇	沈没	大破	計	
巡洋艦	〇	一	一	
驅逐艦	三	〇	三	
潜水艦	一	四	七	
哨戒艇	七	六	一三	
計				
二、飛行機	自爆及未歸還	大破	計	
	二二五	二四	三二九	

三、船	船	沈	没	大	中	破	計
			五			五	一〇

ソロモン群島方面、西南太平洋方面、アリュウシヤン方面
敵空軍撃滅戦果に關する大本營發表

昭和十八年二月十八日

一、ソロモン群島方面

二月十日以降同十五日迄の航空戦に於て帝國海軍航空部隊の空戦竝に陸海軍地上部隊の砲火により敵機六十四機撃墜、一機撃破せり、この間我方の損害飛行機二機、軍事施設の損害輕微なり

二、西南太平洋方面

二月一日以降同十五日迄の航空戦に於て帝國海軍航空部隊の空戦竝に地上部隊の砲火により敵機四機撃墜、五機撃破せり、この間我方損害なし

三、アリュウシヤン方面

二月五日以降同十五日迄の航空戦に於て帝國海軍航空部隊の空戦竝に陸海軍地上部隊の砲火により敵機五機撃墜、二機撃破せり、この間我方の損害なし

帝國海軍航空部隊のソロモン群島方面敵輸送船團攻撃
戦果に關する大本營發表

昭和十八年二月二十日

帝國海軍航空部隊は二月十七日ソロモン群島サン・クリストバル島東方に於て敵輸送船團を攻撃し、驅逐艦二隻及大型輸送船一隻を撃沈せり、この間我方三機を失へり

帝國陸海軍部隊廣州灣佛國租借地進駐に關する大本營
發表

昭和十八年二月二十二日

帝國陸海軍部隊は佛國政府の諒解の下に二月二十一日廣州灣佛國租借地に進駐せり

ニュー・ヘブリイズ諸島・エスピリツ・サント島戦果に
關する大本營發表

昭和十八年二月二十三日

帝國海軍航空部隊は二月二十一日長驅ニュー・ヘブライツ諸島エスピリツ・サント島の在泊艦艇及び軍事施設に夜間攻撃を加へ敵驅逐艦一隻を轟沈、一隻に大火災を生ぜしめ陸上施設にも損害を與へたり、我が方被害なし

國 際 時 報

重慶政權の窮狀と對米英不滿

チャーチル英首相は、二月十一日の英國下院に於て、米英カサブランカ會談に關する報告を行ひ、歐洲戦局優先方針が米英兩國最高首腦部合意の下に確立され、東亞作戦殊に重慶援助は二の次に廻されたことを明にした。そこで納まらないのは、只でさへ中華民國國民政府の對米英宣戰によつて甚しい窮狀に追ひつめられた重慶政權であつて、豫てから腹の底にもやもやさせてゐた對米英不滿を一齊に爆發させたのである。即ち、遣米重慶軍事使節團長熊式輝以下の一行は、二月十三日、愈々米國に愛想をつかして、ルーズヴェルト

大統領に離米の挨拶を行ひ、同十八日、カナダ首府オッタワに到着、同二十二日空路英京ロンドンに赴き、同二十五日、各國記者團と會見を行つて對米英不滿を露骨にぶちまけたといはれるが、他方滯米中の宋美齡は、二月十八日、米國上下兩院合同會議に臨み、左の如く對日作戦重視の必要を力説した。「反樞軸諸國間には敵の力を過少評價する傾向があるが、日本がドイツとは比較にならない程廣大な資源をその支配下に置き、その實力を着々と増大してゐることを等閑視すべきではない。重慶は過去四箇年半何

等の援助もなく抵抗してきたが、日本はあらゆる手段をつくして、重慶政権の崩壊を圖らうとしてゐる。反樞軸諸國は目先の小利に捉はれて將來の大局を誤まるやうなことがあつてはならない。」

そして、翌十九日には、ルーズヴェルト大統領と共同で記者團會見を行ひ、左の如く援蔣強化を哀訴した。

「重慶は武器供給の許す限り、出来るだけの人的資源を使用してゐるが、重慶軍は過去五箇年間空軍の掩護なく戦つてゐる状態にある。重慶將兵中には劍だけで戦つたものもあるが、赤手空拳では戦へない。重慶は武器と飛行機とを必要としてゐる。」

これに對し、ルーズヴェルト大統領は、傍から援蔣の地理的困難を指摘して、左の如く辯明した。

「重慶に對する武器援助については空輸以外に輸送の方法がない。しかも輸送機は往復のガソリンを積んで行かなければならず、地圖をみれば重慶への物資輸

送がいかに困難であるかは明瞭であらう。余は最近の

演説に於ても一箇月に一島嶼を奪還しながら日本に近づかうとすれば五十年かかると指摘したが、日本に達する道は頂點に近い所で日本の長い補給線を遮断するにある。支那を對日戦の基地として使用することは戦争の進捗に伴ひ益々重要になつてきたが、これは日本をその本土に於て撃破することを意味する。」

と述べ、重慶援助の極めて困難であることを示唆すると共に、支那を基地とする對日攻撃を公約した。

しかも、重慶側各紙は、宋美齡の對米泣訴と呼應して、一齊に對日作戦先決の必要を力説した。その主要な論調を抄記すれば左の通りである。

「歐米人は歐洲、東亞二大戦場に對し、輕重、緩急の別を附し、カサブランカ會談に於て遂に先づドイツを打倒し、次いで日本と決戦する戦略を確定した。これは重慶官民の失望措く能はざるところである。蔣介石

夫人が華府に於て日本放置の危険性を指摘したのに對して米國は傍觀的態度を取り得るであらうか。道義上はもとより利害關係から云つても、先づ日本を撃破しなければならぬ筈である。

米國輿論は先づドイツを打倒するため暫時重慶側の忍耐を求めるが如き論調を示したが、これは不明の見解といふべく、日本は米支兩國共同の敵である。日本を打たなければ、日本は勢力擴大の餘裕を得て、米國には進攻しなくとも、重慶には必ず來襲すべく、惹いては米國の不利となり、東亞及び世界の大局を誤るであらう。故に我々は米國が共同の立場に立ち戦略を變更することを希望する。」(二月二十日附大報社説)

「米英が對獨決戦を終へて後日本を攻撃するの見解をとり、日本が占領下の資源を利用するのを差し當り見逃さうとしてゐるのは斷じて贊同し難い。米英は宜しく東亞戦局の重要性を正解し、重慶を助けて速にアジ

アの資源を利用させるべきである。」(二月二十日附中央日報社説)そしてまた前駐米大使胡適も、二月二十三日、特に「個人の資格」と斷つて、左の如き言説を發表したと傳へられる。

「重慶は最後まで抗戦するであらうが、それは必ずしも重慶が封鎖によつて敗北する可能性が無いといふことにはならない。重慶は現在修理用の資材、輸送用のガソリン、民衆のための食糧、幻滅を感じてゐる知識階級のための希望等が必要としてゐる。武器貸與法に基き空輸される援助は滇緬公路や沿岸ルートを通じて入つてゐた物資に比較すれば極く少量に過ぎない。若し重慶政権が弱體化し消極的な同盟國の地位に轉落すれば反樞軸陣營は日本軍との競争において恐るべき不利の立場に陥るであらう。」

これらの言説は、畢竟、重慶側現下の窮狀がいかに切

迫してゐるかを示すと共に、併せて米英側の對蔣援助が依然「焼石に水の程度」を出でてゐないことを物語るものに外ならないが、重慶官民の疲弊状況については、ニューヨーク・タイムス紙重慶特派員デズ・デイ・ホワイトが二月初旬に左の如き通信を送つて居る。

「重慶治下の民衆は過去六年間の戦時生活で今日位その友邦及び自國の愛國者等に對する熱情乃至感謝の心を失つたことはない。長い支那事變のため戦線を守る重慶軍の兵士は變つた。しかも彼等は病氣に罹つて呻吟してゐるのである。戦傷兵一人に對し、實に十人の割合で病兵が臥床してゐるが、これ等は大抵赤痢、肺炎、マラリア等で、しかも入院してゐる兵士は全體の半分にも満たない。即ち塹壕内で看護も受けず輾轉反側してゐる病兵と入院患者との割合は、二對一乃至三對一といふ悲惨な有様である。これ等重慶軍の苦痛と窮狀は消耗戦の結果で、現在兵士達は毎日僅か二

十四オンスの米しか配給されて居らず、その結果栄養状態を極度に不良にし、このため熱病による死亡率が非常に昂まつてゐる。僅か廿四オンスの白米から脂肪とビタミンと含水炭素とを充分に攝取することが不可能なことはいふまでもないが、重慶軍の直面してゐる物資不足は敢へてこれに留まらない。戦傷者に與へる繙帯を始めあらゆる物資が不足してゐる。現在の事態は大部分戦争による封鎖の結果といへると同時にまた米國もその責任を逃れることは出来ない。重慶軍を再起せしめるためには外國からの直接且つ無制限な援助が必要である。ところがこの援助は、重慶から見渡した所、將來も仲々齎らされさうにない。」
更にまた支那問題研究家レイ・クロムリーは、二月五日附ウォール・ストリート・ジャーナル紙上で次の様に重慶政権治下の窮狀とその應急的救済策について論じてゐる。

「對日作戦を遂行してゐる蔣政権への援助は現在世界で最も狭い路を通じて送られて居り、重慶側はその結果毎月戦車、大砲等の武器を二、三百噸宛入手してゐるが、これでは到底問題とならない。空中輸送では武器も武器を製造する機械も尙ほつて少量しか送れないから、武器を製造する機械を作る工具を供給するのが現狀に即した方法と言ふべきである。蔣政権が現在必要としてゐるのは、鑛石の採掘、精鍊、小銃、手榴彈、迫撃砲、機關銃等の製造に要する機械の設計圖とそれを作る工具、竝に測量器、寒暖計、比例尺なのである。然し工作機械のあるものや小型モーターすら空中輸送には重過ぎるかも知れない。更に重慶側は米國の技術家、科學者等が中國工人に技術的訓練を與へることを望んでゐる。現在蔣政権下の鐵生産は年額約二十萬噸であるが専門家の意見では、蔣政権は近代的鐵鑛山や製鍊所を運轉すべき熟練労働者を缺いてをり、次に鑛

床が各地に散在して集中してをらず、然も十分な建設資材がない。又、ガソリンは現在米國から輸入し得ない状態に在るので、米國の技術専門家が來て、農業増産の方法を講じガソリン代用品の生産を増加する様希望してゐる。現在支那奥地の生産擴充を著しく阻害してゐるのは悪性インフレーションで若干の商品の物價は戦前の八十倍に達してゐる。その對策としては民需品の生産を増加する外ない。」
投機業者は、商品諸共工場を買つて一定期間遊ばし、値上りを待つて他に轉賣する手段に出てをり、この方が商品を生産するよりも利益があるとしてゐる。商人は所謂頓積居奇を行ひ、商品が前線に達するのを妨げてゐる。悪性インフレーションが續く限り、資金の餘裕ある者は工場や商品を買占め物價を更に騰貴させ、生産を低下させて前線に送られる商品の量を一層減少させることを止めない。日本軍による經濟封鎖、滇緬公

路の喪失、ソ聯からの援助困難等が蔣政権による對日攻勢に必要な物資の入手を妨げてゐるのは言ふ迄もなき事。

しかも、去る一月二十五日、ステチニアス武器貸與局長官が米國議會に提出した昨年末迄の武器貸與実績報告によれば、對英援助三十九億五千九百九十五萬弗、對ソ援助十五億三千二百二十三萬弗であつたのに對して、重慶向け援助は僅か一億五千六百七十三萬八千萬弗に過ぎなかつたのみならず、その僅少な物資すら全部重慶に到着してゐる譯ではないのである。

即ち、ステチニアス武器貸與局長官は、二月十八日、同局内に支那課を新設する旨發表したが、初代支那課長フランクリン・レイは、同日の新聞記者會見で、

「重慶向けの貸與物資の五〇%は輸送困難のため現在印度に放置された儘になつてゐる。滇緬公路が閉鎖

されてゐる現在、これ等の物資を重慶に送るには輸送機を使ふより途がない、米國政府は現在輸送機の増強を考慮してゐるから近く重慶に送られる物資も増加することゝ思はれる。」

と、述べてゐるが、一方、ヘラルド・トリビューン紙軍事記者、ジョージ・フィードルディング・エリオットも、二月二十八日附の同紙に掲載した論説で左の如く對蔣援助實行上の困難を指摘してゐる。

「重慶政權援助は喫緊の急務であるが援助増加には多大の困難が伴ふ。特に支那の領土内に相當兵力の米空軍を常駐させる必要があるが、近代的空軍は尨大なガソリン、潤滑油、爆彈を消費し、更に修理設備の整つた基地を必要とする。蔣政權内では石油は産出されず、爆彈や工作機械、航空機部品等の製造も出來ない。従つてこれら凡ては外部から送らなければならず、現在は輸送機によつて印度を通じて運ばれてゐる

が、輸送機は歸りのガソリンをも積んで飛び出さなければならぬ状態、積載量は極度に制限されてゐる。それ故、援將増大には輸送機数を増加すると同時にヒマラヤ山脈を越えて飛行し得るだけの訓練を経た飛行士を多數養成し、更に印度内における基地を増強しなければならぬ。それでも尙援將物資は全部印度まで船で輸送されなければならぬから、船舶問題の困難が付きまゝとつて来る。ソ聯と重慶とを結ぶ西北ルートからは未だ殆ど何物も期待出來ない。ソ聯は現在東部戦線に凡ゆる物資を捧げてをり、而も、ウクライナ地方の喪失によつてその工業生産力は著しく低下した。更に西北ルートには鐵道がなく道程は極めて長し、途中には適當な給油基地がない。現在このルートの輸送には原始的な駱駝隊商、或は人力によつてゐる有様である。従つて重慶援助の増大には印度に尨大な空中輸送組織を作り、更に印度迄の物資輸送に必要な船舶

を探し出すか、或はビルマの奪還によつて陸上ルートを再開する以外に方法はない。」

しかも、ビルマ・ルート再開の如き、皇軍の威武の前には痴人の夢にすぎないとすれば、米國及び重慶として最後の望みの綱と心得るのは、前掲のルーズヴェルト大統領の言明にもその片鱗が伺はれる如く、米國航空機の對重慶増派とそれに基づく支那大陸よりの日本本土空襲のみであらう。

現に、ウォーレス米副大統領も、二月八日、華府で、「我々は支那の基地に多數の爆撃機が配備され、日本空襲が敢行される日を待望してゐるが、それ迄は隱忍が肝要である。」

と、述べた模様である。又去る二月二十二日、再度華府に赴いた宋子文外交部長は、二月二十五日、ハル國務長官並にウェルズ國務次官と會見後、記者團に對して、

「現在重慶が最も必要としてゐるのは飛行機であり、又飛行機こそ現代戦において最も重要な武器である。」と述べて、それを裏書してゐる。そして記者團側から「飛行機は千臺もあれば充分か。」との質問を受けたのに對して、

米國武器貸與法の実績とその更新

米國の武器貸與法は本年六月三十日で満期になるので、これを繼續するには、議會の承認を経て同法を更新する必要があつたが、下院外交委員會は、二月二十四日、同法の一年延長案を可決、下院本會議に回附全會一致可決、茲に同案の更新は確定的となつた。

しかし、事ここに至るまでには、相當以上に喧しい論議が議會の内外で行はれたのであつて、米國內最近の物資不足は、貸與法の實施に基く米國物資の海外流出によると考へる米國民衆の不滿が並々ならず強いものである

「それより少くとも事足りる。」と答へ、現在重慶がいかに飛行機獲得と汲々としてゐるかを曝露した。尙末子文は、この時重慶側の對日空襲基地が現在日本軍に脅威されてゐることを嘆いたといはれる。

ことを如實に示した。

米國武器貸與局長官エドワード・ステツチニアスが去る一月二十五日の米國議會で報告したところによれば、武器貸與法の実績は左の通りである。

一、一九四一年三月武器貸與計畫實施以來昨年十二月末日までの武器貸與法に基く反樞軸各國向け輸出總額は八十二億五千三百萬弗に達した。その内七九%、即ち六十五億四千八百萬弗は物資貸與で残り十七億五百萬

非はその他の方法による援助である。

一、昨年一ヶ年中における武器貸與の輸出總額は七十億九百萬弗である。

一、一九四一年三月から一九四二年十二月迄の間に輸出された總額の二二%は工業用原料並に器具であり、他の二二%は農産物、主として食糧である。

軍需品 工業製品 農産物 勞務

(單位百萬弗)

英本國向け	一、一七二	九一六	一、〇九三	七八〇
英帝國向け	一、四二二	三六九	七一	五三三
ソ聯向け	九二二	二四七	一〇二	二七一
重慶向け	一〇五	二二	〇	三〇

一、昨年後半六ヶ月間に於て反樞軸に送られた米國物資は、米國生産總額の一五%で、米國で生産される戦車、軍用機は五臺の内一臺が反樞軸各國に送られてゐる。

一、米國が輸入した原料資源並に全消費量に對する輸入

比率は左の通りである。

ゴム一〇〇%、ニッケル一〇〇%、錫九〇%、マンガシ八八%、雲母九八%、羊毛七四%。

一、日米開戦前に下附された武器貸與資金の内七十二億六千五百萬弗は武器並に船舶の製造に割當てられ、八億弗は戦時生産の施設改良費に當てられた。

一、米國政府と反樞軸各國間には相互援助が行はれてをり、米國は太平洋戦域において濠洲及びニュージランド政府より食糧二億ポンド以上の援助を受けてゐる。

一、この外米國政府は、英本國、印度、エチプト、中東、北阿、アイスランド、フィジー、赤道アフリカ、ベルギー領コンゴ、重慶政權等との間に相互援助を行つてゐる。

一、英國政府は既に米國空軍に提供すべき飛行場その他の施設費として五億弗を豫算に計上してゐる。また佛

領北阿の上陸作戦に際しては英國政府は軍艦及び輸送船の三分の二を提供した外兵器並に施設を米軍に提供した。

一、米國政府は阻塞氣球、護送船團用哨戒艇等の本國防備資材を英國より仰ぎ、更に英海軍沿岸防備部隊も米國沿岸水域に於て活動してゐる。

これに引續いて、米下院外交委員長ソル・ブルームは、一月二十六日武器貸與法を更に一ヶ年間延長すべき法案を、次の趣旨のもとに議會に提出した。

「武器貸與法の諸原理は我々が防禦戦を闘つてゐた過去二年間においても健全なものであつたが、反樞軸聯合國が今や勝利に向つて邁進してゐる現在益々健全である。」

そしてスチムソン陸軍長官は、二月八日、下院外交委員会の公聴會に於て、

で、かゝる措置に出れば反樞軸國の戦争遂行の努力を重大な混亂に陥れ致命的な打撃とならう。同法存続以外のいかなる措置を執つても反樞軸國の完全な勝利を非常に遅らせ危殆に瀕せしめるであらう。現在米國が友邦に送つてゐる武器、軍需品は他國に施す「慈善」ではなく、寧ろ米國の資源と産業を敵國打倒のため最も有効に利用する方法と解すべきである。私見によれば、前大戦に際し米國が執つた外國に借款を與へる政策は失敗で、今度の戦争終了後には、米國は武器貸與法によつて與へた援助の代價支拂を要求して一弗、一仙の金をやかましく取立てようとしてもそれは不可能であらう。」

と、武器貸與法存続の必要を力説してをり、戦時海運長官エモリー・ランドも亦二月八日上院諮問委員會席上で、對外援助物資の輸送状況を辯明して次の如く述べてゐる。

「昨年十月三十一日迄の一ヶ年間に於て、武器貸與

法に基いて物資輸送に使用した米國船舶は、英向は、一、三七五隻、ソ聯向は、三〇四隻、重慶向は、二六隻であつた。然し不幸にして出航した船舶の全部は目的地に到着しなかつたが、途中で喪失した船とは比較にならない程大多數の船舶が目的地に到着してゐるのである。」

又、ノックス海軍長官は、二月九日の下院外交委員會公聴會に於て海軍の立場から左の如く證言した。

一、米、英兩海軍は緊密な協力の下に武器貸與による物資輸送に従事してゐるが、その援助は左記各政府に及んでゐる。

- 漢洲、ベルギー、ポリヴィア、ブラジル、カナダ、チリ、重慶、コロンビア、キューバ、エクアドル、エチオピア、
- 「戦ふフランス」、メキシコ、オランダ、ニュージールランド、ノルウェー、パナマ、ペルー、ポランド、トルコ、英國、ウルグアイ、ヴェネズエラ、ユーゴスラヴィア

一、一九四一年三月十一日より一九四二年十二月三十一日迄の期間に米海軍は反樞軸各國に對し總額約八億弗の物資その他を輸送した。

一、この外米海軍は各國政府に對し武器貸與協定に基き船舶二百八十九隻小型船舶二百五十一隻合計總一億二千七百萬弗を移送した

一、米海軍はまた一九四二年十二月三十一日迄に外國海軍艦艇二百四十六隻の修理乃至點檢を行ひその費用は合計一億一千七百八十五萬弗に達した。

一、米海軍は各國に武器を提供するのみでなく、更に外國人飛行士並に機關士の養成にも當り、その中には「戦ふフランス」の佛人やラテン・アメリカ諸國民が含まれてゐる。

一、しかしながら海軍の武器貸與は必しも一方的ではなく、米海軍の艦艇も亦諸外國の港において修理、燃料補給等の實質的な援助を受けてゐる。

これに對して、先づ議會内で反對氣勢を擧げたのは、舊孤立派を中心とするルーズヴェルト反對派で、

「武器貸與法で利益を受けるのは米國以外の反樞軸諸國ばかりであり、同法により米國民は徒らに反樞軸國との腐れ縁を深くするのみである。」

とその延長に難色を見せると共に、同派の副將ホイーラー等の如きは、本年初頭以來、武器貸與法實施の裏面に絡まる醜聞を徹底的に調査するといきまき、政府當局を狼狽させたが、この調査要求は國內紛争防止を口實とする政府側懸念の諒解運動によりやつと取りやめになつた。

しかし、二月上旬には、米國著名の産業團體である全米製造業者協會代表者が

「米國の民間資本は常に利潤獲得の原則に従つて投資さるべきであつて、米國人は餘りにも大なる犠牲を必要とする努力を強要されるが如き愛他主義を許容す

べきではない。」

と武器貸與計畫の深入りに反對を言明し、又、一般輿論中にも、米國だけが武器貸與法によつて反樞軸諸國に物資を供給することは不當で聯合國は相互に物資の交流を行ふべきであるとの説をなすものが少くなく、特に國內工場施設のソ聯に對する移譲は甚々たる反對の聲を捲き起し、ハースト系新聞の如きは、

「米國民が現在の如く生活を切詰めてゐる時に米國の産業工場をソ聯に移譲するが如きは全く當を得ないことである。」

と政府を攻撃した。かくして、米國ばかりがその物資を只でばらまいてゐるのではない證據を示すべく政府は二月三日、下院外交委員會公聽會に際し武器貸與局ロンドン駐在員スピーゲルバーグをして、米國軍隊に對する英國側「逆貸與」につき次の如く證言させ、輿論の慰撫に努めたのである。

「英國駐屯の米國軍が昨年六月以來現實に費消した金額は僅か百萬弗に過ぎない。兵力維持費がかくの如く少額で済んだのは、英國側が武器貸與の代償として米國駐屯軍に對して各種の軍事施設、武器、其の他の利便を提供した爲に他ならない。」

即ち、英國は開戦以來歐洲に派遣されてゐる米軍が必要とする資材並に食糧品等を提供してゐる。昨年六月一日から十二月三十一日に至る下半期に英國が米軍に提供した資材は噸數を基礎として計算すれば、

工兵隊	二二、一五〇噸
兵站部	五八二、九九四噸
通信隊	五、一五六噸
衛生隊	八四、四三二噸
空軍部隊	九四、四九五噸
其他	二一、〇六八噸

となつてゐる。英國は現在米軍兵士宿舎の建造を計畫

中であるが、これに要する費用は約一千五百五十萬磅

(米貨四億六千萬弗)に上るといはれる。米軍の北阿作戦準備に當つて遠征米軍が英國から受けた物資は彈藥三千八百噸、石炭八十萬噸、食糧品二千噸であるが、その他の物資も相當量に達した。英國は食糧品の自給自足を行つてゐる國ではないが、それにも拘らず多量の食糧品を米軍に提供してをり、更に米軍の維持に必要な軍需工業の増進に全勞働力の三分の二を割いてゐる。」

しかしながら、メリーランド州選出民主黨上院外地委員長ミラー・クイディンクスは、二月十二日、上院に於て、
「大戦勃發以來西半球における英領島嶼の軍事價値は急激に増大して來た。これ等島嶼の重要性に鑑み、米國の適用してゐる武器貸與法の代償として英國はよろしくこれ等島嶼の基地を米國に引渡すべきである。勿論米國としてはその島嶼の主權を強要するものではなくたゞその基地の保有を主張するのである。米國に

それ等の基地を提供する事が軍事上の必要によることはよく理解出来ることであり、チャーチルを始め英一般國民は余の要請を承認することと思ふ。中南米の石油、ゴム、コーヒーその他の物資は殆ど全部この方面を經由して米國に送られて来る現在、西印度諸島に敵の航空基地が出来れば、この輸送は混亂に陥ることとなるから、これ等の島嶼は當然米國が確保して置かなければならない譯である。

と演説した。このことは、今後武器貸與代償要求が軍事基地移譲要求に絡みつくことを示すものとして注目を惹いた。

◇

かくして、贊否兩論の沸騰する中に、政府側の政治工作が漸次効果を奏して、二月二十四日、武器貸與法は先づ下院を通過したが、この貸與法審議に當つては、陸海軍兩長官を始め、政府の關係係官が出席して同法の運営状

況を詳細に報告、その結果、武器貸與法運営の範圍規模が左の如く明にされたことは、一應記憶して置く價值があると思はれる。

武器貸與豫算

一昨年武器貸與法成立と共に、當時の米國に於ても空前の巨大豫算といはれた第一回貸與法豫算七十億弗が計上されたが、其後の追加豫算の計上によつて現在までに議會が承認した豫算は百八十四億一千萬弗に達し、この他にも陸軍省海軍省關係豫算として計上され、武器貸與費に流用し得る豫算額は三百五十九億七千萬弗に上つてゐる、豫算の増大と共に反樞軸國に對する貸與額も激増、現在毎月約十億弗の物資が國外に輸出されて居る。

武器貸與狀況

一九四二年に於て米國が生産した飛行機並に戦車の三分の一までが反樞軸諸國軍に配給されて前線に出勤した。又米國の軍需工場は一九四二年における全生産額の

十九%を米國以外の反樞軸諸國に供給した。其他物資貸與

米國はあらゆる部門に亘る重要工業資材を英國、ソ聯、カナダ、インド諸國の軍需工場に貸與した、即ち一九四二年内に米國は亞鉛總生産額の十二%、鋼の七三%、銅の七二%、アルミニウムの三・五%、石油及びガソリンの六・三%、工作機械の十二・四%を國外に供給、米國自體で非常な不足を告げてゐる錫さへもその一部を輸出してゐる。

食糧輸出

武器貸與法による食糧品の輸出も莫大な額に達し、米國自體の食糧不足の一原因とさへなるに至つた、一九四二年に米國が英ソ兩國に供給した豚肉は十億封度以上で、全生産額の十%に達したが、鶏卵の海外輸出高も六億八千四百萬封度とこれ亦全生産額の十%に上つた。その他チーズ及粉ミルク、脱脂乳並びにラード、植物油もそ

れぞれ二三%が輸出された。ソ聯援助

米國は一九四二年内にソ聯に對して飛行機二千六百機、戦車三千二百臺、トラック其他車輛八萬一千臺を供給したが、英國も亦戦車二千六百臺、飛行機二千機を供給した。ウクライナ喪失以來ソ聯への食糧補給も著しく増大し、去る十二月に至つては、ソ聯への食糧補給額は英國を凌いで最高額を示した。

其他諸國援助

この他一九四二年に米國が武器貸與法に基づき援助した主要國はエチオプト、インド、濠洲、ニュージーランド等があり、又英國第八軍に對しても同軍がロメル軍に對する攻撃を開始するまでに飛行機一千臺、戦車五千臺、其他多數の對戦車砲を供給してゐる。

逆貸與

以上の援助に對して米國軍隊もこれ等諸國から逆貸

與による援助を受けてゐる。即ち西南太平洋に派遣されてゐる米國軍の食糧は主として濠洲及びニューギニアから補給され、米國軍が現在までに受けた補給額は肉四千三百萬封度、馬鈴薯二千五百萬封度、其他野菜類二千五百萬封度、鶏卵三千六百萬個、バター六百萬封度、牛乳五百萬クオート、砂糖三百萬封度に達した。一方英本國から米國軍隊に對する食糧補給は、小麦粉一億封度、馬鈴薯四千百萬封度、果物及び野菜類二千五百萬封度、マーマレード及びジャム二千六百萬封度、砂糖五千五百

萬封度に上つた。更にアフリカ戦線の米軍も英國から彈藥三千八百萬噸、糧食二千噸、機械類三萬噸、其他銃砲多數の供給を受けてゐる。

國內工場への援助

武器貨與法の活動は、國外援助のみにとどまらず國內の軍需産業に對しても同法の豫算が流用され、例へばフォードの戦車及び飛行機用發動機工場に對しては五千萬弗が、又同社のウイローラン爆撃機工場に對しては一千萬弗が支給された。

通商破壊戦の激化に伴ふ米英の苦惱

會で前大戦當時の英首相ロイド・ジョージは、一九一七年の後半期に當り、英國が二百二十五萬噸の船舶を失つて正に崩壊の一步前に達してゐたことを回顧し、もし尙三ヶ月間右事態が繼續したなら英國はドイツに和平を乞はなければならぬところであつたと述べた。

しかるに、今次世界大戦に於ける樞軸潜水艦の活躍は前大戦の比ではなく、殊にドイツ潜水艦隊は本年も春季が近づいて、大西洋上の風波が幾分おさまるにつれて、北は北氷洋から南は喜望峯方面に至る全水域に出没して猛威を振ひ、米英後方連絡線に絶大な脅威を與へてゐる。

しかも、海上の天候が悪く潜水艦の活動に最も不利といはれる冬季に於てさへ、ドイツ國防軍司令部の發表によれば、獨海空軍は本年初頭以來反樞軸國商船(但しソ聯船を含まず)を左の如く撃沈してゐるのである。

- 一月 八一隻、五二萬二千噸(内 潜水艦によるもの 六三隻、四〇萬八千噸)
- 二月 九〇隻、五七萬六千八百噸(内 潜水艦によるもの 八二隻、五四萬五千三百噸)

これに對して、英國政府當局は、前大戦末期に聯合國側商船建造数が被撃沈数を越へ始めたと同じく、今次大戦に於ても、最近數ヶ月來米英側商船建造数は被撃沈数を追越し始めたと稱してゐるが、しかも英國海軍省は被撃沈船舶に關するあらゆる情報を秘密に附して、事態の容易でないことを思はせてゐる。

従つて、ドイツ潜水艦による通商破壊戦の激化は昨今

英國朝野最大の關心事となつた觀があり、二月七日附ニュース・クロニクル紙の報じてゐるところによれば、最近米國ギヤラップ輿論調査所英國支局が英國各社會層に現下最大の問題は何かとの質問を出したのに對し、三割が獨潜水艦による船舶喪失と答へ、これに對し第二戦線開設を最緊要と認めるものは一割五分即ち半分の比率を示したにすぎなかつた。

一方、米國に於ても、この問題が朝野を通じての痛心事となつてゐることは、ニューヨーク・サン紙軍事記者グレン・ペリーが二月二十四日附の同紙に掲載した左の一文からも察知するに難くない。

「反樞軸諸國の戦線が擴大されるに従つて補給問題は益々重要化することは明らかである。米國の大工業力は樞軸國の潜水艦建造能率を壊滅し去つた後に始めて全世界各戦域に寄與し得る。しかも樞軸國潜水艦が未だその全能力を發揮してゐないのである。ドイツは

現在撃沈される二倍の速力を以て潜水艦を建造してゐる。潜水艦の能力についての正確な判断はドイツ潜水艦が反種軸國船に與へてゐる損害を計算に入れて初めて的確な見積りを下すことが出来るのであるが、現在のところ英米兩國共に正確な損害を發表してゐない。更に損害は船舶そのものに止らないことも銘記されるべきであらう。即ち船舶と共に運輸中の重要な資材がその都度海底の藻屑と化してゐるのであるが、この點に關しても一般は兎角忘却するか等閑に付するかしてゐる。この意味で米國に於ける戦車、飛行機の生産量を工場に於ける数字的統計を以て考察することは重大な誤算を犯すことにならう。

米國の工業力は生産品が海を渡つて各戦域に到着して初めて效力を發揮するのであり、生産量ではなく到着量を以て判断すべきであるが、海上損失の統計は何等發表されてゐない。更に輸送中の兵員が潜水艦によ

り相當の損害を受け、すでに數千の海員が死亡する等、犠牲は益々増大して居るのである。かくして潜水艦對策は現下最大の急務とならざるを得ない。

しかもドイツ側では、去る一月三十日、ヒトラー總統は、所謂「狼群戰法」の創始者である潜水艦戰術の權威、獨潜水艦隊司令官カール・ドニッツ提督を元帥に昇進せしめると共に獨海軍總司令官に任命し、獨海軍本年度作戦の重點が那邊にあるかを想察させたのであつた。そこで、米英側では、いかにしてこのドイツ潜水艦の活躍に對應しようとしてゐるかといふと、先づ積極的には、昨秋來ドイツ潜水艦基地及び潜水艦建造所に對する空襲を敢行して、ドイツ潜水艦の勢力を減殺しようとしたのであるが、それが現在迄に殆ど見るに足るほどの効果を上げてゐないことは米英當局も認めざるを得なくなつた模様である。

現に、米國海軍委員會委員長エモリー・ランド提督は、二月五日、左の如く警告したと傳へられる。

「ドイツの潜水艦建造能力は現在その撃沈數より遙に多く、通商破壊戦の脅威は益々増大してをり、それに對抗することは極めて困難である。」

そしてまたノックス海軍長官も、二月二十三日の記者團會見に於て左の如く言明した。

「潜水艦對策については、米英兩國ともあらゆる手段を講じてゐるが、撃沈數以上の潜水艦をドイツが建造してゐることは否定できない。空軍や種々の艦艇を用ひて對策に腐心してゐるものの、通商破壊戦の脅威が近く軽減することを希望し得るやうな根拠は全然な

3.1

蓋し、米誌タイム二月十五日號が推算するところによれば、ドイツの潜水艦建造は毎月二十隻乃至三十隻に達し、反種軸側撃沈數の二倍に當り、春季攻勢に當つては五

百乃至七百隻に達する見込とのことであり、又英紙デーリー・ヘラルドも去る一月中旬に、現在ドイツの潜水艦建造能力は一週間八隻乃至十隻と見積り、その現勢力は新式舊式を併せ開戦當時の八倍以上に達するものと観測してゐるから、いよ／＼潜水艦の活躍に好都合となる三月以後の事態に對する米英朝野内心の危惧は想像以上のものがあると思はれる。

かくして、ドイツ潜水艦勢力を積極的に減殺し得ない以上、米英側としては、消極的乍ら、ドイツ潜水艦の襲撃からその商船をいかにして防衛するかの方策に早速全力を注がなければならぬのであるが、それについても、現在迄これといふ妙案は生れてゐないもの如くである。

即ち、英國ではチャーチルを委員長とする潜水艦對策委員會が、去る十二月以來、護送船團の改善、艦艇や空軍による攻撃方法等について検討を進めてゐるが、一方、前大戰で對潜水艦作戦の權威として知られたトウィーディー大

將や、労働黨出身の院議員で海軍通のウインスター等の主張してゐる潜水艦対策を要約すれば、左の通りである。

一、護送船團の速力を最低十七節まで引上げる。この理由はアレキサンダー海相の經濟速力だとする十一乃至十二節では悪天候の場合殆んど前進出来ず、潜水艦の絶好の攻撃となるからである。

二、ドイツが潜水艦の大量生産と乗員の大量訓練に成功してゐる今日、可及的速かに沿岸防備隊並に海軍基地に航空隊を配備し、船團に對する空の護りを強化することが急務である。

三、對潜水艦戦に關する特別委員を即時設置し、毎日會合して臨機對策を講ずる。

然し、これらの意見に關し、軍事關係者筋は技術的見地から次の諸點を擧げて、その困難を指摘してゐる。

一、例へば、十一節の商船を十五節にするためには機關の能力を倍にし、機關の生産に必要な熟練労働者を六

割増加しなければならぬから、高速船の建造には日子を要し、その大量生産は商船建造率を低下させる。

二、高速船は機關並に燃料が場所をとる結果、貨物積載量は噸數の割に少くなり、燃料の消費も増加する。

三、哨戒並に護送用飛行機を増加することは現在の生産力と各戦線の消耗率とを睨み合せる時至難である。

他方、去る一月三十日にロンドンに開催された英國海員組合の大會議席上に於て、同組合書記長ジャーマンの報告したところによれば、同人の商船保護要求に對し、アレキサンダー海相は次の如く書面で回答したとのことである。

「海軍航空隊による商船の保護は困難である。しかし海軍省は歐洲戦争の開始以來百隻以上のコルベット艦を建造、更に出来るだけ護送艦艇を建造する方針である。」

以上の事實から推察すると、英國海軍省としては、商

船速力の増大に對する一般専門家筋の要望にも拘らず、差し當りあくまで現行の護送船團制度を固執するものとみられる。

これに反して、米國側では商船速度の増大にも多少の熱意を示す一方、商船建造數の増加によつて商船擊沈數を補ひ且追越さうとするかの觀を示してゐるが、それだけに船團護送用驅逐艦及び驅潜艇の建造は案外進捗してゐないものの如く、現在の米國側護送船團には十五隻について驅逐艦が一隻しか配置されてゐないこともあり、速力優秀で、航続距離も永く、且夜間でも相當遠方から商船を發見し得る精巧な方向探知器を備へてゐると傳へられるドイツ潜水艦の好餌と化してゐる模様である。

尙、チャーチル英首相は、二月十一日の議會演説で、カサブランカ會談で決定された作戦は九ヶ月以内に實行するやうな口吻を示したが、先立つものは船船であり、

その作戰目標が、北歐にせよ、南歐にせよ、或はまたバルカン半島にせよ、兵力を輸送する船舶なしには、

上陸作戦が行はれる筈がなく、たとへ上陸させても、引續いて兵力や武器食糧等を補給するためには、また莫大な船舶を必要とすることが明瞭で、既に、佛領北阿に派遣された米英軍を最初の二ヶ月間補給するためにだけでも八百萬噸の船腹を必要としたといはれることから考へると、樞軸潜水艦の活躍を封殺するに足る奇蹟的な戦術でも發明されぬ限り、米英側としては、九ヶ月は愚か永久に手も足も出ないばかりでなく、北阿遠征軍その他の維持にさへ苦しまなければならぬことは疑ひの餘地がないところであらう。

のみならず、元來物資自給の不可能な大西洋上の孤島たる英本國の如き、樞軸潜水艦の逆封鎖の前に、急轉直下、餓死崩壊の危機に立至ることがないとは、英國民自身すら保證し得ないに違ひないのである。

各國動向

米 國

【軍事】

レンネル島沖海戦發表

レンネル島沖海戦に關し、米國當局は、真相の發表を回避してゐたが、二月十六日に至り、遂にその損失の一部を次の如く公表した。

「二月二十九日夜運送船を護衛し、且つガダルカナル島南方約七十マイルレンネル島附近に行動してゐた米巡洋艦數隻に驅逐艦數隻は、日本雷撃機の攻撃を受け

け、重巡シカゴは水雷敷發を喰つて大破、沈没した。更に同日米軍航空部隊がガダルカナル島方面における空中戦で十機を喪失、二月一日夜から二月未明の夜戦で米國快速艇三隻が沈没、次いで二月四日午後ガダルカナル島西北水域の空中戦で米軍の雷撃機四機、爆撃機、戦闘機各一機、引續く空中戦で戦闘機三機、急降下爆撃機一機を喪失したと、發表した。

チュニジア方面米軍慘敗

二月中旬のチュニジア中部の戦鬪に於ける米軍の慘敗に關し、北阿反樞軸軍司令部は、二月十九日、左の如く發表した。

一、ドイツ軍機甲二箇師團の急進襲により米軍部隊はアル

ジェリイ國境から百餘キロ後退した。一、五十噸重戦車を先頭にする獨軍精銳部隊は四日間に四千平方哩の地域を奪回した。米軍の損害は人的、物的に甚大である。

陸軍長官チュニジア敗戦自認

スチムソン陸軍長官に、二月十八日の記者團會見に於て、今回の中部チュニジア戦に於ける軍事敗退により米軍は人員並に器材に多大の損害を蒙つたと發表した。

人事異動

中東派遣軍司令官フランク・M・アンドリュース陸軍中將

任歐洲派遣軍司令官

二月五日付

中東派遣軍航空部隊司令官ルイス・H・ブレアトン陸軍少將

任中東派遣軍司令官

二月六日付

歐洲派遣軍司令官ドワイト・D・アイゼンハワー陸軍中將

任陸軍大將

任北阿反樞軸軍總司令官

二月十一日付

アイア・イーカー陸軍少將

任陸軍第八空軍司令官

二月十五日付

ミラード・F・ハーモン陸軍少將

任陸軍中將、ソロモン方面陸軍航空部隊及地上部隊司令官

二月十八日付

大統領附海軍副官に任命

ルーズヴェルト大統領は前第一海軍區司令官ウイリス・P・ラウン少將を大統領附海軍副官に任命した旨二月四日白聖館より發表された。

陸軍黑人部隊の現状

陸軍省は、二月二十七日、黒人部隊の現狀に付き次の通り發表した。

「黒人部隊の總數は四十五萬で内二千は將校である。歩兵部隊所屬は七萬であるが最近黒人兵のみの歩兵二個師、騎兵一個師が編成された。更に沿岸警備の砲兵隊所屬四萬以上、その他航空基地守備隊、技術部隊等にも多數の黒人兵が服務してゐる。地域別に見れば米本土以外に派遣されてゐる黒人兵數は六萬、太平洋水域二萬五千、北アフリカ戦線一萬である。」

戦費一日二億二千二百萬弗

二月二日附フィナンシャル・ニュース紙の報道によれば米國大藏省は一月中の米國戦費は一日平均二億二千二百萬弗で、昨年同月に比し一八五パーセントの増加であると發表した。

現地修理用浮船渠建造

海軍浮ドック(複數)建造經費二億一千萬圓支出案は二月十五日衆院を通過しルーズヴェルト大統領へ回附され

た。右に關し海軍委員會委員長ウォルシュは左の如く述べた。

「艦船現地修理用の移動浮ドックを設けることは作戦區域においてその必要を痛感されてゐる。」

標準型水雷艇性能

海軍省は、二月二十一日標準型水雷艇の建造を増加する旨發表した。右水雷艇は魚雷四箇、口径五十ミリの機關銃四門を有し、從來より装甲が厚く航続力も増大してゐる。尙、その中には對潜水艇用の爆雷を備へてゐるものもあるといはれる。

射程三萬呎の遠射高角砲公開試射

新型高角砲の公開試射が二月下旬米國で行はれた。右高角砲は口径九十ミリであるが、着弾高度は三萬呎で、同口径砲の何れよりも數千呎高く、且つ一分間に十四發速射し、その火力も亦恐るべき強力性を示して、立會の新聞記者を驚嘆させたといはれる。

爆撃機製作時間短縮

陸軍徴用工場監督官ルイス・サングラス大佐は、二月二十八日衆院委員會において、米陸軍中程爆撃機の製作には從來七萬勞働時間を必要としたが、現在では一萬三千時間に短縮された旨言明した。

今年度徴兵計畫

徴兵局長官ルイス・ハーシューは十一日の議會において今年度における徴兵計畫に關し左の通り發表した。

「滿十八歳から三十八歳までの男子で軍務に適する體格の所有者は現在なほ約一千萬を残してゐるが、政府は今後數ヶ月間毎月約四十萬の割合でこれら男子の徴集を實施する計畫である。」

女子海兵團員募集開始

海兵團當局は二月十三日女子海兵團員の募集を發表した。その募集は十五日から米國各地に於て開始されたが、當局の言明によれば、差當つて一萬九千の女子海兵團員を募集する豫定といはれる。

アラスカ軍用公路輸送力七萬噸

西北地區建設司令官オコナー代將はアラスカ公路の現狀に關し、二月二十三日、左の如く言明したと傳へられる。

「アラスカ公路は延長一千六百哩で現在一ヶ月間にこの公路を通過して輸送される物資は六萬乃至七萬噸に上つてゐる。公路の幅員は十六呎であるが、今秋までには廿四呎に擴げる豫定で目下着々工事を進めてゐる。完成後の一ヶ月輸送量は二十萬噸に増加する見込みである。」

【外 交】

カサブランカ會談の本質は軍事的

——ルーズヴェルト大統領記者團に説明——
ルーズヴェルト大統領は、二月二日、カサブランカ會談より歸國後最初の記者團會見に於て、左の如く言明し

た。

「カサブランカ會談は本質的に陸海空の作戰に關する軍事的會談であつた。反樞軸軍が歐洲において次に何時何處へ行動を起すかは豫言出來ないが、必ず行動することだけは確言できる。世間にはスターリン首相と蔣介石が簡単に會談に出席できた筈だと考へてゐる者もあるやうだが、それはソヴェト政府が日本と戦争して居らず、重慶政権は公式にはドイツに宣戦してゐるが、地理的關係から對獨戰に對しては何等寄與し得ない事實を忘れてゐるものである。」

アーノルド重慶及印度訪問

アーノルド陸軍航空部隊司令官は、二月五日、ルーズヴェルト大統領の代表としてチル英元帥と共に印度經由空路重慶に赴き、蔣介石に對しカサブランカ會談の内容を詳細に報告すると共に今後の作戰その他につき商議し、次いで七日何應欽と共に印度に飛んで、ウエーヴェ

ル英印度軍總司令官その他と重要會談を行ひ、二十日ワシントンに歸着した。

對キューバ軍事協定成立

米國政府は米國、キューバ兩國間に軍事協定が成立した旨二月二日發表した。

南中米諸國に經濟專門參事官派駐

二月三日華府發エクスチェンジ・テレグラフ電によれば、政府は、南中米諸國との經濟協力を更に強化充實するため、アルゼンチン、チリ、ブラジル等の七ヶ國に經濟問題専門の參事官派駐方を決定した。

銅生産合同委員會設立

ロンドン・タイムズ紙二月十一日附所報によれば、今回米英加三國代表によつて銅生産合同委員會が米國に設立され、米國戰時生産局銅生産部長ハリ・ウオーキングが委員長に任命されたといはれる。右委員會は米英共同生産資源委員會並に米英共同原料物資委員會の指令を受

け米英加三國の銅資源の開発、消費割當其他の任務に當る筈である。尙英國代表としては英國軍需省對米使節マイトクスが参加してゐる。

潜水艦八隻對伯讓渡

海軍省は米國が新に潜水艦八隻をブラジル海軍に讓渡した旨二月十七日發表した。

下院武器貸與法更新案可決

下院は、下院外交委員會から廻附された武器貸與法の一ヶ年更新延長に關する法案を、二月二十四日、全會一致可決、直ちに上院に廻附した。(詳細は國際時報中「米國武器貸與法の實績とその更新」参照)

【一】 般

リンカーン記念日に際し、

大統領對樞軸反攻を呼號

ルーズヴェルト大統領は二月十二日リンカーン記念日

に當りホワイト・ハウス記者團晚餐會で要旨左の如く演説した。

「現在我々は戦争の最中に在り、我々の念頭には一つの新しい考へが最先に浮んでゐる。それはこの戦争を最後迄戦ひ抜き、反樞軸軍が勝ち誇つてベルリン、ローマ、東京の街頭に進軍する日を以て終らしめる決意である。余は海外の一戦線から歸つたばかりであるが、其處には米國の工場で造られた物と米國の訓練場で訓練を受けた兵士とが現實に敵との戦闘に用ゐられてゐる。余は前線の米軍將兵を檢閲し、彼等の優秀な裝備を點檢し、彼等と語り、笑ひ、且食事を共にした。余はトリニダード、ナタール、ブラジル、リベリア、カンビアに在る我々の軍隊、即ち米國民の軍隊に會つた。これらの處では實際の戦闘は行はれてゐないが、困難且危険な重要任務があり、米軍は非常な忍耐と精神の緊張を要求されてゐるのを我々は忘れてならない。」

米軍將兵はこの緊張に立派に堪へて居る。余は我々が彼等を忘れて居ないことを彼等に傳へたい。余は北阿においても米軍將兵並に若干の米國女子を見た。此處には戦争があり、彼等はこの戦争が終るまでには彼等の内多くの者が國家に生命を捧げてゐるであらうことを知つてゐる。しかし彼等は又米國の敵の力を破壊するため戦つてをり、現實的恒久的な平和とより良き將來の世界のために戦つてゐることを知つてゐる。余は他の戦線の米軍にも同様に突然の訪問を行ひたいと思ふ。しかし、かう述べたからといつて余が近くガダルカナル島に行くなどと思はれては困る。

余は大太平洋の諸島、濠洲、アラスカ本土並に諸島、大西洋諸島、パナマ運河地帯、アイスランド、英國、中央アフリカ、中東、印度、ビルマ、支那等に在る米軍兵士に會ひたい。彼等に直接會つて、敵の息の根を徐々にではあるが着實に締め付けてゐる彼等の偉大な事業

内では不平が多過ぎ戦争の現實に對する認識が不足してゐるとか、利己的な勞働運動指導者が争議を開始せんとし、軍需工業の生産は非常に減少するであらうとか、或る農業グループは物價騰貴を狙つて投機を行ひ食糧生産において國民を裏切つてゐるとか、多くの人が消費割當と優先配給によつて生ずる困難を恨んでゐるとか、又特にワシントンでは各黨派間に憂慮すべき競争があるとかいふことを聞かされてゐる。余は彼等に對してこれらの報道の大部分は恐しく誇張されてゐることを語つた。併し眞實を好む余は、幸にして極く少數であるが、若干の詐欺師、政治家、宣傳屋が自己の個人的野心と貪慾の前に國家の利益を顧みないでゐる事實を否定し得なかつた。戦後の世界再建に關してそんな立派な妥當な目標を達成することが出来まいといふ懷疑的な人々もまだ少數ながら存在してゐる。これ等の職業的懷疑派、これ等の信仰のない人々を見

業に米國政府と國民が非常な誇を感じてゐることを傳へたいのである。しかしそれらの答は凡て一つのことによ約出來る。米國人は誰もが自由のために戦つてゐる。そして今日凡ての米國人とその家族の自由は他國の隣人の自由に依存してをり、將來は益々さういふことになる。それだからこそ一見遠くの地域で始つた現在の戦争が、凡ゆる大陸と殆ど凡ての島に擴がり、全人類の生命と自由を捲き込むに至つたのである。それ故戦後の平和が、全世界は隣人の集りであることを認識し、全人類を正當に扱ふものでないならば、次の世界大戦の萌芽は絶えず人類を脅かし續けるであらう。

余は米國沿岸、西半球の諸島から西阿沿岸に到る間の米軍の多くの人々と話をした。米軍兵士、水兵の多くの者は銃後戦線の状態について關心を抱いてゐた。彼等は凡ゆる種類の誇大な報道や風説を耳にし、米國

の時、余は古い言葉ではあるが、「屁理屈屋」といふ米語を思ひ出す。せせ／＼とした、氣の小さい、卑怯な、かうした型の人間は、常に明白な事實を無理に曖昧にしようとして、煙幕を張ることばかりに熱中してゐる。今日、これ等の屁理屈屋共は、今次戦争に於ける重要な眞理をごまかさうとしてゐる。彼等は現在及び將來をごまかし、自由な世界に對し疊りのない勝利を約束してゐる基調ともなつてゐる。明確な目標、高邁な主義にけちをつけようとしてゐるのである。

今や北阿に於ては米英佛三軍が兵力を集結して、今次大戦に於ける大戦闘を戦はんとしてゐる。チュニジア戦に於ける敵の目的は全力を擧げてアフリカに於ける彼等の最後の據點を死守し、我々がナチスの支配下にある歐洲に進撃する海峡を確保することを妨害しようとするにある。このチュニジア戦に於ける我々の最大目標は敵を海の中へ叩き込むのにある。チュニジア

にある敵軍は第八軍並にド・ゴール軍のル・クレルク將軍に率いられたハラ沙漠を横断して進撃したフランス軍によつて南方から攻撃されるであらう。一方西方からは米英軍がジロー將軍麾下のフランス軍と共に敵に對して攻撃を加へるであらう。これ等の軍隊はいづれもアイゼンハワー大將の指揮下にある。

余はカサブランカにおいてカンサス州開拓者の後裔であるこの若き將軍と長時間をともに過した。彼がいかに困難な仕事を見事にやつてのけたか、又彼がその麾下軍隊をいかに慎重且巧妙に指揮したかを余は充分に知つてゐる。余はこの席において改めて諸君並に彼自身に對して、我々は彼の統帥、指揮に對してあらゆる信任を寄せてゐることを告げようとするものである。カサブランカ會談において、英國政府がチャーチル首相を通じ、日捷に迫つた反樞軸軍大作戦の最高指揮官に進んで彼を推したのは、軍人としての彼の素質に

對する非常な賞讃の表現に他ならない。アイゼンハワー大將の下にアレキサンダー大將が副指揮官となつた。彼は英國の最も偉大な軍人の一人である。以上述べたこれ等の重要な事實は、反樞軸諸國の提携のみならず、更に進んで積極的協力をも物語るものである。この事實を我等の敵は充分認識するであらう。チュニジアに於ける我が軍隊は訓練、裝備共に充分であるが、實戦に参加したのは始めてであり、然もその相手は恐るべき敵なのである。しかしながら前大戰に於てパーシング將軍麾下の若きアメリカ兵がアルゲンヌの森に於て、ヌミューズ河を越えて當時ドイツ最強の軍隊を撃破した如く、彼等が勇敢に且つ有効に戦闘するであらうことを我々は確信出来る。チュニジア戦に於ては勿論非常な損害を覚悟しなければならない。我々の將兵が、戦場に於て、沈着勇敢に振舞つてゐる如く、我々自身もこの事實に對して沈靜に直面しなければならぬ。

らない。敵は強力な軍隊を以て堅固なる陣地によつてをり、非常な犠牲にも拘らずその後方補給線を確保してゐる。しかしヒットラーはその犠牲を甘んじて拂つてゐる。何故ならば彼は、チュニジアに於ける反樞軸軍の勝利がいかなる結果を齎らすかをよく知つてゐるからである。驚嘆すべき赤軍は東部戦線に於て壓倒的打撃を加へてゐる。我々は同様の打撃を西方から加へなければならぬ。敵に對しあらゆる方向から猛撃に次ぐ猛撃を以てし、敵をしてどちらが正面か背面かわからないやうにしなければならぬ。

カサブランカ會談に於て決定された事項、竝に將來に對する具體的計畫は一戦場一大陸一水域に限定されたものではない。今後一年以内に全世界はカサブランカ會談が多くのニュースを製造したことを言葉ではなく行動の上に於て知るであらう。そしてこのニュースは日獨伊三國民にとつては悪いニュースと

ならず。我々は最近西南太平洋水域で長期に亙る困難を極めた戦闘を終へ、可成りの戦果を収めた。此の戦闘は昨年夏ソロモン群島及びニューギニアにおいて開始されたもので、我が優勢な空軍力と、特に重要なことは、我が陸海軍將兵の戦闘力を示威し得た。西南太平洋水域の米軍は濠洲、ニュージールランドおよび直接本土から強力な援助を受けてゐる。我々は日本を最後の敗北せしめるためには、單に渺茫とした太平洋上に點在する島から島へとじり押しに進撃するだけで時を費やさうとは思つてゐない。我々は支那から日本を驅逐するため、日本に對し大規模且つ決定的な行動に出るであらうし、支那上空、そして勿論日本本土上空でも重要な行動を採るであらう。

カサブランカで協議された諸事項は引續き重慶において、蔣介石と米國陸軍航空部隊司令官ヘンリー・アー

ノルド大将との間で協議された結果、進攻作戦に関する計畫が確立された。直接東京に通ずる道は數多ある。われ／＼はその孰れをも等閑に附さないであらう。

避け難い敗北の災厄を回避しようとして試みて、樞軸宣傳機關は反樞軸諸國を離間せしめるため十八番の謀略を悉く實行に移し、萬一我々が今次戦争で勝利を得たならば、ソ聯、英國、支那、米國等は摺み合の喧嘩をするやうになるといふ考へを植えつけやうと努めてゐる。此れは樞軸が各個に一國乃至二國と勝負を決しやうと徒らに希ひ、反樞軸國が騙され易く、忘れつぱくと空しく希望して、一國を他國に咬し掛けやうと試みる最後の努力に外ならない。

狼狽した樞軸が自己の犯した罪の結果から逃れやうとして、こうしたことを試みてゐるのに對し、我々即

ち全反樞軸諸國は如何なる樞軸政府乃至は樞軸國の一部とにせよ取引をする場合の唯一の條件は、カサブラノカにおいて宣言した條件即ち「無條件降伏」であると言はう。我々がかゝる強硬な方針を樹立したからといって、必ずしも樞軸國の一般民衆に憂目をみせようと言ふのではなく、彼等の惡辣野蠻な指導者達に充分の天罰と懲報を下さうと意圖してゐるのである。若しナチスが宣傳の力で英、米、支那の政府及び民衆をソ聯に敵對せしめるか、ソ聯をして他の反樞軸國に敵對せしめ得ると眞面目に信じてゐるならば、實に真正正銘の狂人に相違ない。侵入軍の進撃を阻止し、撃退してゐるソ聯民衆の驚嘆すべき勇氣と忍耐、赤軍大兵力の作戰指導に當つて發揮されてゐる天才的手腕は既に明瞭である。

戦争の慘禍は反樞軸諸國の指導者並に民衆の想像力を過敏にした。併し反樞軸國民衆は不易の諸原則に立

脚した平和を確保するため、戦後一致協力する必要を悟つてゐることを余は確信をもつて斷言し得る。事實若し日本が樞軸加盟國中眞先に倒壊する國とするならば、必ずや全反樞軸國の努力と資源は擧げてドイツ打倒の事業に集中されるであらう。

チャーチル首相はカサブランカ會談において若しドイツが日本より先に屈服したならば、全英帝國の物的人的資源は、勿論、支那及び我々と合流して、日本に對し全面的な決定的攻勢を行ふといふ旨の公式の協定を締結することすら希望したのである。余は彼に對しその點については公式の聲明乃至協定は些かも必要でない。米國民は偉大な英國紳士の言葉を信ずる。それに我々全てがアジア、歐洲及びアフリカにおける野蠻な勢力を撃滅する決意を固めてゐる點では完全に一致してゐることは明々白々の事實ではないかと答へた。要するに敵國日本に對する我々の方針は、敵國ナチスに

對する我々の方針と全く軌を一にするものである、即ちその方針とは全戦線において全力を盡して戦ひ「無條件降服」の斷乎たる條件に立脚して能ふ限り戦争を早く終結せしめることである。」

恐日傾向増大

二月二十五日附ニュース・クロニクル紙所報によれば、ギヤラツプ輿論調査所は、二月二十四日、「今次戦争に於て日獨兩國中いづれを第一の敵と思ふか」との質問に對する米國輿論の回答を發表したが、それによれば、日本を第一の敵となすものが五割を越え、これを従來の調査に比較するとその恐日傾向が最近急激に増大してゐることが知られる。(單位%)

調査時期	日本	ドイツ	不明
今回調査	五三	三四	一三
昨年三月調査	二五	五〇	二五
一昨年十二月調査	一五	六四	二一

ダイス委員會存續可決

下院は、米國內における非アメリカ運動の調査機關たる「ダイス委員会」の存続問題を繞り、白熱的論戦を續けてゐたが、二月十日採決の結果三百二票對三十四票を以て更に一年の延長存続を可決した。ダイス委員会は民主黨下院議員マーチン・ダイスを委員長として一九三八年に設置された下院の特別委員會で、開戦前には樞軸國民の檢舉に活躍してゐたが、最近では米國內の共產黨狩りにその主力を注ぎ、特に政府部内にある共產主義的分子の解散を要求した結果、米國政府の對ソ懐柔政策にも非常な支障を與へ、議會の大問題となつてゐたものである。

検閲制度強化

検閲局は、二月七日、電信、電話、郵便等に關する新取締令を發布したが、新令は次の各項目に該當する諸情報はいづれも當局の事前検閲を必要とする旨規定してゐる。

- 一、米軍及び反樞軸軍隊の行動
- 一、艦隊及び商船の行動並に船舶の建造及びその沈没

戰時生産局第七回月次報告

- 一、軍事的行動の結果に關する情報、危険信號の發せられない以前の米大陸乃至米國本土に對する空襲をも含む
 - 一、米國及び反樞軸空軍の行動
 - 一、米國及び反樞軸國防備組織の場所及びその構造
 - 一、米國軍需生産の進捗情況及び軍需工場的位置に關し敵國に情報資材を與へる如きもの並にカボタージュ活動を利する如き情報
 - 一、各種氣象情報
 - 一、敵國を利する恐れあるその他情報、強制收容所及び俘虜に關する情報、外交交渉に關する早期の情報
- 大統領其の他高官の行動乃至反樞軸國の戰爭遂行に有害と認められる宣傳材料に關する情報、及び敵國を利し反樞軸國の戰爭遂行に障礙を與へ、その外交關係に有害なその他の情報等を含む

戰時生産局長官ドナルド・ネルソンは、二月二日、第七回月次報告を發表、昨年十二月の軍需品生産高は十一月に比し十四パーセント増加、一昨年十一月即ち日米開戦一ヶ月前に比し五倍に激増したと誇示したが、報告内容の主なものの次の通り。

商 船

- 一、昨年十二月海事委員會により商船百八隻百十六萬七千噸が引渡された。
- 一、昨年度中にリバティ型貨物船五百四十二隻が建造され、既に活動を開始してゐる。また技術の改良により船舶建造に要する日数が激減し、昨年一月に引渡された船舶には二百四十一日を要したに對し、十二月には僅かに五十二日を要したのみであつた。

- 一、海事委員會は昨年中に商船七百二十隻八百二萬七千噸を引渡したのみならず、特種軍用船十九隻、曳航船十四隻を引渡した、従つて昨年中引渡された船

船の總噸數は八百九萬噸となる。

ラ ジ オ

- 一、昨年度中における軍需、民需兩方面の生産高は十億弗を超過、一昨年に比し三倍以上の増加である。

索 敵 器 機

- 一、昨年十二月の生産高は約二億弗に達し、十一月の船積高一億六千萬弗に比し十パーセントの増加に當る。

建 築

- 一、政府は昨年度中に軍事施設、兵器工場、裝備倉庫の建築及び公共土木事業費として總額百四十一億弗を支出したが、一昨年の四十八億弗に比し三倍の増加である。

工 作 器 械

- 一、昨年十二月における工作器械の生産高は一億三千百九十萬弗で最高を示してをり、十一月の一億二千

戦費

九十萬弗に比し九一パーセントの増加に當る。
一、昨年度における財務省その他政府各機關の戦費支出は總額五百二十四億六百萬弗に達し、一昨年に比し三倍弱激増した。

一、昨年度における一日の戦費支出額は一億六千九百萬弗で、一昨年のは四五千五百六十萬弗であつた。
一、昨年十二月の戦費支出額は六十一億二千五百萬弗であつた。

労働

一、昨年三月軍需生産促進のため創設された各種勞務調整委員會の数は昨年末に至り千百十九に上り、右委員會を構成する労働者の数は四百萬三千七百四十二名に達した。
一月中商船進水百十隻

海軍委員會は、二月三日、一月中の商船進水数は百十隻

に達したが、その内譯は左の通りであると發表した。

- 一、自由型船八十六隻
- 一、長距離油槽船六隻
- 一、長距離貨物船十二隻
- 一、海軍用特別艦艇六隻

原料資材の不足深刻

戦時生産局は二月一日附を以て原料資材に關する報告書を發表、重要資材を左の三項に分つて掲示した。

- 第一類 軍事計畫遂行上きはめて肝要なものでありながら軍需および緊急民需に對する供給が十分でないもの
 - 第二類 右同様のもので軍需及び緊急民需に對する供給が略々十分なもの
 - 第三類 非緊急物資であり、勞力、製造能力、運輸等によつて阻害されない限り緊急物資の代用品として十分な供給があるもの
- 右のうち第一類には左の諸品目が含まれてゐる。

(一) 金屬類(順序は不足の最も甚だしいものを先とする)

- (イ) マグネシウム、アルミニウム、銅、錫、カドミウム、亜鉛、蒼鉛
- (ロ) タンタル、ベリリウム、リチウム、イリヂウム
- (ハ) モリブデン、ニッケル、バナヂウム、タングステン、クロム、コバルト、カリウム、珪素
- (ニ) クロム・ニッケル鍍止鋼、その他の合金鋼、高速度工作機鋼、鑄鉄合金鑄鐵

(二) 鐵鋼製品(順序同前)

一吋以上の棒鐵、鐵錠、一定の長さ繼目のない鐵管、鋼板、シート及びストリップ、一吋半以下の棒鐵、ワイヤ・ロープ、鑄鉄、ブリキ板
なほこの他プラスチック化學製品についても同様の一覽表を發表してゐる。右報告は二ヶ月毎に戦時生産局

より發表されてをり、今回は第七回目である。

人造ゴム生産澁滞

全米ゴム統制官ウィリアム・ジェフアースは、二月一日の上下兩院合同委員會において、人造ゴム生産計畫の澁滞を告白し、左の通り報告した。

「昨年中における米國の人造ゴム増産計畫は一向はかばかしく進捗せず、極めて不満足な結果に終つた。その原因は人造ゴム生産を繞る混乱と論争と一部の人間の妨害、竝に指導者の缺如に因るものである。」

鐵鋼業不振の三原因

上院戰爭調査委員會は、二月四日、米國における鐵鋼生産の不振を指摘して、左の通り聲明した。

「今年度における米國の鐵鋼生産は辛うじてこの大戦争の需要を滿し得る程度に過ぎない。かゝる鐵鋼生産不振の原因は左の三點にある。

- 一、軍當局が戦時下において必要とする鐵鋼量を過少

評價したこと。

二、關係各大会社が戦後における反動を恐れて生産擴充に二の足を踏んでゐること。

三、戦時生産局が鐵鋼産業の戦時體制移行を遅らせたこと。」

平和産業従事者に轉業要求

戦時人的資源委員會長官ポール・マクナットは二月四日戦時において不慮と見做される産業十九部門及び廣告業、寶石商、理髮業、酒場、給仕人、玄關番等の不急職業を取上げ、これ等の職業に従事する三十八歳未満の男子は来る四月一日までに聯邦職業紹介所を通じて軍需工場に轉職するか軍務に服するか何れかを選ばう布告した。これに伴ひニューヨークはじめ全国各地の職業紹介所は同日直ちに右轉業者の申込受付を開始した。

一週四十八時間労働令發布

ルーズヴェルト大統領は、二月九日、一週四十八時間

労働令を發令、これに應じて戦時人的資源委員會長官ポール・マクナットは、即時全國で最も労働力不足を感じてゐる三十二地區に對して同令を適用、一週最低労働時間を四十八時間とする旨の命令を發した。

邦人二世一萬を農業に動員

政府は、労働力不足對策として、抑留中の邦人二世を農業労働に動員する旨に發表したが、農務省生産局長クリフオード・タウンセンドは、二月二十日、同計畫に關し重ねて次の如く發表した。

「政府は目下抑留中の日本人二世約一萬を農業労働に動員する豫定である。但し右は抑留されてゐる日本人二世總數の七分の一に過ぎない。また收穫季にメキシコ人五萬の應援を求め外、米國市民三百萬を一時徵用して、農業労働力の不足を解決する豫定である。」

果物罐詰にも割當制

戦時生産局は、二月三日、三月一日から果物、野菜類

に對し割當制を適用することになつた旨發表された。

短靴に割當制

經濟安定局長官ジェームス・バーンズは、二月六日、短靴の割當制を發表、即日實施した。右により米國民は今後一ケ年に三足宛の靴が割當てられる。又、戦時生産局も七日午後靴の割當制實施を發表、物價統制局長官ブラウンは直ちに全國廿萬の靴販賣業者に對し、割當制に入る準備として、九日午後零時一分まで短靴の販賣を差控へるやう命令した。なほ現在米國で割當制の實施されてゐる商品は砂糖、コーヒ、ガソリン、自動車、タイヤ、チューブ、タイヤライター、燃料油、自轉車の九種で、靴は十番目である。

チエター・チーズ一般賣出禁止

ウイツカード食糧管理局長官は、二月七日夜、十五日以後米國のチエター・チーズ生産の半額を政府に買上げ一般賣出しを禁止する旨布告した、政府買上後は軍用並に

武器貸與法による外國援助用に充當される豫定である。

民需用紙制限強化

戦時生産局ハルプ紙部長ウエークマンは、民需用紙消費量を更に一割方制限する旨、二月十七日次の如く言明した。

「政府は軍部並に政府各機關の需要に應ずるため、民需用紙消費量を全體に亘り、更に十パーセント削減する。戦前における紙の年産額は千五百萬噸であつたが、現在の豫定生産高は八百五十萬噸である。今回の制限令の適用を受けるものには、新聞紙、一般書籍から封筒等も含まれてゐる。また擬革紙の使用制限も考慮されてゐるが、そのためパルプ紙工業の負擔が更に加重されるであらう。」

皮革製品の製造制限

戦時生産局は軍需用皮革の供給を調整するため二月十八日民需用皮革製品の製造制限令を發した。新制限令に

含まれる皮革製品は手袋、旅行鞆、小型手帖の表装、巻煙草入、パイプ煙草入れ、安樂椅子等である。

徴用學校數二百八十一校

二月七日戰時人的資源委員會の發表によれば、現在までに陸海兵員の訓練、軍需工業勞働者養成の爲に動員された學校數は二百八十一校に達してゐる。これ等徴用學校のうちにはハーヴァード、エール、プリンストン、コロンビア等有名な大學も含まれてゐるが、人的資源委員會は將來少く共六百乃至七百の學校を動員する豫定といはれる。

物價騰貴顯著

二月十三日附ロンドン・タイムス紙は、最近における米國卸賣物價指數に關する米國勞働統計局發表數字を掲載してゐるが、その要點左の通り。

(註—一九二六年基準一〇〇)

	綜合物價	農産物	食糧品	其他
一九四二年	九五七	一〇〇一	九三七	九二五
二月七日				
一九四三年	一〇一八	一一六一	一〇四四	九六二
一月九日				
一月三十日	一〇一八	一一〇七	一〇五〇	九六三
二月一日	一〇二〇	一一八二	一〇五一	九六四

國民の納稅促進に政府大奮

最近における米國民の納稅申告書提出は頗る渺々しくなく、これはひいては納稅不成績を豫告するものとして憂慮されてゐるが、二月十五日夜財務長官モーゲンソーを初め下院歳入委員會委員長ドイトン、上院財政委員會委員長ジョージ等の關係者はラジオを通じて國民に呼び掛け、一九四二年度の納稅申告書並に第一期納稅の早急提出方を要請した。要旨次の通り。

モーゲンソー

「現在の納稅申告書提出數は昨年の大體五十パーセント以下といふ不成績である。」

ドイトン

「三月十五日に納められる税金はすべて課稅總額の一部として取扱はれるもので、同日に課稅額的全額を納めたところで決して損はしない。」

ジョージ

「議會は現在租稅完納案を考慮中である。蓋し一九四三年度の納稅額は更に増大すること必至とみられ、戰爭が終るまでかかる傾向は止むまいとみられるからである。」

英國

【軍事】

北阿中東方面英軍首腦部新陣容

チャーチル首相は、二月十一日の下院で、北阿中東方面英軍首腦部の新陣容を左の如く發表した。
尙、北阿方面反樞軸軍總司令官は、ドワイト・アイゼ

ンハッワー米陸軍大將であり、アレキサンダー英陸軍大將以下同方面の英軍各司令官は何れもその統一指揮下に入つた譯である。

ハロルド・アレキサンダー陸軍大將

任北阿反樞軸軍副司令官

任英第一軍司令官

A. M. アンダーソン陸軍中將
(チュニジア戦線の米軍、佛軍の軍をも統合指揮する。)

B. L. モントゴメリー陸軍中將

英第八軍司令官如故

A. W. テッガー空軍大將

任地中海方面空軍司令官

(エチオピア、リビア、アルジェリアに中東方面の空軍をも指揮する)

任チュニジア方面空軍司令官

カニンガム空軍少將

任反樞軸地中海艦隊司令官

サー・アンドリュー・カンニング海軍大將
(米英兩艦隊を指揮する)

サー・ヘンリー・メイトランド・ウィルソン陸軍大將

任英中東軍司令官

ヘンリー・ハーウッド海軍少將

任英レヴァント・紅海方面艦隊司令官

アレキサンダー大將前線出動

北阿反樞軸軍總司令部付ロンドン・タイムズ紙特派員

二月二十二日發の報道によれば、北阿反樞軸軍副司令官アレキサンダー大將は、アイゼンハワー司令官との打合せ後チュニジア方面前線基地に赴き、二月十九日以後同方面の作戦指揮に當つてゐる模様である。

北阿英空軍、米空軍に合流

北阿反樞軸軍總司令部は二月二十六日附公報を以て、カニンガム空軍少將麾下の北阿英空軍は同方面米空軍と合流し、スバツツ米空軍少將の統一指揮下に入ることとなつた旨發表した。

潜水艦搜索用艦載機性能

二月十三日附デリー・テレグラフ紙の報道によれば、

英國の戦艦及び巡洋艦は、將來複座水上機カーチスライト(俗稱ライトガル)を潜水艦搜索用として搭載する模様であるが、同機の性能は左の通りである。

重量五、七二九ポンド、五二〇馬力レインジャー發動機裝備、時速一九〇哩、航続力一千哩(八時間)、砲手座席尾翼直前、カタパルト使用

【外 交】

チャーチル首相ロンドン歸着

カサブランカ米英會談並にナダナ英土會談を終へたチャーチル首相は、エチプトで國王フアルーク一世を訪問要談を遂げたと傳へられたが、二月五日トリポリを出發、途中アルジェエの反樞軸軍司令部を訪問し、アフリカ派遣軍總司令官ドワイト・アイゼンハワー、反樞軸聯合艦隊司令官アンドリュース・カニンガム等と打合せを遂げた後、リベレーター機に搭乗し、七日英國某地點に着

陸、同地から汽車でロンドンのパティントン驛に歸着し、一ヶ月に近い外交行脚を終へた。

チル元帥重慶及印度訪問

政府當局は、二月十一日、ジョン・チル元帥が、チャーチル首相の代表として、ルーズヴェルト大統領代表たるアーノルド將軍と共に、重慶に於て蔣介石と、又印度に於てウエーヴェル印度軍司令官と夫々重要會談を行ひ、對日作戰案につき完全な意見の一致をみたと發表した。

シーモア駐重慶大使歸任

外務省は、二月二十二日、重慶駐節英國大使サー・ホーレス・シーモアが本國政府との打合せを了し、目下空路重慶に向け歸任の途にある旨を發表した。

バルカン方面英ソの確執表面化

二月十九日附ストックホルム・テイディング紙は、バルカン方面に於ける英ソの暗闘につき左の如く報道した。

「バルカンを繞る英ソの確執は最近急激に表面化してきた。たとへばユーゴスラヴィアにおけるバルチザン闘争は現在二派に分れてをり、ミハイロヴィチが指揮する一派は英國にあるユーゴ亡命政権に忠誠を誓ひ、英國の尻押しで同政権の本國歸還を企圖してゐる。他は共産黨の指揮するバルチザン運動で、どういふ方法を通じてか判らないが、兎に角ソ聯から資金の融通を受けてゐる。この二派は相互に協力しないどころか、同志討をやつてゐる有様である。反樞軸軍の歐洲大陸侵攻作戦には、バルカンが第一の戦場に選ばれてゐるやうであるが、萬一の場合には必ずや英ソ間の紛糾が発生するであらう」。

九ヶ月以内に大規模攻勢實施

チャーチル首相下院に報告

二月七日、ロンドンに歸着したチャーチル首相は、同十一日英國下院に出席、カサブランカ會談その他今

回の外交行脚について報告したが、演説の要旨左の通り。

「カサブランカ會談の目的は主として軍事的問題の協議にあつた。同會談において、我々は、陸海空三方面で出来るだけ大規模に又出来るだけ早い機会に樞軸軍に對して攻勢を開始する作戰計畫を協議した。右會談にスターリン首相が出席出来なかつた事は残念であつたが、スターリン首相は一日もその椅子を離れることは不可能であつた。ルーズヴェルト大統領はエジプトまで赴いてカルツームで會議を開き、これにスターリン首相を出席せしめることまで考へたのであるが、これも當時不可能であつた。

余はルーズヴェルトに對し英米兩國の對樞軸戰爭の確約を一個の特殊協定の内に盛り込んでどうかと提言したが、ルーズヴェルトは「英國の確約はかかる協定の作成を必要としない」と述べた。反樞軸國は既に

約五十萬の大軍をアフリカに上陸せしめてをり、來る九ヶ月以内には樞軸軍に對し大規模な攻勢に出るであらう。獨軍はトリポリの撤退に當つて同市の港灣を徹底的に破壊したので、海上からする英軍の補給は甚だしく困難な状態にある。故にトリポリタニア地區における作戰が急速に進むことは期待出来ない。チュニジア戰線には二十五萬の樞軸軍があるものと見られてをり、反樞軸側としては將來の危機を充分豫想しなければならず、恐らく大激戦が展開されることにならう。チュニジア地區への英第八軍進撃に伴ひ、北阿反樞軸軍司令部の改編が斷行されることになり、英米兩國は全部アイゼンハウアーの統一指揮下に入ることになる。即ち大將ハロルド・アレキサンダーはアイゼンハウアーの下に反樞軸軍副司令官となり、現在の英中東軍空軍司令官大將アーサー・テツガーは地中海方面反樞軸空軍司令官に、又反樞軸海軍部隊司令官には大將

アンドリュ・ブラウン・カンニンガムが任命される。北阿における政情は相當複雑でその解決も又相當困難視され、北阿政權の構成乃至その首腦者の任命に關しては一般に兎角の非難があるやうであるが、余は一般國民並に新聞界はもつと自省的な立場をとるよう懇諭するものである。同様に今回の北阿反樞軸軍司令部の再編成についても言動を慎んで貰ひたい。

米英兩國には極めて有力でしかも増大する兵力があり、大量の軍需品も續々出來上つてゐるが、先づこれ等の兵力を戰場に持運ぶのが問題である。米軍は漂渺たる大洋を横断せねばならず、英國も亦四面海に取圍れてゐる。従つて獨潜水艦戰が米英兩國政府の考慮に於て第一位を占める所以である。兩國政府は潜水艦戰の危険を考慮し、その對策確立の仕事を作戰計畫の劈頭に置いてゐるのであるから、潜水艦戰の危険を誇張したり、矢鱈にその危険を説いて船員諸君を心配

させることは全く不必要である。海上で反樞軸軍が蒙つてゐる損害は甚大で、作戰を阻害且つ遅延させることが甚しい。米國政府が參戰して以來米國の造船力は著しく増大し、一九四三年末には千三百萬グロス噸、米國流にいふと千八百萬乃至千九百萬重量噸に達するであらう。米國政府は米國船隻に米國の支配下にある商船一千萬グロス噸を以て參戰したが、當時英國の現有噸數は一故意に不正確に言ふが一その二倍であつた。しかしながら、米國艦隊が護送船制度を整備するまで、米國の東岸沖合で潜水艦は非常に跳梁を逞しくした。また開戦の當初、日本軍の活躍によつて極東に於ても重大な損害を蒙つた。またソ聯邦に對する北氷洋方面の商船護送でも多大の損害を避けることが出来なかつた。然し米英兩國並にカナダ等の新造船を全部加算すれば、反樞軸商船總噸數は、半年以前に比し、百二十五萬噸増加してゐる事實だけを挙げよう。殊

に、過去二ヶ月の商船喪失噸数は一ヶ年間の最低數字に下つてゐるが、貴重な貨物、勇敢な乗組員等の損害を考へれば、決して現状に満足することは出来ない。護送を嚴重にした商船團は、殊に長距離軍用機が護衛する場合には、潜水艦を打負かすことが出来よう。英國艦隊の護衛の下に約三百萬名の將兵が各戦線に移動したが、その中で戦死乃至溺死したのは、行方不明を入れて、千三百四十八名に過ぎない。即ち英軍護送の船團で航海すれば危険率は二千二百分の一といふことになる。商船の喪失に對應するため、米英政府は過去六ヶ月間に護送艦艇の建造に力癩を入れ、多數の護送艦艇が兩國で出来てゐるが、これ等艦艇には對潜水艦戦の凡ゆる新工夫が採り入れてある。遅い船よりも速い船の良しことは判つてゐるが、なかなか複雑な問題で簡単に速い船を作る譯にはゆかない。

一方潜水艦撃沈噸数は逐次増大し、殊に一九四二年

一月から十月までの十ヶ月の戦果は、世界戦争開始以來の好成績である。現在英國人が開戦の當初蓄積した食糧原料品に喰ひ込んでゐることは事實であるが、これはアフリカ戦線並にアジア太平洋戦線に於ける作戦を遂行してゐる結果に他ならない。カサブランカ會談に於ては潜水艦の脅威を打破し、造船能力を増大することが效果的反攻作戦の前提であるといふことに意見が一致したが、地球のあらゆる部分に半ダース以上の戦線が展開されてゐる以上、見方によつて意見の相違が起るのは已むを得ない。カサブランカ會談以前には幾多意見の相違があつたが、相違は原則に關するよりもむしろ力點の置き所乃至前後の問題であつた。然し會談の結果兵力の配備、並に兵力の動かし方、特定行動の重量等を較量した完全な作戦計畫が出来たので、今後九ヶ月の間に力に應じて右計畫を實現する方針である。

アダナにおいて余はトルコ大統領イノニューと會談

したが英國の政策はトルコを紛争に捲き込まんとするものではない。トルコの危険は即ち英國の危機であるとの見解から、余はトルコに對し武器その他の物資を供給して同國の軍隊の強化を計らうと努力したのである。

ドイツ軍を打破し、ドイツの勢力を撃推することが、日本軍に對する決戦に優先しなければならぬといふことは、米英兩國政府が一ヶ年前に決定したところであるが、今度の會議でもこの事實を決して秘密にはしなかつた。余は、既に二ヶ月以前に、日本軍に對して勝利を確保する前に歐洲で輻輳軍を打ち負かすことが出来るかも知れず、その場合には英帝國の一切の戦力を傾けて日本軍を屈服させるまで米軍と共に戦争を繼續する旨を闡明したが、カサブランカ會談でも戦時内閣の權威を以て以上の宣言を繰返し、大統領に對し必要とあれば右宣言を特別條約としてもいいと申入れた。然し大統領は言葉だけで十分であると聲明した。

尤も歐洲に於てドイツ軍撃推を企圖すると同時に日本軍を奔命に疲れさせ、特に米軍に對して物資力を消耗してしまふやう凡ゆる手段を講ずる方針である。今年太平洋に於ては双方共非常な距離を距て、交戦してゐるに過ぎないが、既に濠洲並にニュージールランドの戦力は勿論海外に於ける米國戦力の大半を釘付にしてゐる。腕を伸して亞鈴を持ち続けることは兩軍にとつてなかなか大變な仕事で、一定の地點で兩軍が接觸した實際の回数だけで戦争を判断することは非常な間違ひである。大洋を距てて五千乃至六千哩の距離で戦争するのは非常な骨折りでである。差當り日本軍に對する戦争に於ては、英國の努力はインド戦線に局限され、アジア大陸に於てはビルマ公路を再開する作戦並に出來る限りの援助を重慶政權に與へることに限定されよう。蔣介石とは緊密に連絡してをり、更に米英兩國軍の代表が重慶に於て蔣介石と會談を遂げた。會談の結

果日本軍に對する作戰に就いて米英兩國並に重慶政權の間に完全な意見の一致を見たとの公報を數分間前に接受したところである。」

ビツアリツチ案討議で議會騒然

下院は、二月十五日から社會保險に關するビツアリツチ案(國際月報第二十五號一四五頁一四六頁参照)の審議を開始したが、十六日の下院において樞相ジョン・アンダーソンが同案に對する政府の態度を表明し、同案の即時實施は時期尚早である。」と聲明したところから、俄然議會の大問題と化し、即時實施を主張する議員の間に猛烈な政府攻撃運動が展開されるに至つた。事態の重大化に驚いた政府は十七日下院の討議に際し、蔵相キングスレー・ウッドをして同案に對する政府の方針を説明させ、「政府がビツアリツチ案の實施を促進するためあらゆる努力を拂つてゐることは勿論であるが、社會保險案は獨立した問題として扱ふわけにゆかない。住宅、

教育等同様、重大な問題が存在することも考慮しなければならぬ。」

と述べ、反對派をなだめようとしたが、ウッドの言明は益、彼等を激昂させる結果となり、主として労働黨議員からなる即時實施派はビツアリツチ案に對する政府の誠意を缺く態度を攻撃し、「政府の言明はビツアリツチ案を事實上葬り去つたに等しい」とか、「政府はビツアリツチ案の實施を考慮してゐないのだ」とか猛烈に政府を攻撃し、十七日の下院討議は深更に至つて漸く打切りとなるといふ有様であつた。ビツアリツチ案に對する討議は十八日も續行され、労働黨修正案は十八日の下院において、三百三十五票對百十九票を以て葬り去られたが、百十九票の反對投票は現内閣組閣以來最初のものである。右表決に際しては、労働黨議員百六十六名のうち二十餘名が缺席、二十名が棄権、九十七名が修正案を支持して絶對政府案に反對し、政府賛成の投票をしたのは同黨出身閣僚

以外二名にすぎなかつた。

尙、政府としては、國防の安全を第一とし、社會問題は出来るだけ敬遠したいとみられるが、ビツアリツチ案の早急立法を期待してゐた一般民衆の不滿失望は甚しい模様である。

労働黨共産黨の加盟申入拒絶

二月二十日ロンドン發ロイター電によれば、労働黨執行委員会は、同黨に對する共産黨の加盟申入(國際月報第二十五號一四六頁参照)に對し、共産黨が英國の政策に對し無責任なこと及び共産黨の一般的態度が労働黨の主義目的と合致しないことを理由として、これを拒絶した。

軍需關係婦人労働者八百六十七萬人

労働相アーネスト・ベヴィンは二月四日下院において「目下軍需方面の仕事に直接間接従事してゐる婦人の數は八百六十七萬人に達し、うち三百五十萬は既婚者

乃至十四歳以下の小兒を持つ寡婦である。」と聲明した。

労働罷業増加

商務省は二月六日一九四二年の英國に於ける労働者罷業はその件數一千二百八十二、罷業参加労働者數四十四萬五千、罷業による喪失労働日數は百五十三萬日に上つたと發表した。この數字は一九三七年以來最高のもので、例へば一九四一年及び四〇年の罷業による喪失労働日數は夫々百八萬日、九十四萬日となつてゐる。更に一九四二年の罷業は、その大部分が鑛業部門に於て發生したため英國の産業に特に深刻な打撃を與へたといはれる。

出生率低下

モリソン内相は、二月十四日、ノッティンガムにおける演説で出生率低下問題に言及し、「英國における出生率低下の傾向は、戰爭勃發以來特に甚しく、これは英國の將來に暗影を投げかける由々

しい問題である、英國が最高人口四千二百萬を維持するためには各家族の人数が現在より二割五分増さなければならぬ。」

對ソ援助 二%
其他(輸送問題、住宅問題、防空問題、對獨空襲、反種籍國內の連絡調整等) 一-%
回答なし 一-%

通商破壊への危惧深刻

二月中旬米國ギャラップ輿論調査所英國出張所が英國各界各層に對し「現在最も緊要な單一の問題は何と考へるか」との質問を出したところ、約三分の一は通商破壊戰による脅威を最大の問題と思考する旨回答した。回答内容左の通り

- 獨潜水艦による船舶喪失並に海外からの補給維持 三-%
- 歐洲大陸進攻、第二戰線 一-%
- 戰爭の終結、急速な勝利 六-%
- 男女人的資源の動員 六-%
- 食糧配給の確保 六-%
- 資源利用と生産増加 五-%
- アルジェー政局の收拾 五-%
- 戦後の再建と失業問題 四-%

印度各派代表三百名の決議に基き印度政治指導者會議議長サーテジ・サプルー等がガンジー翁即時無條件釋放を電請したのに對し、チャーチル英首相はこれを拒絶したが、二月二十四日公表された同首相回答電文の要旨は左の通りである。

「印度政廳は一九四二年八月ガンジー翁に會議派の領袖を逮捕するに決定した。その理由は既に十分説明され、よく諒解されてゐるところである。然も右決定を必要とした理由が依然存続してゐる。印度政廳並に英國政府の第一任務は印度の國土を防衛し反種籍聯合國の全般的な戰爭目的に關し、印度をしてその役割を果させることである。而も印度の情勢には未だ變りがある。」

ない。従つてガンジーが斷食によつて無條件釋放を確保しようとする企圖しても、英國政府並に印度政廳は以上の企圖によつて印度人並に反種籍聯合國に對する義務を閑却することは出来ない。今回の斷食に關する責任は全くガンジー自身に歸せらるべきであるが、同時にガンジーと會議派の他の領袖とを區別すべき理由も存在しない。」

ドイツ

スターリングラード戦闘終結發表

國防軍司令部は、二月三日午後、特別公報を以て、スターリングラード市防衛の戦闘が終結した旨を發表、併せて最後迄奮戦したパウルス元帥麾下ドイツ第六軍の英雄的敢闘を顯彰した。

ロストフ撤収發表

國防軍司令部は、二月十四日、ドイツ軍がロストフ

及びヴォロシロフグラードを組織的に撤退した旨發表した。

ハリコフ撤退發表

國防軍司令部は、二月十八日、ドイツ軍がハリコフの軍事施設を悉く破壊した後、秩序整然と同市を撤収した旨發表した。

宣傳相全國民の奮起要望

ゲッベルス宣傳相は、二月十八日、シュポルトプラストに於て開催された「東部戦線の危機並に總力戰に關する大會」席上ドイツ國民が今や存亡の關頭に立つてゐる旨を卒直に述べ、國民の奮起を要望した。

「余は現下の情勢に付き飾りのない眞實を傳へるやう指令を受けた。獨り指導層のみならず、ドイツ國民全體が余の報告から儼然たる結論を引出し、時局に善處することを要望する。如何にして事態がここに至つたかを問ふべき秋ではない。問責は將來の事に屬し、

その結果は全國民に公表されるであらう。スターリン
グラードはドイツ國民に對する一大警鐘であつた。三
週間以前國民諸君に對し余が演説した當時に東部戦線
に於ける危機は絶頂に達してゐたのであるが、スターリ
ングラード前線勇士の最後のラジオ放送に徴しても、
斯くの如き挫折に堪へ、且つ克服する力を持つてゐる
國民は絶對に不敗である。ドイツ國民諸君は今夕余が
何を言ふかに非常な關心をもつてゐると思ふ。過去數
週間ドイツ國民が當面した不運は宿命的な意義を持つ
てをり、獨軍將兵が東部戦線に於て示した偉大な英雄
的犠牲は歴史的な重要性を持つてゐる。彼等の犠牲は
無駄ではなかつた。ドイツ軍は東方に於て重大な軍事
上の敗退を経験してゐるが、歐洲の門に東方から襲來
する強大な力に對し、ドイツ軍と同盟軍とが唯一の防壁
を構成してゐるのである。一九四一年六月二十二日總
統がドイツ軍に對し東方進撃令を下した時、ドイツ國

民は今回の巨大な世界戦争の決行がここに始まつたこ
とを悟つたのである。更に危険と困難とは東部戦線の
展開に依つて決して減退せず、却つて増加したことを
承知してゐた。東方の情勢は將に重大危険の直前にあ
つた。ソヴェト政府の巧妙な偽裝とブラフとの結果、
ドイツ軍がボルシェヴィキの戦力を正しく評價してゐ
なかつたことは蓋し已むを得なかつたところである。
吾々はボルシェヴィキ戦力の全貌と老大な所以を今
初めて認識するに至つた。ここに獨りドイツ國のみな
らず歐洲大陸に對する脅威が存在し、この脅威こそは
從來歐洲が當面した一切の危険を完全に壓倒してゐ
る。吾々が今日までに建設し、確立したところは、現在
直接にはドイツ軍が、間接にはドイツ國民が當面する
巨人的な任務に較べるならば、全く問題にならない。
余は敢て全世界に告げたいが、

一、若しドイツ軍が東方に於けるボルシェヴィキの

脅威を克服することが出来ないならば、獨りドイ
ツ國のみならず、歐洲全土がボルシェヴィズムの
犠牲に供されるであらう。

一、ドイツ軍及びドイツ國民の同盟國以外この脅威
から歐洲を救済する者はない。

一、而もこの危険たるや極度に急迫してをり、速か
に且つ徹底的に對處しなければ、時期は既に遅れ
るであらう。

當初からボルシェヴィズムは、獨り歐洲のみならず
全世界に革命を起し、全世界をボルシェヴィキ的混沌
状態に陥れることを目的としてゐると公然宣言してゐ
る。ボルシェヴィズムの目的はユダヤ的世界革命であ
る。彼等はドイツ國內竝に歐洲に混沌状態を惹起し、
その結果各國民を絶望と自棄の状態に陥れ、斯くてボ
ルシェヴィズムの假面を纏つた資本主義の僭制を確立
することを企圖してゐる。萬一ボルシェヴィズムがド

イツ軍に對し勝利を収めても、ボルシェヴィズムがド
イツ國境線で停止するなどと考へてはいけない。ボル
シェヴィズムは世界各國竝に各國人をボルシェヴィキ
化する目的の下に侵略戦争を繼續するであらう。

クレムリンの紙上の宣言乃至米英兩國政府の保證な
どは取上げる値打がない。今や歐洲各國は死活の問題
に當面し、西洋は危険に當面してゐる。各國政府と各
國の知識階級がこの事實を認めると否とに拘らず、ドイ
ツ國民だけは絶對にこの危険に曝されることを好まな
いであらう。更に英國を始め歐洲各國が、歐洲大陸の
ボルシェヴィズムに對し、適當な時に、且つ效果的に對
處することが出来ると稱してゐるが、斯くの如きは全
く兒戯に等しい。世界最強の陸軍國がボルシェヴィズ
ムの脅威を打破出来ないならば、果して何人がこれを
打破出来るであらうか。歐洲の中立各國の如きはボル
シェヴィズムに對して抵抗する戦力も精神力も持ち合

せず、数日の間に赤軍機甲兵力の蹂躪するところとならう。最悪の事態が到来し、歐洲がボルシエヴィズムに屈服する場合に、米英兩國はどうするつもりであらうか。英國政府はボルシエヴィズムの脅威がドーヴァ海峡で停止すると考へてゐるのであらうか。ボルシエヴィズムは單に軍事的に國境線を劃定するばかりでなく、思想的に境界線を劃定することを例としてゐる。全世界は戦前の歐洲と樞軸の新秩序下における歐洲とを選擇出来るのではない。樞軸の軍事的保護下における歐洲とボルシエヴィズムの下における歐洲とを選擇するはなからである。

ソ聯邦におけるユダヤ人はボルシエヴィキの假面を被つてゐるが、アングロサクソン各國では巧に資本主義の偽裝を用ひてゐる。ドイツ國を飛び越えて、西歐洲の且つ一見文明開化のユダヤ人は、東方に於ける「ユダヤ町」のユダヤ人と握手してゐる。

歐洲に對する重大な危機がここに潜んでゐる。恐らく英國新聞界は、明日の紙上に於て、東部戦線の重荷に堪へ兼ね、余が最初の平和の探りを入れたと言ふであらう。然しドイツ國內には今日譯のわからない妥協を考へてゐる者は一人もゐない。全國民は一途に苛烈な戦争を考へてゐるだけである。然しながら歐洲大陸に於ける指導國家の責任あるスポークスマンとして、余は獨りドイツ國民のみならず歐洲の全大陸を脅威してゐる危機に對し注意を喚起する至上の権限を要求する。しかもこの危険は全く焦眉の間に迫つてゐる。西歐洲の民主主義が致命的脅威に對し全く麻痺状態に陥つてゐるのはまことに慨嘆に堪へない。ユダヤ人は國際文化の使徒であるかの如く裝つてゐるが、各國を崩壊させる惡魔に他ならない。各國が如何なる對策に出でるかには問はず、ドイツ國民はこのユダヤ人の脅威を根絶する方針であり、必要の場合極めて徹底的な手段に出

るであらう。東方に於ては現に無慈悲な戦争が續行されてゐる。ヒトラー總統は今度の戦争では勝者と敗者とはなく、生残つた者と全滅される者とに分けられると言つたが、ドイツ國民は今や戦争の最も重大な問題に當面してをり、この難關を克服するためにはあらゆる精力を傾倒しなければならぬ。ボルシエヴィズムの脅威に對し徒らに論議を弄ぶならばクレムリン宮の獨裁者の笑ひを招くのみであらう。ドイツ國民はボルシエヴィキの戦力が偉大なことを悟らず、左手で戦争を遂行しようとして企圖したが、その結果は不満足であつた。今や吾々は全力を傾注し、ドイツ國民の生命を確保するために、ドイツ國民の生命を賭する覺悟がなければならぬ。刻下の標語は即ち總力戦である。現在ドイツ國民の最も重大な任務は、國內に於て極めて峻嚴な手段を講じ、ヒトラー總統に對し豫備戦力を提供し、來るべき春季並に夏季に於て攻勢に出て、赤軍に決定的打撃

を與へることを企圖させることである。吾々は東方に於て新に攻勢をとらねばならない、吾々は依然國內に殘されてゐる國力を動員しなければならない。戦後に於てはドイツ國民の間に「共存共榮」の原則を復活するであらうが、戦時に於ては「共戦共戦」の原則が實施されなければならない。尤も劇場、映畫館、音楽堂等は依然公開され、ドイツ人の戦力並に軍事上重要な勞働力を保全し増強する施設は今後と雖も大いに奨励されるであらうが、以上の目的に反することは一切取止められなければならない。勿論ドイツ國民の生活水準を斯くして釘付けにしようといふのではなく、吾等の目標即ち全面的勝利を達成するための手段に他ならない。ドイツ國內の銀行、保險、新聞、雜誌等は勿論ナチス黨並に行政機關についても目下合同が實施され、恐らくドイツ國民は一層簡素な生活に慣れる他はなからうが、しかし、これ等一切の手段は非常時措置であ

る。反樞軸軍が歐洲大陸侵入を企圖する場合には、ドイツ軍が如何に邀撃するかに就いては米英兩國政府も十分覺悟して貰ひたい。ドイツ國民は來るべき夏季の戦を豫想し、一切の措置を組織的に講じてゐるのである。ドイツ國民は今や苛酷な眞理の前にヒトラー總統の命ずるところ欣然これに従ふ決心である。ドイツ國民は忠實且つ信頼すべき盟邦をもつてゐる。イタリア國民はフアシスト主義によつて一切の大試練に堪へる錬成を受けた。東亞に於ては勇敢な日本國民がアングロサクソンの戦力に對し、次から次と打撃を加へてゐる。世界の三大強國は同盟各國共に金權主義の僭制とボルシェヴィズムの脅威とに對して相携へて戦つてゐるのである。

諸君、諸君はこの瞬間に於てドイツ國民を代表してゐるが、余は諸君に對して左の十ヶ條の質問を提起するであらう。

- 一、最近英國人はドイツ國民が勝利に對する信念を失つたと稱してゐるが、諸君は總統並に吾々と共にドイツ國民の最終的且つ全面的勝利を信じてゐるか、情熱の如何に拘らず如何なる個人的犠牲をも辭せず、最後の勝利までヒトラー總統に従ふ決心を有つてゐるか。
- 二、英國人はドイツ國民が戦争に倦み疲れてゐるといふが、諸君は戦線の背後にあつて總統と共に最後の勝利まで斷乎戦ひ抜く決心であるか。
- 三、英國人はドイツ國民が政府の要求する追加的な軍事上の仕事を最早ややりたくないと言ふが、諸君並にドイツ國民は、ヒトラー總統の命令とあれば一日十時間十二時間、否必要とあれば十四時間、十六時間も働き、勝利のためにすべてを犠牲に供する決心ではないか。
- 四、英國人はドイツ國民が政府の命令する決戦體制に

反抗し、甚しきは總力戦を以つて降伏を希望してゐると言ふが、敢て問ふ、諸君は總力戦を希望してゐないか、否更に必要とあれば一層全面的且つ根本的な戦争施策を希望してゐるのではないか。

五、英國人はドイツ國民が總統に對して信頼を失つたといふ。然しながら總統に對する信頼は從前に比し一層確固不動となつてゐるではないか、諸君は絶對的且つ何等の制限なしに、總統の赴くところ何處にも従ひ、且つ最後の勝利を得るに必要とあれば何事をも忍ぶ覺悟ではないか。

六、諸君は爾今東部戦線に對し、ボルシェヴィズムに對し、致命的打撃を加ふるに必要な人員と器材とを供給するため諸君の全力を傾注する用意がないか。

七、勝利を確保するために必要な一切を東部戦線に提供すると嚴肅に發言する用意はないか。

八、諸君、殊に婦人諸君が男子の労働者を前線に出す

ために、ドイツ婦人が戦争努力に参畫するやうな措置を政府が策することを希望しないか。

九、戦争の眞最中に平時の遊戯に耽り、國民の必要を奇貨として私利を營む分子に對し、抜本的な措置を講ずることに諸君は同意しないか、戦争で金儲けする奴は首を失ふことに異議があるだらうか。

十、最後に諸君はナチス黨綱領に明示されてゐる通り、特に戦時に於て權利の平等と義務の均等との原則が實施されることを希望しないか、國內戦線も亦同時に戦争の重荷を擔ひ、然もこの負擔が地位の上下、貧富の區別なく、公平に全國民に行き渡ること

を諸君は希望しないか。
以上の質問に對し、諸君は回答してくれた。諸君はドイツ國民の態度を闡明されたのである。地上如何なる力をも以つてしようとも、ドイツ國民が目標とするところを遂行し、實現するを阻止出来る者があらうか、

吾々は前線の將兵並にヒトラー總統に對し、鐵桶水も洩らさぬ國內戰線を編成し、總統と前線將兵の信頼に背かないことをここに誓ふ。ドイツ國民は勝利を得るためにその他一切を無視しなければならぬ。これ現下の命令である。敢て誓ふ、ドイツ國民よ起つて旋風を捲き起せ。」

「全歐の精神的物質的總動員を斷行」

——ヒトラー總統立憲大會布告——

ヒトラー總統は、二月二十四日ミュンヘンの黨本部で開催された立憲記念大會に對し次の布告を傳達した。

「刻下の情勢に鑑み余は自身で諸君に演説することが出来ないので、黨領袖ヘルマン・エツサーに余の布告を代讀して貰ふことにした。ドイツ軍は、今冬、ニューヨーク並にロンドンの銀行家がモスクワに於けるボルシェヴィキのユダヤ人と合作を開始した世界的危険に對する苛烈な闘争に従事し、模範的な戰鬥精神を發揮

した。余は今日諸君と席を同うすることが出来ないが、余の思ひは從來にも増して諸君の上にある。

若し一九二〇年二月二十四日、國家社會主義革命の綱領がこの會堂で宣言されなかつたならば、ドイツ國民並に全歐洲の運命が今どうなつてゐたかは思ひ半ばに過ぎるものがあらう。右綱領はドイツ國民に氣合を掛け、その結果ドイツ國民は獨りユダヤ人の世界的危険を阻止するだけでなく、究極に於てこの危険を粉砕出来るであらう。諸君も御承知の通り、東部戰線に於て、赤軍は去年と同様自然力のお蔭で、夏の間に獨軍將兵が勇戰奮闘確保した戦果を幾分取戻すに至つた。諸君も成功に至る本黨の道程が決して安全でも容易でもないといふことを知つてをられるであらう。然しながら余が徒手空拳無名の黨員として十數ヶ年前以前に闘争を開始した當時に較ぶれば、今の戦ひは始んど言ふに足りない。

本黨は國內における敵の陰謀が阻止され清算されるまで戦ひ抜く不撓不屈の精神に燃えてゐるが、この熱烈な精神は實に諸君が我輩から學んだところである。請ふ安んぜよ、今日余の胸中には同じ熱烈な信念が從來よりも一層強く、一層激しく燃え立つてをり、しかも余が生きてゐる限りこの信念は斷じて余から離れないであらう。吾々はユダヤ人の世界的聯合の勢力を打破し、叩き潰すであらう。生命と自由と、毎日のパンのために戦つてゐる各國民は、今回の闘争においても必らずや最後の勝利者とならう。吾等が政權獲得のための闘争に従事してゐた當時においては、相手方が吾等に對して打撃を加へ、一見相手方が成功を収めるかに見える毎に、勝利への途を堅持する余の決心は愈よ強められるに至つた。

余は今日においても、最後の結着まで宿命によつて余に課せられた任務を果さうと同様な決心で一杯であ

る。神の恩寵が無ければ、あらゆる障害と陰謀とを押しつけて無名の士たる自分が政權を獲得することは考へられないから、余は今回の大業を成し遂げるやう神によつて宿命づけられてゐると信ずる権利があると思ふ。余は神の恩寵に依りドイツ國民と運命を共にする飽くまで忠實な僚友をもつてゐる。彼等は終始全幅的忠誠を誓つて余を助けて來たが、今や歴史的に重要な時局に際會して、彼等が余を支持するであらうことを信じて疑はない。諸君は獨り本黨の理念に賛同してくれたばかりでなく、それに即する態度を以て終始されてゐるが、この態度こそは最も困難な試練に際會しても絶對的な頼りとなるであらう。

今日ドイツ國民の巨人的な大衆は、一丸となつて新たなドイツ國を支持し、新たな國家觀念並に黨の理念を全面的に採入れたるに至つた。黨こそは獨り最後の勝利を保障するばかりでなく、ドイツ國民の將來を

防衛する徴動だもしない巨巖となるに至つた。恐らく今後數ヶ月乃至數ヶ年間に互り黨は第二の歴史的大業を達成しなければならぬであらう。即ち絶えずドイツ國民の志氣を作興し、ドイツ國民に對する異常な危険を指摘し、この危険を克服出来るドイツ人の力に對する神聖な信念を強め、心の弱い人々に力を與へ、競争勢力を阻害する徒輩を取除く仕事に従事しなければならぬであらう。黨は喜んで啓蒙運動に應ずる人々に對してはこれを啓蒙し、テロリズムを企圖する徒輩に對しては十倍のテロリズムを以てこれを粉碎し、反逆分子は、その何人たるを問はず一掃してしまはねばならない。黨運動の基ともいふべき青年諸君は、今やドイツ軍の將兵として前線に戦つてゐるが、黨の古い同志も亦火のやうな信念の下にドイツ國民の生存のために戦つてゐるのである。今後一年以内に黨の指導原則に基いて教育されたドイツ青年が古い同志の仲間

に加はるのであらうが、これらの青年諸君は自由への戦ひを阻害する徒輩に對し斷乎たる處置に出る決心において決して古い同志諸君に劣らないであらう。黨が政權獲得の闘争に従事してゐた當時において、その運動の最も信頼すべき支持者は女性並に少女諸君であつた。今日においても亦ドイツの女性はドイツ國民の生存のための戦ひにおいて最も力強い分子となるに至つた。

ドイツ軍が敗北した場合において、ドイツ國民が如何なる運命に陥るか、獨りロンドン並にニューヨークにおけるユダヤ人のみならず、モスクワにおけるユダヤ人が既に闡明したところであるが、吾等も亦同様明確な返答を與へるであらう。従つて今回の抗争は彼等の企圖するが如く、アリアン人種の滅亡に終らず、逆に歐洲におけるユダヤ人の根絶を以て終局を告げるであらう。加ふるに今回の抗争の結果、本黨の理念は

すべての人々の共同の財産となり、吾等現在の敵も亦この理念を採擇し、吾等に對して戦争を繼續しながらも、戦争を繼續してゆくために漸次黨の諸原則を採擇するの他なきに至るであらう。従つて今回の戦争によりユダヤ人の犯罪的諸活動が世界各國人の眼の前に曝け出されるであらう。

今回の戦争は全く國際的ユダヤ人の責任に歸せられなければならないが、彼等は結局全世界がユダヤ人の危険を全面的に確認するに至ることを知るであらう。今回の戦争で金權主義とボルシェヴィズムとが極めて近似してゐることが實證された。ドイツ國內において、吾々の抗争相手であつたと同様の同盟が、ニューヨークのユダヤ人銀行家、ロンドンのユダヤ人金權指導者並にクレムリンのユダヤ人の間に結成されるに至つた。ドイツ國內においてドイツ國民がユダヤ人を打倒したと同様に、戦局の進展と共に歐洲各國國民が騒起

し、彼等を全滅しようと狙つてゐる敵ユダヤ人に對して共同の戦ひを戦ふであらう。

ドイツ國內において黨が表面挫折したかに見えるごとくにユダヤ人は欣喜雀躍したが、全く同様に國際的ユダヤ人は今や彼等の最終的目標に到達出来さうだと喜んでゐる様子である。

然しながら彼等は必ずや最大の失望を経験するであらう。ドイツ國民は今や國內一切の力を動員し、如何なる戦争においても會つて見られなかつた限度にまで國力を活用しようとしてゐる。ドイツ國民が非常な犠牲を拂つてゐる際に當り、歐洲各國人に對しても、同様の犠牲を要請するであらう。盟邦各國との忠實な戦友關係を維持しながら、歐洲が數千年に亙る歴史において未だ會て見なかつた規模において、全歐洲の精神的、物資的總動員を斷行するであらう。歐洲の文明は獨りドイツ國のみならず全大陸存立の基礎であるが、

この文明を救済するためには斯の如き動員が絶対に必要なのである。ドイツ國民並に歐洲の將來は東部戦線において決定されるであらう。その結果は吾等の勝利でなければならず、必ずや吾等の勝利であらう。」

國防軍幹部昇進

軍團司令官

クライスト大將

軍團司令官

男爵 フォン・ワイヒス大將

軍司令官

ブツシエ大將

任元帥(各通)

以上二月一日附

獨航空隊司令官

フライヘン・フォン・リヒトホーフエン大將

任元帥

獨爆擊機隊司令官 リッター・フォン・グレイム中將

同 レールツェル中將

任大將

以上二月十六日附

機甲部隊總監任命

總統大本營は二月二十一日グ德里アン大將が獨軍機甲部隊總監に任命されヒトラー總統の直接指揮を受けることとなつた旨發表した。

尙グ德里アン大將は、總統の命令によつて直接戰爭部隊幹部を指揮出来る廣汎な權限を與へられてゐるが、東部戦線では戰車が次第に決定的な役割を持つに至つてゐるから、グ德里アン大將は、昨年秋ヘルター大將の後を受けて新任された戰車參謀總長ツァイツラー大將と並んで、一九四三年の作戰決定に重要な役割を果すと見られてゐる。グ德里アン大將は獨軍切つての戰車戰の權威である。

一、二月通商破壊戰戰果

國防軍當局は、二月二十七日、本年一月一日から二月二十六日までの間における獨潜水艦並に空軍の通商破壊

戰の戰果を次の通り發表した。

一、擊沈船舶總數、百六十二隻合計百六萬二千噸

内譯

潜水艦によるもの、百四十二隻合計九十三萬四千噸、

(一月中六十三隻合計四十萬八千噸、二月一日より

二十六日まで七十九隻合計五十二萬六千噸)

空軍によるもの、二十隻合計十二萬八千噸(一月中、十

八隻合計十一萬四千噸、二月一日より二十二日まで

二隻合計一萬四千噸)

國力總動員令布告

政府は、二月四日午後、フンク經濟相の名を以て國內總動員に關する要點左の如き法令を布告した。

一、平時においては當然存続を許される商工業も、専ら總力戰の遂行に役立たない以上、現在においては存続が許されず、ドイツ國の經濟生活から取除かれなければならない。

勝利を收めるまで、前線における戰闘、軍需工業、その他軍に對する補給に直接必要でない一切の事情は、もはや存続する權利を持たない。

一、以上の見地から、贅澤品、陶器、寶石、金銀器、切手並びにチョコレート類の販賣店、贅澤な洋服店は一切閉鎖する。

一、但し食料品、燃料乃至肥料に關する企業は閉鎖せず、家具類、骨董品、書籍、玩具の取扱店並びに煙草屋は一定の限度内において營業を許可する。

一、料理店、ホテル等の中軍需工業乃至民需の見地から絶対に必要でないもの及び、娛樂場、ナイト・クラブ、酒場等は例外なく閉鎖する。但しこれら營業の許可は戰後においてそのまゝ復活する。

一、大工その他細工人並びにその店舗は、軍需工業乃至民需の見地から是非共必要な場合以外は、仕事を中止せしめる。

一、銀行並びに保険業の統合整理は着々進捗してゐるが、今回の法令に基く遊休商工業の整理は三月十五日までに完了する見込である。

尙、フンク経済相は国力總動員に關する法令を公布すると同時に、四日午後、客國記者團と會見したが、法令に關する説明で、特に、

一、三月十五日までにドイツ國內の小賣商店十萬軒乃至十二萬軒が閉鎖されるだらう。

一、新法令に依り約三十萬の人間が直接戦争目的に動員される見込である。と述べた。

軍事上の旅行以外禁止

經濟省は決戦體制確立の見地から、二月十七日、次の省令を公布した。

「注文取り乃至織元との接觸を目的とする商人の旅行等の商用上の旅行は、ドイツ國民の全力を戦争遂行

に集中する方針と背反するから、今後一切禁止する。但し軍需工業に必要と解される場合には例外的に商用上の旅行を承認する。」

獨羅經濟協定調印

政府は、二月三日夜、次ぎの通り發表した。

「獨羅兩國經濟委員會は、ルーマニア首相イオン・アントネスコ、同副首相ミハイ・アントネスコとヒトラー總統との間に意見一致を見た原則に基き、一九四三年五月末を以て満期となる兩國間の貿易交通促進に關する具體的取極のため、ベルリンに於いて合同會議を開催した結果、兩國間の戦時經濟合作を更に強化する協定を締結、二日ドイツ代表クロデイウス公使とルーマニア經濟委員長ラズムリクとの間に調印を了した。」

リツベントロツプ外相訪伊

リツベントロツプ獨外相はヒトラー總統の命を受け

て、二月二十四日、ローマを訪問し、ムツソリーニ首相に總統の親書を手交し四次に互り重要會談を遂げた後、二十八日夜、ローマを出發歸國の途に就いた。

内外の情勢は前大戰より遙に有利

——ベオバハター紙論說要旨——

フェルキシヤ・ベオバハター紙は、二月二十六日、要旨左の如き論說を掲げ、前大戰及び今次大戰に於けるドイツ内外の情勢を比較検討し、勝利の確信を披瀝した。

「前大戰に於てドイツは幾度か勝利の寸前迄近附き乍ら遂に破れてしまつたが、この事實と敗戦の齎した苦い經驗は、今猶全ドイツ人の記憶に生々しい。従つて今次戦争では、一九一八年を繰返さない様に確固とした決意を持つてゐる。それにも拘らず敵側は前大戰の事實を引用して、ドイツは今回も亦初めは勝利を得るが、結局は敗れてしまふと宣傳してゐる。故に前大戰と今次戦争に於けるドイツの情勢を比較検討して見る。

一、軍事情勢

西部に於ては、前大戰當時、獨軍は北佛で進撃を阻止されフランスのごく一部を占領したに過ぎない。ベルギーも一部は猶敵の手中にあつて、全佛海岸及英佛海峡は完全に敵の自由な使用に委ねられ、アルサスに於ては、敵は一部ドイツの占領地内にすら侵入してゐた。オランダ、デンマーク、ノールウェイは中立を保持してゐたが、敵はこれら諸國から殆んど自由に、食料、軍需品の補給を得ると共に、之を對獨宣傳情報の基地として利用してゐた。これに反して、今日、獨軍は諾威から西班牙國境に至る全大西洋岸を確保して居り、且つ前大戰で最強の敵であつた佛軍は解消し、佛工業は獨逸の支配下にあつて、ドイツの軍需生産に貢獻してゐる。ドイツ潜水艦は前大戰當時は東海及北海の二、三港を利用し得るに過ぎなかつたにも拘らず敵を窮地に陥れた

て、二月二十四日、ローマを訪問し、ムツソリーニ首相に總統の親書を手交し四次に互り重要會談を遂げた後、二十八日夜、ローマを出發歸國の途に就いた。

「前大戰に於てドイツは幾度か勝利の寸前迄近附き乍ら遂に破れてしまつたが、この事實と敗戦の齎した苦い經驗は、今猶全ドイツ人の記憶に生々しい。従つて今次戦争では、一九一八年を繰返さない様に確固とした決意を持つてゐる。それにも拘らず敵側は前大戰の事實を引用して、ドイツは今回も亦初めは勝利を得るが、結局は敗れてしまふと宣傳してゐる。故に前大戰と今次戦争に於けるドイツの情勢を比較検討して見る。

が、現在は更に大きな技術的進歩をなして、その數量を増大した上に、歐洲全大西洋岸をその作戦基地に利用してゐる。南方では、曾て獨逸軍は伊太利國境で伊軍と戦ひ、全地中海は敵の作戦基地であつたが、今日伊軍は獨逸と共に各戰場で戦ひ佛海軍は存在しない。

フランス、イタリア、ギリシヤ、ブルガリアの地中海岸は獨逸の支配下にある。一九一八年ギリシヤは敵の手中にあつて、同盟軍は絶えずサロニカより側面を脅威され、その上ルーマニアが敵側にあつたが、今日、羅軍はドイツと共に戦つてゐるだけでなく、樞軸側は、その石油を使用して居る。又、前大戰當時、完全に敵の補給地域であつたアフリカで、獨逸軍は今日英米と戦つて、その兵力をこゝに拘束して居る。

東部に於ては、前大戰當時、ロシア軍は極めて勇

敢に攻撃して來て、現在の戦線より數百キロもドイツの國境に近い線まで漸く之を防いだ。一部はオーストリアに侵入して來た。ロシア崩壊後、獨逸の占領した地域は現在一年半の戦争で占領した地域に到底及ばない。更にフィンランド軍は、今日ドイツと共に勇敢に戦つてゐるが、一九一四年には大部分露軍に編入されてをり、フィンランド獨立後殘餘の一部がドイツ側に附いたのに過ぎない。日本は、前大戰當時には敵側に在つたが、今日はドイツの盟邦として赫々たる戦果を収め、嘗ては敵の全く自由に使用して居た重要資源を奪つて、且つ之等の地域を作戦基地として、米英の生命線を脅してゐる。そして米の殆んど全艦隊並に商船及空軍の大部分を太平洋に拘束すると共に世界の全海上で、獨逸の潜水艦戦に協力してゐる。印度では、英は日本の攻撃に備へて相當の兵力を保有せねばならず、濠洲の船舶兵員も又前大

に活動してゐるが、原料も同様であつて、特殊鋼その他不足のものに就ては、前大戰の経験によつて、既に屢々眞物に勝る代用品が發明された。

戰當時の如く歐洲戰場に協力することが出来ない。

二、經濟情勢

食糧については、前大戰では敵の有效な封鎖のため不足を來して、當初の貯藏量はユダヤ人のため忽ち不正に處分され、切符制度が遅れて施行されたため、配給量は漸減して、戦時下第三年目の冬は最も悲惨であつた。今次戦争では、卓越した指導の下に配給の公正を期すると共に、戦線及銃後の充分なる食糧を確保してゐる。第三年目の冬には特別追加配給さへ行はれた、更にソ聯の豊饒な農業地域の獲得によつて敵の封鎖を打破し食糧の自由を確立した。前大戰で英に送られたデンマークのバター、オランダのチーズ、ノールウェイの魚類、フランスの葡萄酒も、ドイツの前線兵士に運ばれてゐる。

工業に關しても、嘗て殆んど敵の支配下に在つた全歐洲の工業は、今や全能力を擧げて樞軸國のため

輸送状態が如何にドイツに有利になつたかは、敵側の状態を検討すれば極めて明である。現在敵側は近代戦が機械化した結果使用量の著しく増大した原料を、前大戰に比して遙かに長大な迂回航路を通過して多大の時間と多數の護衛船とを以て輸送しなければならぬ。しかも絶えず改良強化されるドイツ潜水艦及空軍の脅威に曝されてゐる。又、前大戰當時敵の使用した多數の歐洲補給基地は今やドイツ海空軍の作戦基地となつてゐる。尙、前大戰に於て、敵は實際上世界の全船腹を使用した。現在日伊兩國の船舶及獨逸諸國の有する大部分の船腹並にドイツはその手中にはなく、敵は殆んど自身の船腹のみで前大戰よりも遙かに増大した需要を充さなければ

に活動してゐるが、原料も同様であつて、特殊鋼その他不足のものに就ては、前大戰の経験によつて、既に屢々眞物に勝る代用品が發明された。

ならない。

三、最大の相違

前大戦當時との最大の相違は、ドイツの内政状態である。當時ドイツは政黨國家であつて、軍政指導の統一を缺いた上、最大の政黨であつた社會民主黨は、自ら反國家的政黨と稱して、プロレタリアの革命を準備し、遂に軍需工場労働者のストライキを自ら見るに至つた。又、中央黨は敵側と通じてをり、更に埃洪國皇帝は秘かに單獨媾和を圖つて、大に敵をして戦勝の自信を懐かしめた。そして、政黨と提携したユダヤ人及びフリーメーソンは、經濟界を始め凡ゆる方面に跳梁して、ドイツの敗戦を策したが、政府は無力弱體のため如何ともすることが出来ず、祖國から戦線に歸還する歸休兵の背義には反戦ビラが滿されてゐる状態であつた。之に反して今日のドイツは、ヒトラー總統指導の下に、軍政の完全なる

一致を見て、強力な指導の下に、戦勝獲得に全力を盡してをり、國民も又一致團結して敵の策動に乗ぜられる様なものは絶無である。

以上のことを考へれば、ドイツの勝利に對する確信が、確固たる事實に基くものであることが知れる。

イタリヤ

内閣改造

政府は、二月五日夜、内閣の改造を發表したが、新内閣の顔觸れは次の通りである。

- 首相 相 ベニト・ムツソリーニ
- 外 相(兼) ベニト・ムツソリーニ(新任)
- 内 相(兼) ベニト・ムツソリーニ
- 陸 相(兼) ベニト・ムツソリーニ
- 海 相(兼) ベニト・ムツソリーニ

空 相(兼)

ベニト・ムツソリーニ

法 相

アルフレート・ディマルナコ(新任)

文 相

カルロ・ピンキニ(新任)

公共事業相

セノーネ・ベニ(新任)

逓 相

ヴィントリオ・ナニ(新任)

組 合 相

カルロ・チメコ(新任)

文化宣傳相

ゲタノ・ボレヴェレリ(新任)

外國爲替相

オレステ・ボノミ(新任)

藏 相

パローネ・ギアコセ(新任)

農 相

ジュゼツペ・タツシーナリ(留任)

アフリカ相

アンテイリオ・テルソイ(留任)

尙、右に伴ひ軍需生産局は軍需生産省に昇格、同省大臣にはフアヴァ・グロッツサ大將が任命された。

チアノ前外相法王廳大使に就任

政府當局は、前外相ガレットツォ・チアノ伯が法王廳大使に任命された旨、二月七日發表した。

陸軍、農林、逓信次官更迭

政府は二月十二日午後陸軍、農林、逓信次官の更迭を次の如く發表した。

代 將 アントニオ・ソリツチエ

任陸軍次官

カルロ・フアフリイーギ

バタフオーラ侯

任農林次官(各通)

(通信關係) ギイセツペ・ボヴェレリ

(鐵道關係) ルキギ・スカルフイオツテイ

(貿易關係) ドメンチオ・アルチデアニ

任逓信次官(各通)

下院新委員長任命

政府は、二月十一日、左の如く組合會議下院立法委員會委員長の任命を發表した。

下院議員 スツイッチ

任爲替平衡委員長

下院議員 アスキニ

任貿易關稅法委員長

下院議員 コポリ・ジクリ

任伊領アフリカ委員長

徵用令

政府は、二月三日、戦時徵用令を公布したが、右徵用令によれば、十四才から七十才までの男子、十四才から六十才までの女子は徵用されることになった。但し神學校生徒、聖職者、家庭並に健康上の特別の事情ある場合は除外されるが、違反に對しては三百リラから懲役五年の刑が課せられることになつてゐる。

國際競技を禁止

イタリヤ・オリンピック委員會は、戦時一切の國際競技を禁止する旨、二月廿三日發表した。

對瑞通商協定調印

イタリヤ、スウェーデン兩國混合通商委員會は、豫てローマで、一九四三年度における兩國間の通商問題その他につき審議を行つてゐたが、二月五日イタリヤ側代表上院議員アメデオ・ジアニニおよび駐伊スウェーデン公使ハンズベック・フリイスとの間に新通商協定が調印された旨、二月六日政府より發表された。

駐西、土大使任命

政府は、二月二十七日、在外使臣の一部更迭を斷行、パオルツチ・デイ・カルボリをスペイン駐劄大使に、ラフ・アエル・グアグリリアをトルコ駐劄大使にそれぞれ任命した旨發表した。新スペイン駐劄大使カルボリは曾つて駐日公使館一等書記官として東京に駐在したことあり、一九二二年より一九二七年まで内閣書記官長の椅子にあつた。新トルコ駐劄大使グアグリリアはスペイン、ブラジル各大使を歴任、一九四二年から本年二月まで法王廳駐劄大使の任にあつた。

ソ 聯 邦

スターリングラード戰鬪終結發表

二月三日のソ聯各紙は、スターリングラード戰鬪終結に關する情報局特別發表、ドン戰線大本營代表ウオローノフ砲兵元帥のスターリン宛戰勝報告、右に對するスターリンの祝電等を掲げ、第一面全部を費して大々的に報道した。

ロストフ奪回

二月十五日のソ聯各紙は、一齊にロストフ奪回を報道、その意義を強調した。

ハリコフ奪回

ソ聯情報局二月十七日の發表によれば、赤軍は十六日ハリコフを奪回した。

ヴァーシレフスキー大將元帥に昇進

ソ聯最高會議幹部會は二月十六日附を以てヴァーシレフスキー軍大將を元帥に昇進せしめた。ヴァーシレフスキー新元帥は一九四〇年五月赤軍に將官の階級が設けられた當時少將にすぎなかつたが、戰功により去る十月中將に昇進、同月十四日國防人民委員部次長に任命され、更に一月十五日軍大將に進級したばかりで、赤軍異数の榮進である。

軍事委員會着米說否定

二月二十二日のソ聯各紙は、チモシエンコ元帥を委員長とする軍事委員會の着米說を正式に否定するタス通信を掲載した。

スターリン赤軍最高指揮官布告

二月二十三日第二十五回赤軍創設記念日に際し、スターリン最高指揮官は、同日命令第九十五號をもつて、赤軍對獨反攻の戰果を稱揚した後、左の如く全軍を激勵した。「赤軍の前には未だ強大な獨軍と奇烈な戰鬪とが待つ

ユー以下の残存佛艦隊を率ゐて米國に走つた札付きの叛將である。

銀行業績

フランス銀行は、二月上旬、株主總會を開催、昨事業年度の同行業績を左の如く發表した。(單位百萬フラン、括弧内は前年度)

總收	益	1,311 (1,111)
純	益	510 (445)
配	當	金 409

なほ總會席上同行總裁はフランス金融界當面の諸問題に關し次の如く強調した。

「フランスが再び海外よりの物資輸入を活潑に行ひ得るやうになり、通貨安定が必要となることは疑ひなし。現在フランスの銀行券流通高が膨脹してゐるといつても、これは各國共通の現象であるから、必ずしも直ちにフランス通貨情勢に決定的影響を與へるものと

はいへない。しかしフランス經濟界における投下資本の急増が通貨安定を危ふくする可能性はある。これについては何らか有効適切な對策が望ましい。フランス銀行自體においても、この事實を充分考慮し徒らに増資をすることなく、復興事業を續けて行く積りである。」

穀物供出狀況

政府は、昨年十二月十五日の法令を以て、穀物出廻り促進を目的とした各省共同委員會を設置したが、同委員會は二月二十四日ヴェイシーで會合を開催、現在迄に所定量の穀物供出に違反した事件百十五件に對し罰金總計二百萬フランを科した旨報告した。尙右の中には一人で卅七萬六千フランの罰金を支拂はせられた農民もある。

滿洲國

萬壽節御儀

二月六日第三十七回御誕辰を御迎へ遊ばされた

皇帝陛下には、この朝長くも建國神廟に御成り遊ばされ、嚴かな萬壽節祭御儀を執り行はせられた。

全滿省長會議

去る一月三十日より國務院講堂で開催された本年度第一次の全國省長會議は、二月一日午後、全日程を終了、農産物増産集荷を始め經濟、民生、治安等本年度國政運用上の諸問題につき多大の成果を収めて閉會した。

國軍參謀長會議

本年第一次の滿洲國軍參謀長會議は、二月二十三日、二十四日兩日に亘り、首都新京に於て開催された。

中華民國

全國軍事會議開催

第二次全國軍事會議は、二月十五日午前十時より國民政府大禮堂に於て開催、二月十三日の第三回全體會議を

以て六十餘件の提案事項を悉く可決、全議事を終了し、同日午後五時より閉會式を舉行、ここに國府參戰下初の軍事會議を終了した。

全國軍事會議汪主席訓示

汪軍事委員長は、二月十五日、第二次全國軍事會議の開會劈頭、大要左の如き訓示を行ひ、戰時に處すべき全軍將領の覺悟と奮起を促した。

「大東亞戰爭勃發するや、國府は直ちに友邦日本との同甘共苦を聲明し、われわれは此處に齊しく參戰した。このことは正に公明正大であつて、重慶政權が米英の走狗となり、東亞の同胞と戰ふのに比較すれば順逆の理自ら明かである。今後國府が國力民力を伸張し、これを東亞保衛に使用すればその効果は期して俟つべきものがあらう。昨年十二月二十二日余は東京に於て東條首相と會見し、東亞には十億の民衆がある、これは世界に於ける如何なる集團にもまさつてゐる。」

この集團を團結すれば大東亞戰爭最後の勝利は獲得され、大東亞共榮圈の確保は必定であると述べた。所謂團結とは東亞同胞を以て東亞の同志とし、各々その國を愛し、その隣邦を愛し、俱に東亞を愛することである。斯くの如き團結の力を以てせば、不可能なことは有り得ないのである。武裝同志は軍隊を前線に派遣し、友邦戰士の勞苦を分擔すると同時に自己の心力をつくさんことを主張する。この主張は非常に稱讃すべきである。しかし余は茲に切言する。即ち前線の責任はもとより重大であるが、後方の國家の軍隊たらんとすれば我々は地域の觀念を打破すべきである。これ建軍の正理であるのみならず且つ精兵の要諦であり、かくて我々は民衆との同甘共苦、同生共死を行ふ一方、我々の部隊同志が同甘共苦、同生共死を行ふ必要があり、斯くて始めて友邦と同甘共苦、同生共死することが出来、以て大東亞戰爭の勝利を獲得することが出来るのである。」

全國軍事會議宣言發表

國府第二次全國軍事會議は二月十七日閉會に當り左の宣言を發表した。
 「軍事委員會は、建軍の目的を以て、曾て民國三十年三月第一次軍事會議を招集し、内には國力の増進を圖り、外には友邦との提携に邁進し、中華復興、東亞保衛の使命を實踐せんことを期せり。大東亞戰爭開始以來、友邦日本はその陸海空軍の威力を振ひ、米英の東亞侵略勢力を掃蕩し、偉大なる戦果を獲得せり。ここに戦果の確保を圖り、戰爭目的を完遂するため今後益々奮闘せざるべからず。國民政府は時局の進展に鑑み、責任の重大なるを痛感し、遂に同甘共苦の精神より更に一步を進め、同生共死の決心を固め、一月九日參戰を布告し、友邦と共同の敵を打倒せんとするに至れり。軍事委員會の第二次全國軍事會議を招集せる所以もまたここに存す。全國陸海軍高級將領は一堂に會し、共に

參戰下において積極的に國府軍の實力を強化し、以て大東亞戰爭の後方治安を鞏固ならしめ、且つ訓練を強化し、裝備を充實し、以て前線に於て敵撃滅の責任を分擔すべき方途を協議せり。全軍は須らく勇猛精進、刻苦耐勞の精神を培ひ、命令を遵守し、職責を盡さば中國の自由平等獲得、東亞共榮圈の實現は期して待つべきものあり。茲に宣言す」

清鄉委員會副秘書長に唐生明中將

國民政府清鄉委員會副秘書長は二月二十五日の中政會議で一名の増員を決定、二十六日現清鄉委員會第三處長兼江蘇省保安司令唐生明中將が任命された。唐中將は唐生智の實弟である。

和平反共三角旗撤去

國民政府は、二月二日、今回の對米英宣戰を機とし、従來國旗上部に附して來た和平反共建國の黄色三角旗を二月五日を期して一律に取除くに決定した旨全國に通達

した。

參戰記念行事辦法公布

一月九日の國府の歴史的參戰の日を永く記念するため、毎月九日を參戰記念日に制定し、全國民の精神總動員を行つて戰時意識の昂揚を圖ることとなり、二月六日國民政府令を以て參戰記念行事辦法を公布、同日午後三時この旨宣傳部より發表した。

國府戰時經濟政策綱領

二月十三日午後國民政府宣傳部より發表された戰時經濟政策綱領の内容は次の通りである。

- 一、生産増加
- (イ) 農業技術の改善、水利の興收、荒地の開拓、測量等によつて戰時に必要な農産品の増産を圖る
- (ロ) 地下資源を開發して軍事工業の發展を圖る
- (ハ) 軍需及び主要なる民需工業に必要な原料、燃料を最も合理的な方法によつて供給する

(三) 適切な物價政策の下に農工生産者の収益を保證し、特に農産品の購買に關しては農産の再生産及び農産品と工業日用品との交換に特別の注意を拂ふ

(ハ) 一切の不必要な消費を排除する
(ニ) 定額配給を品種別に實施する

二、物價調節

(イ) 各種の物價を調整して物價相互間の合理的均衡を維持する

(イ) 通貨政策は生産力の増進と相關聯せしめてその安定を圖る

(ロ) 運輸機構を改善し一切の不必要な商品を排除する

(ロ) 金融機構を健全にし、金融力の逐次集中を圖り、以て經濟政策及びその他の部門との適合を期する

(ハ) 配給機構を改善して配給の圓滑化を圖り、適正な配給數量を確保して闇相場を根絶する

(ハ) 通貨安定の下に民衆の貯蓄を奨励し、買溜めの惡習を根絶する

(ニ) 生産者より消費者に至る段階を可及的に短縮し、中間者の不當利得を排除して物價の平衡を圖る

(ニ) 産業資金の貸出を促進し、生産を助長せしめるとともに、惡質投機を助長する貸出しを嚴重に取締る

(ホ) 法律をもつて投機及び買溜めを嚴重に取締る

(ホ) 資金の農村導入を奨励し、特に農村金融機構の回復を圖る

三、消費節約

(イ) 軍需と關係ある民需物資については代用品の製造、代用原料の獲得を奨励する

五、經濟機構の改造
(イ) 戦時經濟體制に適合せざる在來の經濟機構を調

(ロ) 各種高貴品、贅侈品の生産を制限または禁止す

(イ) 戦時經濟體制に適合せざる在來の經濟機構を調

整または改組する

中國青少年團總章公布

(ロ) 各種産業部門は生産より配給の各段階を可及的に統一して一貫的機構を組織し計畫的に運営する
(ハ) 各種の健全な産業機構は政府の指導監督下に團體的統制をなすことを得

國府の民衆總動員本部として、參戰を契機に一段と活潑な運動を展開した新國民運動促進委員會では、從來民衆運動の尖兵として活動してゐた中國青年團並に童子軍を更に強力な民衆運動の推進隊たらしむべく、今回これを統合して中國青少年團を創設したが、二月二十五日の中央政治委員會は中國青少年團總章を可決即日公布した。

(ニ) 各種の主要な産業は政府の指導監督下に團體的經營制度を實施することを得

敵産移管國府宣傳部發表

勳章制定

敵産移管國府宣傳部發表

國府は、二月二十五日の中央政治委員會に於て、國府還都後初の勳章を制定、三月三十日の國府還都三周年記念日を期して右勳章を頒發する案を附議可決した。同勳章の名稱は同光勳章と決定、階級は一級から九級に分れ、文武官に對し授與佩用を許可される。新制定勳章に冠せられた「同光」の文字は同心協力共進光明の意義を有し、參戰下國府の功勞者に對し授與される勳章の名稱に相應しいものである。

在華敵産の國府移管に關し、國府宣傳部は、二月八日、左の通り發表した。
「日本帝國政府は大東亞戰爭開始以來米英在華敵産を押收處理せるところ、今般大東亞戰爭完遂協力に關する日華共同宣言の趣旨に基づき、これら敵産の中既に整理の完了せる重要敵産合計一千餘件を正式に國民政府の管理に移し、その移管手續は本月八日完了せり。國民政府は日本帝國の厚意に對し深く感謝の意を表す



國府は駐滿大使の更迭を斷行し對滿外交機能の刷新を圖ると共に、更に滿洲國各地に領事館を新設することとなり、二月十六日の行政院會議で、滿洲國各地領事館設置案竝にこれに伴ふ經費支出概算案を可決、中央政治委員會の追認を求めたに決定した。新設領事館は奉天領事館、新京總領事館、營口領事館、大連外交部辦事處等である。

人事異動

李 文 濱

任政務參贊

胡 蘭 成

任全國經濟委員會特派委員

江 南 椿
李 家 駒
羅 君 強
陳 春 圃
何 炳 賢

任全國經濟委員會委員(各通)

以上二月三日附(第四回最高國防會議決定)

黃 香 谷 (銓敘部審查委員)

任全國經濟委員會委員

胡 敦 復 (復旦大學々長)

袁 履 登 (上海市商會々長)

同 越 然 (文壇人)

沈 嗣 良

任新國民運動促進委員會委員(各通)

以上二月十一日附(第五回最高國防會議決定)

外交部長兼全經當然委員

褚 民 誼

財政部次長兼全經委員

陳 之 碩

指定全國經濟委員會常務委員

華北政務委員會建設總署督辦

余 晉 餘

任壽塔黃河中牟決口委員會主任委員

王 修

任監察院審計部次長

夏 仲 明

以上二月十三日附(臨時最高國防會議決定)

任全國經濟委員會委員

以上二月十七日附

蘇 成 德

項 至 莊

高 冠 吾

沈 爾 喬

何 庭 流

陵 憲 文

特派清鄉委員會委員

特派全國經濟委員會委員

張 維 璽

特派第二方面軍副總司令

鄒 敬 芳

特任國民政府行政院政務參贊

以上二月二十五日附(中央政治會議決定)

朱深華北新委員長就任に關し

國府宣傳部發表

華北政務委員會王揖唐氏はこの程辭任したが、その後任には二月八日の最高國防會議に於て同委員會常務委員、朱深氏を起用するに決定、正式發令を見た。尙新民會會長は同人の兼任である。右に關し二月八日午後五時國民政府宣傳部より左の如く發表された。

「華北政務委員會委員長王揖唐氏は先般來辭意を表明しありたるを、汪主席は同氏の驕意困難なるを認め、華北政務委員會の改組を決意し、特に朱深氏の

來京を求め、朱氏は昨日朝南京に到着、直ちに主席に
謁見、主席は朱氏を華北政務委員會委員長に任命し、
且つ華北の近況について詳細に聴取し適宜なる拘示を
與へたり。

なほ朱氏は命を受けたる後本日空路北京に歸着せ
り。

朱深新委員長略歴

朱深華北新委員長は、河北省永清縣の人、本年六十五
歳、一高、東大法學部出身の日本留學生で、民國元年京
師檢察廳長代理を振り出しに同四年大理院檢察廳長とな
り、七年段祺瑞内閣に司法總長となつた。この間民國の
司法制度は多く氏の立案起草になり、中國法律界の最高
峰といはれた。

次いで八年内務總長を兼ね、十年には靳雲鵬内閣互換
の後を繼いで國務總理となつたが、安福派の没落と共に
天津に蟄伏し、第二奉直戦後、民國十四年段祺瑞執政政府

の下に京師檢察廳監に任ぜられて敏腕を揮つたのを最後
に、政界を退いて實業界に投じた。

支那事變勃發直後臨時政府が成立するや、先輩王克敏
氏を援けて司法部總長に就任、和平反共建國に盡力、民
國二十九年(昭和十五年)三月華北政務委員會が成立して
司法部が廢せられたので、常務委員となり、政務廳長を
兼務したが、同年六月辭任して華北電業總裁となり、今
日に及んだ。

朱委員長の施政方針發表

華北政務委員會新委員長に就任した朱深氏は二月八日
午後五時要旨次の如き宣言を發表、今後の施政方針を示
した。

一、我が國は既に交戦國の一員たる以上戦争は自己のこ
とであつて、我々華北が新興中國における責任の最高
なるものを負荷することに思を致し、各々その責任を
つくし同心協力自ら努むる事と致したい。

二、華北は事變以來治安未だ強化せられたとはいへない。

今後華北における治安並に政治の進歩は、參戰體制に應
じ、自發的に積極的努力を爲さなければならぬ。目前最
も重要なのは産業の開發であるが、民食問題は焦眉の急
であつて、これが萬全を期するため、物價、運輸その他各
種問題について友邦日本の協力を期待すべ次第である。
三、經濟問題は戦争遂行上の先決問題である。華北は國
防上必要な資源が極めて豊富であるが故に、日本とと
もに第一線に起つた意義を感得し、その供給を確保す
るやう努力すべきである。

四、人材主義は政治の基本であつて、余の夙に實踐せると
ころ、人を責めるに先だち己を責めるの精神を以て、率
先垂範、もつて吏道の刷新を行はんとするものである。

華北政務委員會新陣容發表

華北政務委員會委員長更迭に伴ふ同委員會首脳部の新
陣容は、二月八日、左の如く決定發表された。

委員長

朱深

常務委員兼財務總署督辦

汪時璟

常務委員兼治安總署督辦

齊燮元

常務委員兼教育總署督辦

蘇體仁(新)

常務委員兼實業總署督辦

王陰泰

常務委員兼建設總署督辦

余晉齋

内務總署督辦

齊燮元

(兼、新)

華北綏靖軍司令

齊燮元(兼)

政務廳廳長

張仲直(新)

なほ前委員長王揖唐氏は同日國民政府委員に、また北京
特別市長には華北電々理事劉玉書氏が夫々任命された。

重慶政權

何應欽反樞軸軍將領會議に出席

米英代表と對日作戰協議

華北政務委員會新陣容發表

陣容は、二月八日、左の如く決定發表された。

何應欽參謀總長は、重慶訪問のルーズヴェルト米大統領代表アーノルド陸軍航空部隊司令官及びチャーチル英首相代表デル元帥等と同道して、二月七日、印度に向ひ、同十一日、ニューデリーに於てアーノルド、デル、スチルウェル及びウエーヴェル英印度軍司令官等より成る反樞軸軍將領會議に出席、對日作戰につき協議をとげた。

皇軍の廣州灣進駐に狼狽

今次日佛協定に基く皇軍の廣州灣進駐に狼狽した重慶政權は、二月二十四日、フランス政府に對し要旨左の如き抗議文を提出した。

「廣州灣の主權は飽くまで中國側にあり、重慶政權は佛政府に對し必要な措置をとる權利を保留するものである。」

顧維鈞夫人重慶援助を哀訴

滯米中の駐英重慶大使顧維鈞夫人は、二月二日、フィ

ラデルフィアで一場の演説を行ひ、米國の對蔣援助の積極化を哀訴して次の如く述べた。

「反樞軸諸國が、約束した食糧、武器其他援助物資を送つてくれない爲、われ／＼は苦境に陥つてゐる。若しも重慶政權が不幸にして敗戦すれば、これは重慶の軍隊が戦争を恐れた爲ではなく、反樞軸諸國の援助がない爲に、重慶の民衆が傳染病の犠牲となり、餓死に頻し、更に前途への希望を失つた爲であることを知つて戴きたい。」

魏道明駐米大使援蔣積極化要望

駐米大使魏道明は、二月三日、ニューヨークに於て演説を行ひ、米國の對蔣援助の積極化を要望して、次の如く述べた。

「重慶政權は反樞軸諸國が東亞戰域に於て日本軍に對し軍事的反撃を開始することを切望してゐる。今次の世界全體戰に於ては、獨伊兩國を撃碎すると同様に

日本を撃破することが重要である。今や世界の戰局は反樞軸側にとつて有利に展開し始めた。我々は確信を以て戰局の好轉を期待し得るのであり、完全な勝利を確保するまで戦ひ抜く自信を益々強めてゐるのである。このためには米の對蔣援助が急務である。」

宋美齡米國朝野に武器援助囑願

訪米中の宋美齡は、二月十七日夜、ニューヨークからワシントンに到着、白雲館に賓客として滞在することとなつたが、十八日午後零時十五分から上下兩院合同會議に臨み、重慶への武器及び飛行機援助を哀訴し、翌十九日には、ルーズヴェルト大統領と共同で記者團會見を行ひ、同様の趣旨を繰返した。(詳細は國際時報中「重慶政權の窮狀と對米英不滿」参照)

宋美齡引續き重慶援助泣訴

宋美齡は、二月二十四日、ルーズヴェルト大統領夫人と共に記者團と會見、重慶に對する援助促進強化をまたま

た泣訴したといはれる。宋美齡の言明要旨次の通り

「重慶は現在飛行機その他各種兵器を特に必要としてゐる。輕兵器は重慶自身の手でどうやら生産出来るが、重兵器は米國から援助を仰がねばどうしてもやつてゆけない。重慶は反樞軸國共同の敵と戦つてゐるのだから、援助は要請しても、物乞でもしてゐるやうな卑屈な氣持にはなつてゐないが、援助に對しては感謝するに吝かでない。重慶の民衆は、その未來のみならず人類全體の未來が危殆に瀕してゐることを深く自覺し、恐るべき困難と辛苦をよく堪へ忍んでゐる。」

宋子文對重慶飛行機供給を力説

宋子文外交部長は、二月二十二日、ワシントンに到着、同二十五日、ハル國務長官並にウエルズ國務次官と會見した後、記者團會見を行ひ、重慶に對する飛行機供給の急務であることを力説した。

遣米軍事使節熊式輝一行訪英



米國の冷遇に憤慨した遺米軍事使節熊式輝一行は、二月十三日、ルーズヴェルト大統領に離米の挨拶を行ひ、同十八日、オッタワに於てカナダ首相マッケンジー・キング等と會見した後、空路英國に向ひ、同二十二日ロンドン着、二十三、四日の兩日に互り、イーデン外相、グリック陸相、アレキサンダー海相、シンクレア空相等軍關係關係と會見、更に廿四日夜は陸軍省主催の歡迎會に出席した。

熊式輝對米英不滿吐露

重慶軍事使節熊式輝は二月二十五日英國情報省の共同會見に出席、一記者が、

「ワシントン訪問の結果に満足して居るか。」と質問したのに對し、

「最後の勝利を得るまでは満足などはあり得ない。」と述べ、更に

「戦前重慶はソ聯其他から供給を受けて相當の空軍

を持つてゐたが、その後空軍勢力は低下の一途を辿つて居る、尤も重慶政權が絶えず飛行機の供給と空軍人員の訓練に留意して來た結果、現在では若干の人員を保有し、飛行機の支給あり次第直ちに活動出来る状態である。」

と飛行機不足を嘆じ、次いで日本の戦力に付き次の通り強調した。

「反樞軸國が日本軍を打倒するのは極めて困難で、而も長期に互る戦闘を必要とするであらう。日本の國力は物的人的の兩資源は、勿論財政の部面でも逐次増強されてゐる。日本は南方占領の結果非常に有利な地位を獲得し、以前よりも多くの資源を保有するに至つた。そして占領地の人的資源の活用は全力を盡して居り、戦力の衰へる様子は些かもない。更に日本軍の士氣は相次ぐ戦果の結果少しも低下の傾向を示してゐない。」

此處で記者團から

「南方における日本の地位は未だ強固とは見られないから、歐洲戦争終了後、米英兩軍が壓倒的に優勢な空軍を以て日本々土を攻撃することも出来ようではないか。」

と質問したのに對し、熊式輝は猛然反對し次のやうに述べた。

「先づ第一に諸君は日本が占領地において徵用する勞働力を強制労働と考へるかも知れないが、南方の住民は必ずしも非常に高度の智性を有せず、而も日本の宣傳は行き届いてをり、「アジア人のアジア」「抑壓民族の解放」等のスローガンの影響は輕視出来ない。従つて南方移民は必ずしも諸君と同一の見解を有するとはいへない。次に艦隊と協力の下に空軍を派遣し、日本の心臓部に一撃を加へるといふ考は着想としては仲々よさそうに聞えるが、日本は既に絶好の戦略的要地を多數占領して居り、これらの要地を「撃沈」することは

不可能である。一方反樞軸は恐らく航空母艦を使用する外はあるまいが、航空母艦は「不沈」とはいへない。最後に熊式輝は印度問題まで取上げ、

「重慶としては現下の印度情勢を遺憾とせざるを得ない。英國政府が至急印度問題を満足に解決する様希望する。」

と英國に苦言を與へた。

傳乘常駐ソ大使赴任

新任駐ソ大使傳乘常は、二月六日午前十一時重慶發空路赴任の途に就いた。

文化使節團着印

教育部次長顧毓琇を主班とする重慶文化使節團一行は、二月二十四日夜、重慶からカルカッタに到着した。

タイ國

特別議會停會のまゝ終了



タイ國人民會議議長は、二月十五日午後二時、特別緊急議會を召集したが、翌十六日、タイ國最高軍司令官ビブン元帥の命令により追つて通告あるまで停會を命ぜられ、更に二十五日、勅令をもつて、右特別議會の會期は二十五日をもつて終了した旨發表された。

新首都見取圖完成

政府は豫て現在の首都バンコックよりサラブリー(アユタヤ北方九十キロ)に遷都計畫を進め、首都建設委員會において案を練つてゐたが、この程専門家によつてその見取圖が完成された。この見取圖によると、新首都敷地は約一千四百餘方キロ、東京市の約二倍半に相當する廣大なもので、市街は中央に議事堂、首相官邸、各省建物等を建築、商業地區南部に大運動場公園を置き、全市を棋盤目に區切り、更に中央廣場からは四本の放射狀道路を作り、理想的近代都市計畫の粹を集めたものであるが、完成は十九年乃至二十年後である。

籾米最高價格決定

物價統制委員會は、二月九日、バンコック及びトンブリ地區の籾米の最高價格を一クワイエン(二六・八擔)當り九十バーツと定める旨發表した。なほ現在の籾米市價は上級品で八十六バーツ乃至九十一バーツを唱へてゐるので今回の最高價格は大體妥當なものと考へられてゐる。

製紙業統制法を公布

政府は、二月十日附官報をもつて、製紙業統制法を公布製紙業を官營とすると共に、左の如く輸出入を統制し、割當制を實施することとした。
一、商業、工業兩省代表者を含む五名の委員より成る製紙業統制委員會を設置す。
一、右委員會は紙類の製造販賣及び輸出入を統制し、紙類の割當制の實施、公定價格の設定並に輸出入に關する規定を定む。

一、製紙業はすべて官營とす。但し特殊の家内製紙業はこれを認む。

一、製紙用原料の輸出を禁止す。

一、紙類の輸入はすべて許可制とす。

一、バンコック及びトンブリ地區における紙類所有者はその在荷高を申告すべし。

今回の泰國政府の措置は、泰國內に於ける最近の紙不足を緩和するため、増産と必需方面への圓滑なる供給とを狙つたものとみられる。

比 島

「解放者日本に最大の協力を捧げよ」

—— ヴアルガス行政長官檄文發表 ——

ヴアルガス比島行政長官は、二月二十六日、全比島人に次の如き檄文を發し、獨立自由の榮譽を獲得するため

には一致團結が先決問題であり、而して治安確立を速かに實現、挺身對日協力すべきであると述べ、多大の感銘を與へた。檄文内容は次の如くである。

「比島民諸君、獨立はまさに比島民の掌中にある。西洋の支配より東洋を解放せんとして征戰に輝かしき戰捷を得、正にこの目的に到達せんとする大日本は、その崇高なる義舉に基き、比島民に對し獨立の榮譽と恩典の附與を約せり。

大日本は、比島に對し朋友として且保護者として、誠意をもつてこの寛大にして比類なき獨立の附與を嚴肅に誓約せり。惟ふに比島民に對する大日本の友誼は傳統的なり。古くは十六世紀の昔において、日本の武士は比島をスペインの政治的羈絆より脱せしむるため、比島民と共に起つて劍を取り、また比島革命當時においては、日本の武勇なる兵は比島民の戰友とともに比島解放のためその生命を捧げたり。又大日本帝國政府

は、大東亞戦争後において比島に對して何ら領土的野心を懷かざることを卒直に言明し、また開戦とともに大日本軍はマニラ占領の際これを再び確認し、以て大日本軍の比島進駐は、「アジア人のアジア」及び「比島人の比島建設」なる、大使命遂行のためなる所以を明かにせり。右保證は、比島における大日本軍の最高代表者たる軍司令官及び軍政監の再三聲明せるところに於て、その高邁なる使命に忠實なる大日本は、更に百尺竿頭一步を進め、東條首相をして各年一月十一日帝國議會において「フイリツピンの民衆にして帝國の眞意を諒解し、大東亞共榮圈建設の一翼として協力し來る場合においては、帝國は欣然として彼等に獨立の榮譽を與ふべし」と聲明せしめたり。大日本の嚴肅なるこの聲明は、東洋における被征服民族及び壓迫民族全體に對し新らしき希望をもたらしたるが、東條首相は一年後の昭和十八年一月二十八日帝國議會において

「今や比島においては新らしき指導者ヴァルガス長官のもとに帝國に對する協力の誠意大いに見るべきものがあり、また治安の回復も逐次向上しつつあることは誠に頼もしき限りである。私は比島の獨立が成るべく速かなる時期において實現せんことを衷心より期待するものである」と重ねてこれを聲明せり。比島民が自由獨立達成のため鐵石の決意を有することは、今更喋々の要なきも、自由及び獨立の前途に横はる凡ゆる障礙を悉く破壊するため全力を傾注するに非ざる限り、比島民たるの榮譽と、祖國の英傑がその生命を犠牲に供せる自由獨立とを享受するに値ひせざるものといはざるべからず。この秋に當り比島民としての先決問題は一致團結なり。比島民はいづれも共通の大目的と共通の運命を有す。今なほ山中に隱遁する米比軍殘存兵による有害無益の反抗は一刻も速かにこれを放棄し、比島民の眞の解放者に對し最大の協力を捧ぐべき

なり。比島の平和と福祉と繁榮とは山間僻地の逃避生活にあらざりして、生産的通常生活にあることを確信し、速かに平時に復歸すべきなり。敢て問ふ、率直に誠意を以て而も勇敢に比島民解放のため努力を如實に示せる大日本に對し何故に敵對行爲を繼續するの要ありや。比島民を被征服民として取扱ひ、比島將兵を戦争終了に至るまで俘虜として收容し、比島を荒廢せしむることは戰勝國としてなしうることなるも、大日本はこれをなさざりしのみならず、當初より軍政監部の懸命なる指導のもとに比島民をして行政に關與せしめ、比島人俘虜を釋放し、戦争による破壊を修復し、規律遵法の念を教示し、その民族的覺醒の念を鼓吹し、理論と實行を以て民族的保全の眞意を教示せり。かかるが故に比島が米英の政治的支配と經濟的搾取より解放せられ、獨立の榮譽を獲得することは、積極的且全面的對日協力によつてのみ實現の可能性あり。故に吾人

は、全比島民に對し、比島再建の大業達成と完全なる治安確立のため、各々率先挺身協力すべきことを衷心より希望するものにして、これ以上の苦難と流血の慘と破壊を避け、以て比島を再建設し、過去の傷痕より回復せしむべきなり。可及的速かなる時期において比島民最高の希望たる自由と獨立の實現はかくしてのみ成就し得るものなることを深く銘記すべきなり。」

第三回地方長官會議

——マニラ市長新比島建設決意披露——

中央政府召集の第三回地方長官會議は、二月二十日午前九時より舊議事堂において開催、多大の成果を收めて同二十五日閉會したが、その最終日に當り、ギント、マニラ市長は、州知事、市長、警察官を代表して新比島建設の決意を披露した。

ビ ル マ

パーモ長官東條首相へ禮電

巽に東條首相よりパーモ長官あて懇信に發し、今般また贈物を寄せたのに對し、パーモ長官は二月十七日左の如き要旨の禮電を發した官行政府宣傳局長より發表があつた。

「今回結構なる御惠贈品を辱ふし閣下に對し心から御禮申上げます。右は閣下の目頃抱懐せらるるビルマに對する御厚意を表徴するものとして謹んで拜受致します。昨秋は特に御懇信を賜はり、いままたこの御厚意に接することこそは、戰爭遂行中は勿論戦後における新秩序確立後と雖も、吾々は貴國と一體となつて進まんとする決意を一層強固ならしむることを確信します。なほこの機會に本年中にビルマの建國を認めらるるとの御聲明に對し、重ねて閣下に深甚なる感謝の意を表すると共に、わがビルマが全力をあげて今次戰爭目的完遂に協力するは勿論、戦後と雖も日本と生死を

共にする覺悟をもつてゐることをこゝにお傳へ申上げます。終りに閣下の本官及びビルマ民衆に對する御信頼に必ず副はんことを期する次第であります。」

「光榮ある使命を分擔邁進」

——パーモ夫人ビルマ女性を激勵——

行政長官パーモ博士夫人キン・マ・モ女史は、二四日夜、全ビルマ女性に左の如き激動放送を行つた。

「ビルマがおそくとも本年中に獨立を與へられると聞いた私はこみあげる涙と共に數々の過去の想出が甦つてきました。それは私が夫やその他獨立獲得の闘士たちと共に戦ひ抜いてきた數年間の過去の想出です。その當時私が流した涙は悲しみと絶望の涙、憤怒の熱涙でしたが、今度は喜びの涙、苦難ののちの平和な靜かな涙でした。ビルマの女性たちも私と同様に戦ひ苦しんできましたが、當時私には特別な重荷が與へられたのです。」

それは私の夫が囚はれの身となつた時、後に殘された仕事を遂行するといふ大きな責任でした。私と少數の指導者たちは、結果はどうならうとも、夫の殘した仕事を斷乎として續行しやうと誓つたのでした。そしてその仕事を遂行するために、凡ゆる黨派の人々、僧侶たちとも一體となつて働き、最後まで重荷を分つてきました。私の夫が捕はれた直後、その獨立運動を繼續いで立派にやつてゆこうと思ひ、日本へ行かうとした事もありましたが、よく／＼考へた末、私は夫や同志たちの活躍した祖國ビルマに踏み止まることになつたのです。その後ビルマも戰場となり、私達は夫を英國の手から救ひ出し、英軍及び英官憲の手から護らうと努力しました。數週間ジャングルに潜み、山にかくれ、いとしい子供たちさへも更に大きな使命のために見捨てなければならなかつたのです。

私はいまこの想出が永遠の過去のことになつてしま

つた事に限りない感謝の念を禁じ得ません。そして日本帝國が今度ビルマに約束された獨立の榮譽に對し、私は身の幸福と感識の念を表はす適當な言葉を知りません。ビルマ獨立のために戦ふ女性は勿論私一人ではありません。私と同じやうに獨立のために苦しむ戦ひつづけてきたビルマの妻、母、娘があることを知つてゐます。ビルマの男性が民族解放のために血と汗を祖國ビルマに捧げたやうに女性も同じく涙と汗を捧げて來たのです。あの偉大な闘争のためにビルマは男も女も一體となつて奮進したのでした。そして今や勝利が訪れたのです。われ／＼ビルマ人はこれを祝福しないで何を祝福することがありません。しかしわたしたちは立ち停つてゐるはなりません。私はこのことを特に女性のかたがたに申上げたいのです。われ／＼はいまだ目的地に達したではありません。道はまだ／＼遠いのです。夫は申しました。「われ／＼はあくまでこの戦

争を勝ち抜かなければならない。われは新秩序を建設するために努力を続けなければならない。われは血と汗を以て獨立を約束されたビルマを守らなければならない。この偉大な努力を男も女もその持場と方法によつて分擔すべきです。今後とも男性は血と汗を捧げ続けねばならぬように、われも女性も涙と汗を捧げ続けねばならないのです。私は最後に全ビルマの女性のかたがたに聲を大きくして繰り返します。戦はこれからです。腰のバンドをしつかり締めて最後まで光榮ある使命を相ともに擔つて進まうではありませんか。」

印度

ガンジー翁斷食開始

ブーナ幽閉中の國民會議派長老ガンジー翁は、二月九

日、二十一日間の斷食を開始し、無條件で釋放されない限り斷食を中止しない旨リンスゴー印度總督に通告した。

ガンジー翁無條件釋放動議可決

——ボンベイ、ベンガル兩州立法會議——
ボンベイ州及びベンガル州立法會議は、二月十二日、ガンジー翁の即時無條件釋放動議を可決、直ちにその旨印度政廳に通電した。

印度政廳ガンジー翁釋放を拒否

マックスウェル内務長官は、二月十五日の印度中央立法議會に於て、多數議員のガンジー無條件釋放要求に對し、印度政廳を代表してガンジーは叛逆者であるから國民としての權利を主張し得ないと述べ、これを拒否した。

三閣僚辭任

印度政廳は、二月十七日、午後次の通り發表した。
「印度行政參事會の軍需長官ホームズ、ペロシヤウ・モデー、商務長官ナリニランジヤン・サルケル並

に中央立法會議議長マホ・シユリハリ・アネイは今回辭表を提出し、總督はこれを受理した。」

印度各派代表釋放要求決議

——チャーチル英首相宛打電——

印度各派代表三百名より成る印度政治指導者會議は、二月二十一日からボンベイに開催され、ガンジー翁即時無條件釋放要求決議を採擇したが、同會議議長サーテジ・サブール(印度自由聯盟總裁)は同會議決定に基き、ガンジー翁釋放をチャーチル首相に電請した。

しかしチャーチルは右要請を峻拒した。(チャーチル回答は各國動向英國の部参照)。

ガンジー翁容態

ガンジー翁が斷食を開始して以來の容態は二月十五、十六日と逐次悪化し、十八日に至り尿毒症併發の徴候を發し、二十一日午後四時危険状態に陥つたが、二十一日に至り幾分回復し、其後小康を続け、二十八日の症状は

改復を示し、充分休養をとつて元氣であつた。ガンジー翁の末子デヴィダス氏は二十八日次の聲明を發表した。

「父ガンジーはだんだん弱つてはゐるが、非常に落着いて、口も利かず、冥想に耽つてゐる。皆さんと共に神の慈悲で斷食の残りの期間を無事終了する様お祈りしたいと思ふ。父の健康については斷食終了後も充分警戒せねばならず、回復の期間は相當長いことと思はれる。」

明年度歳出二五億ルピー

レーズマン財務長官は、二月二十六日、インド中央立法會議に對し一九四三—四四會計年度豫算案を提出したが、その内容は次の如くである。

歳出總額 二五億五九〇萬ルピー (英貨一億九四六九萬二五〇九磅)

歳入總額 (現行税率による) 一九億九三〇〇萬ルピー (英貨一億四九四七萬五〇〇磅)

差引赤字 六億〇二九〇萬ルビー(英貨四五二二萬七
五〇〇磅)

尙、この中、國防費は一億五千萬磅に達すると傳へら
れる。

印度及セイロン島ゴム年産額

二月十七日附ステーツマン紙の報道によれば、セイロ
ン島のゴム年産額は十萬二千噸、印度のゴム年産額は一
萬六千噸であるが、採取強化により前者は三萬噸、後者
は二千五百噸の増産が可能の由である。

濠洲

民軍遣外案成立

民軍遣外案を繞つて論議を重ねてゐた濠洲下院は、二
月十一日、派遣區域を擴大せんとする修正案を六十五票
對十三票で否決、政府原案を通過、上院に回附したが、

然し上院に於ても、統一濠洲黨上院議員クロフォードが
派遣地域擴大に關する修正案を撤回したため、十八日政
府原案通り上院も通過、茲に正式に成立をみた。同法案
は全文五ヶ條より成つてゐるが、論争の焦點となつた派
遣區域は、ニューギニア、チモール、及び北ソロモン若
干の島嶼を含むのみで、比島は勿論、東印度諸島の大部
分、ニューカレドニア、及びニュージーランドを除外し
てゐる。

増稅案提出

チーフリー蔵相は、二月十一日、下院に總額四千萬磅
の増稅案を提出した。今回の増稅案は、所得税を始め各
種目一率に引上を行ふと共に、所得税の免稅點につき大
幅の引下を行はんとするもので、現在の免稅點年百五十
六磅は、一躍百四磅に引下げられてゐる。

看護婦に登録制

ワース人的資源局長官は、二月五日、メルボルンにお

いて人的資源の確保につき各州代表と協議したが、會議
決定事項に關し次の如く言明した。

「現在不急産業に従事してゐる労働者を可及的に軍
需工業に徵用する方針が具體的に決定された。看護婦
は今後全部人的資源局に登録することとなり、以前看
護婦をしてゐた婦人も同様登録を要する。」

米商品に最惠國待遇

政府は、二月十八日、米國より濠洲へ輸入される一般
商品に對し、爾後最惠國約款を適用する旨發表した。當
局の説明によれば、右の決定は英帝國特惠關稅の原則に
何等低觸するものではないといはれるが、現行稅率に比
しかなりの引下げが行はれるものと見られ、米濠接近の
新しい事實として重視される。

高等辨務官を交換

カーチン首相は、濠洲並にニュージーランド政府は今
回高等辨務官を交換するに決定した旨、二月二十七日發

表した。

ニュージーランド

國防相訪米

フレージャー首相は國防相フレデリック・ジョーンズが
二月二十三日空路米國へ向け出發した旨發表した。ジ
ョーンズは目下アフリカ戦線にあるニュージーランド部
隊を視察する豫定といはれる。

昨年度戰費一億七千五百萬磅

フレージャー首相は、二月三日夜、昨年度戰費總額は一
億七千四百六十四萬三千磅に達した旨發表した。その内
陸、海、空軍の戰費左の通り。

陸軍	九二、一一四、〇〇〇磅
海軍	一一、八二四、〇〇〇磅
空軍	三二、八三四、〇〇〇磅



● 海空軍基地を米國に提供

ナツシュ駐米公使は、二月二十四日、新聞記者團に對し左の如く言明した。

「ニュージールランドは戦争終了前に米國との間には協同防禦網設定に關し協議する用意がある。そして右防禦網の一部として、戦後米國に對し海空軍基地の利用を承認する意向を有してゐる。」

南阿聯邦

義勇軍國外派遣案議會通過

スマツツ首相の提案にかゝる南阿義勇軍國外派遣案は、二月四日、聯邦下院に於て七十五票對四十九票で可決されたが、二月五日同議案は廿一票對六票で上院を通過した。

カナダ

陸海空軍兵力六十萬

トラムブレイ徴兵局長官は、カナダの兵力増強につき、二月十八日左の通り揚言した。

「カナダの陸海空軍兵力は現在約六十萬に達し海軍は約五百隻の艦艇を所有してゐる。しかも一九三九年におけるカナダの總兵力は僅少で、艦艇は十五隻に過ぎなかつた。殊にカナダ空軍の兵力は四千から十五萬に膨脹したが、これはカナダ全人口が僅か一千百萬人に過ぎぬ事實に徴し驚くべき増加であらう。」

對ソ援助実績

首相マツケンジー・キングは、二月二十三日の下院に於て、カナダ政府の對ソ援助に關し次の通り言明した。「カナダは戦車九百臺以上、輸送車二千臺、彈丸二千二百萬發並に小麦その他の食糧衣服、金屬その他の軍需物資をソ聯に送つた。」

アルゼンチン

大統領公認候補はコスタス上院議長

カステイリヨ大統領は、二月十九日の記者團會見席上、今秋の大統領選挙に、パトロン・コスタス現上院議長を與黨國家民主黨の公認候補として推薦することに同意した旨言明した。

「後繼者も中立維持を誓約せよ」

——カステイリヨ大統領聲明書發表——

國粹派有力紙エル・カビルドは、二月二十二日附紙上に、カステイリヨ大統領が同月十九日對外政策に關し特に同紙に對して寄せた聲明書を掲載したが、その要旨は左の通りである。

「現下の國際情勢は我々をして中立か參戰かの歧路

に立たしめたが、斷交は即ち參戰である。我々の國際政策は極めて冷靜なものであつて、無用の紛争にはその局外に立ち、世界萬邦と平和を保つであらう。余はここに更めて中立維持に關する保障の絶對的であることを確認し、いかなる場合に於ても斷乎として中立を維持し、アルゼンチン現在の國際上の立場に變更を加へないことを聲明するものである。余の後繼者たらんとするものは、余のかかる政治的事業を踏襲し、いかなる場合に於てもこれを放棄しないことを保障し、一般國民に對してもこれを誓約すべきである。アルゼンチンの隆昌を期する爲にはこれを除いて他に選ぶべき途はない。」

共産黨取締強化

政府は、アルゼンチンの中立政策を阻害する恐れのある共産黨系諸團體の取締強化に乗り出し、クラシアナ内相は、二月七日、全國地方長官に對しその旨嚴命を發し

たが、既に去る五日以來、全國に互り大々的な共産黨員狩りを實施し、同夜共産黨中央執行委員會の幹部三名を逮捕したほか、同委員會本部に踏み込んで秘密集會中の共産黨員多數を檢擧した。

チリ

内閣改造

社會黨出身の公共事業相マヌエル・ヒゲルゴ、保健相ミグエル・エツケ・バルス、拓相エンリケ・アリアハダの三閣僚並に經濟相ローランド・アリアハダは豫ねて大統領リオスに辭表を提出して居たが、二月四日に至り大統領は辭表を受理し、五日次の通り閣僚を補充した。
保 健 相 エロニモ・メンデツ(急進黨)
拓 務 相 オスワルド・フエンツアリダ(同)
經 濟 相 ロドルフォ・ヤラミロ

公共事業相 リカルド・バスケナン

ブラジル

反樞軸國同盟條約參加

政府は、二月六日の閣議において、反樞軸國同盟條約に正式參加するに決定したが、右は去る一月二十八日の米伯ナタール會談最初の成果とみられる。

アラニア外相對日關係言明

二月八日リオデジヤネイロ發エクステンジ・テレグラフ電によれば、アラニア外相は、二月七日、對日關係につき左の如く言明した。
「ブラジルが大西洋憲章に加入し、反樞軸國同盟條約に加盟したことは、何等對日宣戰布告を意味しない。日本がブラジルを攻撃した事實なく、ブラジルとしても亦日本に對し宣戰した事實がない。尤も日本が

ブラジルを攻撃する場合には敢然これと戦ふであらう。

米洲外兵力派遣に同意

アラニア外相は、二月九日、ブラジル新聞グロボの記者に對し

「ブラジル政府は反樞軸軍の必要に應じてブラジル軍隊を米洲外の戦線に派遣することに同意した。」旨言明した。

海軍豫備兵召集

海軍省は、二月二十八日、北部八州に於ける十八歳から四十歳迄の海軍豫備兵に對し召集令を發した。

ペルー

大西洋憲章加入

政府は、二月七日夜、大西洋憲章の諸原則を受諾し、

これに加入するに決定した旨公表した。

米秘軍事協定確認

政府は、二月十四日の閣議に於て、ペルー領内に米空軍基地を建設する米秘兩國間の軍事協定を確認した。

パラグアイ

モリニコ大統領再選

大統領選挙並に同國憲法の一部改正に関する人民投票は二月十五日舉行されたが、次期大統領にはイヒニオ・モリニコ現大統領が壓倒的多数で再選された。

ウルグアイ

グアニ外相歸國

豫て訪米中であった外相アルベルト・グアニは二月七日ワシントン發、十日ブエノスアイレスに到着した。

新内閣成立

二月二十四日大統領に就任したホセ・アメサカは、同二十八日新内閣の組閣を完了した。その顔觸れ左の通り。

- 外相 相 ホセ・セラト(元大統領)
 - 内相 相 エクトール・ヘロナ(留任)
 - 国防相 相 アルフレド・カンボス將軍
 - 文相 相 アドルフ・ホ・フェリエ
 - 蔵相 相 ペドロ・コシオ
 - 農相 相 マヨ・グチエレス
 - 公共事業相 相 トマス・パロタ
- 尙前外相アルベルト・グアナニは三月一日より副大統領に轉じた。

政府は米英兩國政府に對し大西洋憲章に参加する旨二月十三日通告した。

スペイン

動員令一部緩和

反稱軸軍の佛領北阿侵入直後、政府は、不測の事態勃發に備へて國軍の一部動員を行つたが、今回學徒及び特定職業のものに限り右動員を緩和することになり、二月五日陸軍令を以て次の如く發表した。

- 一、一般大學生並に大學教授は一年に四ヶ月の休暇を與へられ、必要があれば更に休暇期間を延長することも出来る。
- 二、特殊労働者並に工業労働者は一年に三ヶ月の休暇が與へられる。

陸相一行歸還

大西洋憲章加入

ヴェネズエラ

陸相カルロス・アセンシオ大將は過般來參謀總長ガロシア・ヴァリノ大將、スペイン要塞司令官ラドリゲス大佐を帶同、アングルシア及びスペイン領モロッコ方面を視察旅行中であつたが、二月十一日マドリッドに歸還した。

一九二二年生れ男子召集

陸軍省は、二月二十四日附官報を以て、來る三月七日を期して一九二二年生れの全男子を召集する旨發表した。

港灣施設大擴張

政府は、二月六日、豫算五百七十萬五千ペソを以て、大西洋岸のパラオスその他カナリー群島内諸港の棧橋、倉庫、貯水所等港灣施設の大擴張を行ふことに決定した。

西・葡貿易協定成立

過般來西葡兩國間に交渉中であつた貿易及び決済協定は、二月二十二日、スペイン外務省に於てホルダナ西外相及びベレイラ駐西葡大使の間で正式に調印された。右

協定は兩國間貿易關係の強化促進を目的とするので、一九四三年度において相互に二億四千萬エスクドの物資を供給することになつてゐるが、これは昨年兩國貿易額の二倍で、スペイン内亂前に比すれば五倍に達する。

なほ今回の協定にはポルトガル側からの輸出物資には同國植民地產物資が含まれることになつた。この他新協定は西葡兩國の仲繼貿易及びスペインよりの同國船舶によるポルトガルへの石油供給等を規定してゐる。ポルトガル側の輸出物資は、錫、鑛山用木材、マンガン、クロム、アンチヒニ、屑鐵、鯨油、椰子油、蓖麻子油、コブラ、魚油、コーヒ、シザル麻、豆類等で、これに對しスペインは煙草、洋紙、藥品並に化學製品、鉛、鐵製品及び少量の石炭を供給する。また新協定の引渡履行を監督するために兩國混合委員會が設置されることとなつてゐる。

ポルトガル

国防軍司令官任命

政府は、二月十七日、カルロス・ラミレス大將を国防軍司令官に任命した。ラミレス將軍は第一次歐洲大戰の古強者で、以前アソレス駐屯ポルトガル軍司令官であつた。

産業動員令公布

カルモナ大統領は、國際情勢の緊迫に鑑み、萬一の際に備へるため、二月十七日、緊急大統領令を以て次の産業動員令を公布した。

- 一、兩軍軍需産業、郵便、電信、無電局、交通機關、石炭、鐵、銅其他鑛山、發送電施設、液體燃料生産施設、海運、河川航行、港灣施設、化學工業、食糧工業を含む
- 凡ゆる私的産業並に公共事業を戰時産業に指定し、軍

事的基礎の上に置く權限を政府に賦與する。

- 一、以上の私的企業、公共事業に雇傭されてゐる労働者は性別年齢の如何を問はず全部軍事的に組織化する。
- 一、政府はこれ等産業に従事する外人労働者を解雇し、ポルトガル労働者を雇傭せしめることを得る。
- 一、全交通機關に對し統制を實施し、政府官吏の旅行に優先權を與へる。
- 一、戰爭波及の虞ある時は、政府は軍事或は警察當局に對し、陸軍省と協力して郵便、電信、電話の檢閲を實施せしめる。檢閲當局は通信に使用される國語、語法、形式を制限する法令を發し、違反者は逮捕、投獄する權限を有する。

スエーデン

在營期間延長

陸軍は、二月二十日參謀總長テルネル將軍の名を以て、一九四三年度に滿期除隊となる兵士の在營期間を更に六ヶ月延長する旨布告した。海軍及び空軍についても同様の布告が發せられ、更に昨年度入營兵も適用を受けることになつた。

瑞諾通商協定締結

政府は、二月二十五日、ノールウエーとの間に一九四三年の通商協定を締結した。同協定に豫定されて居る貿易量は前年と略々同様だが、スエーデンからは主として野菜、種子、化學製品、礦物、藥品、齒科醫療品、鐵及び鋼鐵製品、機械、機械附屬品等を輸出、ノールウエーからは硫黃、黃鐵礦、石灰、窒素製品、研磨用品、電氣品、アルミニウム、瀝油礦物、鐵及び鋼鐵製品、亞鉛等が輸出される豫定である。

フィンランド

リチ大統領再選

二月十四日國會議事堂で舉行された大統領選挙の結果、全投票三百の中リチ現大統領は二百六十九票を得て再選され、三月一日正式に就任することとなつた。因にフィンランドに於ける大統領の重任は今回が最初である。

尙、リスト・リチ博士は一八八九年フィンランド南部のユイティネンに生れ、辯護士となり、一九二二年から二四年迄蔵相を歴任、二三年から三九年迄十七年間フィンランド中央銀行總裁、三九年首相、四〇年大統領に就任し、現在に至つた。

内閣總辭職

大統領改選に伴ふ憲法上當然の措置として、ランゲル内閣は二月十六日總辭職した。

一九四二年度歳出二百六十億マーク

大藏當局は、二月十六日、戰時財政に關し左の如き報告

を發表した。

「戦前、軍事費は年平均約十億マークであつたが、一九四〇年乃至四二年の三年間には月額約十五億マークを支出し、戦前毎月三千五百萬マークであつた平時費も、一躍八千五百萬マークに膨脹した結果、一九四二年中の歳出は二百六十億マーク、國債現在高は總額三百七十億マークに達するに至つた。」

トルコ

新年度豫算發表

一九四三―四四年度におけるトルコ政府の豫算は四億五千萬トルコ磅に達する旨二月二十三日發表された。前年度に比し五千五百萬磅の増加である。

首相中立政策闡明

サラジヨグル首相は、二月二十一日の議會において、

中立政策を闡明、次の如く述べた。

「トルコ政府の外交政策はあらゆる國と親善關係を維持するにある。この政策は現在までの所非常な成功を示したが、今後ともあらゆる試練に堪へて依然履行されるであらう。即ち獨土兩國の關係は友好不侵略協定の線に沿つて進められ、最近は更に一億マークの借款協定が締結されてドイツから必要軍需資材の供給を受けることとなつた。又英土兩國の關係は、同盟條約を基礎としてをリアダナ會談においては以上の親善關係が再確認された。ソ聯との關係も愈々緊密の度を加へつつあり、一方米國もトルコに對して武器貸與法によつて各種の軍需資材を供給、大きな援助を與へてゐる。」

大統領中立堅持聲明

イノニュー大統領は、二月二十四日、第七次國會選舉を前にトルコ國民に對し長文の聲明を發し、過去四ヶ

年に互る内治外交を検討すると共に、重ねてトルコ政府の嚴正中立堅持の方針を闡明、次の如く述べた。

「政府は今後共歐洲の戦亂に捲き込まれないやう凡ゆる努力を続けるであらう。過去四ヶ年程トルコ國民が國防の強化に努めたことはない。この犠牲とトルコが他國攻撃の野望を有してゐない事實とによつてトルコは今日迄堅實な政策を續けることが出来た。併しトルコは將來我々に強ひられることあるべき如何なる犠牲に對しても警戒と用意を怠つてはならない。國民は、現在交戦中の四十ヶ國のうち三十五ヶ國が何れもその意思に反して戦禍に捲き込まれたといふ事實を忘れてはならない。戦局の進展につれ、事態は更に複雑化し、各國の努力は一層深刻且つ察知し難いものとなりつゝあるが、トルコは何處迄も國土の安全と權益の擁護に當る決意である。しかし中立は一方的な希望によつて確保されるものではない。我々は如何なる不

測の事態にも備へて萬全の準備を固めねばならない。」

獨大使暗殺未遂事件處刑確定

アンカラ控訴院は、トルコ駐獨大使フオン・パーベン氏暗殺未遂事件に連坐したソヴェト人二名並にトルコ人二名の上訴を三月二十五日却下した。これによつてソヴェト人二名の禁錮十六年八ヶ月並にトルコ人二名の禁錮十年のトルコ裁判所の判決が確定した譯である。

土、洪通商協定調印

アダナにおける英土會談に伴ひ、トルコの動向は各方面の深甚な關心の的となつてゐるが、二月一日ブタペストにおいて、トルコ、ハンガリー兩國間に新通商協定が正式調印を了し、同二十四日、更に通商清算協定が正式調印をみた模様である。

右協定によれば、トルコはハンガリーに對し、棉實油、皮革、モヘア織、棉花、阿片、石棉、胡桃及び乾燥野菜を供給、これに對し、トルコはハンガリーに、木材、釘、

紙、紙、布地、磁器、金属品、電気器具、ガス、電気及び水道メーター器、電話器具、電気モーター、農具、藥品等を供給することになつてゐる。

土、羅バーター協定成立

二月九日トルコ・ルーマニア間に物資交流に關する取極めが成立したが、右はトルコよりの棉花、胡椒及び魚油供給に對し、ルーマニアはトルコに石油タンク、貸車、樽、機關車及び電車豫備部分品を供給すべき旨規定してゐる。

イラン

内閣總辭職

ガウツアム内閣は、二月十二日總辭職を決定した。右に關し、テヘラン發ロイター電は、閣僚十五名中の十名が憲法上の權限問題に關し辭表を提出したに起因すると

報じてゐる。

新内閣成立

元首相アリ・ソヘイリは、二月十七日組閣を完了、首相兼内務大臣に就任した。尙、外務、陸軍、大藏、文部、鐵道の各大臣は留任した。

ソヘイリ新首相施政演説

ソヘイリ新首相は、二月十七日、議會において施政演説を行ひ、食糧問題を解決し、物價を安定し、農業、司法、教育上に緒改革を行ふべく努力する旨を述べて後、隣邦諸國との友好關係維持、同盟國との緊密な協力をその外交方針とする旨を聲明した。



昭和十八年三月二十三日印刷
昭和十八年三月二十五日發行

(非賣品)

情報局

印刷者 内閣印刷局